

- 三 諸種ノ内臓疾患ニシテ急治スヘカラサル者
- 四 視力ニ障碍アル者但一年志願兵、士官候補生、軍醫學校生徒、衛生部獸醫部依託學生及同依託生徒志願者ハ近視ニ限り其ノ度ヲ斟酌シテ特ニ合格トナスコトヲ得
- 五 聽機ニ障碍アル者
- 六 咀嚼、言語ノ機能ニ妨アル者
- 七 骨軟部ノ疾患ニシテ急治スヘカラサル者
- 八 諸種ノ癍痕、畸形、缺損等ニシテ醜形甚シク又ハ運動ニ妨アル者

勅令第八十七號 (明治二十五年十月六日)

海軍軍人結婚條例

- 第一條 海軍軍人結婚ヲ爲スニハ將官並同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ上長官士官准士官ニ在テハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二條 各候補生ハ結婚スルヲ得ス
- 第三條 現役下士ハ年齢滿二十五歳以上ニ至ラサレハ結婚スルヲ得ス  
現役卒ハ年齢滿二十五歳以上ニシテ一等卒ニ進級シタル後ニ非サレハ結婚スルヲ得ス
- 第四條 配偶者タルヘキ婦人ハ行狀端正ニシテ年齢十六歳以上ナルヲ要ス

附則

- 第五條 海軍武官結婚條例ハ本條例發布ノ日ヨリ廢止ス

三十三年  
八月勅令  
第三百四  
十五號參  
看

●勅令第二百二十七號 (明治三十一年十月一日)

陸軍戸山學校條例

第一條 陸軍戸山學校ハ學生ニ戰術、射撃、體操並劔術ノ訓練ヲ爲シ以テ各隊教育ノ進歩ヲ圖リ常ニ諸科學術ノ調査研究ヲ爲シ且携帶火兵ノ研究及試験ヲ行フ所トス

第二條 學生ヲ分テ左ノ三種トス

一 戰術科學生ハ歩兵大中尉ヲ以テ之ニ充ツ但時トシテ歩兵少尉或ハ要塞砲兵及工兵士官ヲ以テ學生ト爲スコトアルヘシ

二 射撃科學生ハ歩、騎、砲、工、輜重兵士官ヲ以テ之ニ充ツ

三 體操劔術科學生ハ歩、騎、砲、工、輜重兵士官及下士ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 戰術及射撃研究ノ爲メ時トシテ佐官ヲ召集スルコトヲ得但修學期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第四條 學生ノ訓練ニ供シ且諸般ノ研究ニ充ツル爲メ本校ニ教導大隊ヲ置キ歩兵隊ヨリ下士兵卒ヲ分遣シテ之ヲ編成ス

第五條 本校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長 大中佐

副官 大中尉

教官 中少佐、大中尉、軍醫

教導大隊長 中少佐

教導大隊副官 中尉

教導大隊中隊長 大尉

教導大隊附 中尉

軍醫

軍吏

准士官、下士、判任文官

第六條 校長ハ教育總監ニ隸シ校務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任シ陸軍軍樂學校ヲ管轄ス

第七條 副官ハ校中一般ノ庶務ヲ掌ル

第八條 教官ハ戰術、射撃並體操劍術科學術ノ授業ヲ分擔シ且其各科ニ於ケル學術ノ調査研究並携帶火兵ノ研究及試験ニ任シ各科中高級故參ノ教官ヲ以テ科長トス

第九條 教導大隊ノ大隊長以下ノ服務ハ軍隊内務ノ定則ヲ適用ス

第十條 學生ノ修學期左ノ如シ  
戰術科學生ハ概テ四箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

射撃科學生ハ步兵ニ在リテハ概テ四箇月其他ノ兵科ニ在リテハ概テ二箇月トシ毎年二回ニ分テ入校セシム

體操劍術科學生ハ概テ七箇月トシ毎年一回入校セシム

第十一條 學生ノ人員及入校期日ハ其時々教育總監ノ移牒ニ依リ陸軍大臣之ヲ告達ス

第十二條 學生分遣ノ告達アレハ師團長ハ隊長ヲシテ各科ノ修學ニ適當ノ者ヲ選定シ入校期二十日前ニ其兵籍寫ニ考科表寫ヲ添ヘテ戸山學校長ニ送達セシムヘシ

第十三條 學生士官ハ校外ニ同下士ハ校内ニ居住セシメ修學ニ所要ノ兵器、彈藥、書籍、器具、消耗品ハ貸與又ハ支給スルコトアルヘシ但下士學生ハ所屬隊ヨリ其武器、

被服、裝具ヲ携行セシム

第十四條 學生中ノ願届其他業務ニ關スル諸件ハ總テ校長ノ管理ニ屬ス

第十五條 學生ハ情願ヲ以テ退校スルヲ許サスト雖モ疾病及其他ノ事故ニ依リ學術修得ノ目途ナキ者ハ校長其事由ヲ具シ教育總監ノ認可ヲ請ケ退校セシム

第十六條 校長ハ修學期末ニ於テ各教官ヲ集メ會議ヲ開キ學生修學ノ成績ヲ調査シ教育總監ノ認可ヲ請ケ士官ニ在テハ修得證明書ヲ作り署名捺印シ下士ニ在テハ考科列序表ヲ製シ師團長ヲ經テ本人所屬ノ隊長ニ送付シ又下士ニハ更ニ學術修業ノ證書ヲ附與シ學生ヲ歸隊セシム

第十七條 教導大隊ハ分遣ノ下士ハ現役尙二箇年以上ノ期アル者兵卒ハ前年十二月入營ノ者中ヨリ選拔スヘシ

第十八條 教導大隊ハ分遣ノ下士兵卒ハ所屬隊ヨリ其武器、被服、裝具ヲ携行セシメ分遣中ハ特別ノ徽章ヲ附セシム

第十九條 教官ハ教育上便宜ノ時期ニ於テ隊附勤務ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第二十條 演習上ノ必要ニ依リ砲工學校校馬ヲ使用スルコトヲ得

◎海軍省令第十九號 (明治二十二年七月二十八日)

海軍召集諸費支出規程

第一條 充員召集及大演習召集ニ要スル諸費ハ臨時費ニ屬シ小演習召集ニ要スル諸費及簡閱點呼ニ要スル旅費ハ經常費ニ屬ス

前項ノ費途ハ充員召集ニ在テハ被召集員及吏員ノ旅費郵便電信料及使丁賃ヲ支辨シ演習召集及簡閱點呼ニ在テハ被召集員ノ旅費ヲ支辨ス

第二條 充員召集及演習召集ニ際シ其ノ諸費支出ニ係ル事務ハ晝夜ヲ分タズ之ヲ處辨シ其ノ通達ニハ至急官報ノ電信其ノ他確實迅速ノ方法ヲ用フヘシ

第三條 召集諸費ノ調査ハ毎年一回トス但シ其ノ年ノ概算表金庫ニ到達スル迄ハ前年ノ概算表ヲ有効トス

第四條 郡市長ハ毎年一月一日ニ現在スル其ノ管轄地内ニ於テ充員召集ニ應スヘキ海軍豫備役後備役下士卒ノ召集旅費ヲ計算シ海軍召集旅費概算表(第一様式)ニ通ヲ作り二月十五日迄ニ當該鎮守府ニ送付スヘシ

前項ノ概算表送付ノ後被召集員増加シ旅費額不足ノ爲メ支給上支障アリト認ムルトキハ更ニ増加人員ニ對スル旅費ヲ計算シテ召集旅費追加概算表(第一様式ニ準ス)一通ヲ作り送付スヘシ

第五條 市長ハ前條第一項ノ概算表ヲ送付スルト同時ニ海軍豫備役後備役下士卒召集旅費人別表(第二様式)ヲ作り當該稅務署長ニ送付スヘシ

前項ノ召集旅費人別表送付ノ後被召集員ニ増減異動ヲ生シタルトキハ増減ニ在テハ召集人別増減表(第二様式ニ準ス)ヲ作り異動ニ在テハ異動報告書(様式適宜)ヲ作り送付スヘシ

第六條 郡長及稅務署長 召集諸費ノ支出ヲ掌ル稅 充員召集ニ際シ召集諸費支出ニ稅務署長ヲ云フ以下同シ

要スル吏員ノ旅費郡市役所稅務署町村役場戸長役場及之ニ準スヘキモノニ要スル郵便電信料及使丁賃ヲ計算シテ召集諸費概算表(第二様式)一通ヲ作り二月十五日迄ニ當該鎮守府ニ送付スヘシ但シ市役所ニ於テ要スル郵便電信料及使丁賃ハ當該稅務署ノ計算ニ併セ其ノ他ニ於テ要スルモノハ當該郡役所ノ計算ニ併スルモノト

ス

第七條 地方長官、警視總監、憲兵隊長 東京府ニ在テハ憲兵 充員召集ニ際シ憲兵、

警察官吏ノ出張旅費、道廳、府縣廳、警視廳、警察署、警察分署、巡查駐在所、巡查派出所、憲兵司令部、憲兵隊本部、憲兵分隊本部、憲兵分隊支部、憲兵屯所、憲兵分屯所ニ要スル郵便電信料使丁賃ヲ計算シテ召集諸費概算表(第三様式)一通ヲ作り二月十五日迄ニ當該鎮守府ニ送付スヘシ

第八條 鎮守府司令長官ハ前各條ノ概算表ヲ受領シタルトキハ之ヲ調査シ更ニ海軍召集諸費概算表(第四様式)一通ヲ作り三月三十一日迄ニ海軍省ニ差出スヘシ但シ追加概算表ヲ受領シタルトキハ更ニ海軍召集諸費追加概算表ヲ作り其ノ時々差出スモノトス

第九條 海軍省ハ毎年一月一日ニ現在スル海軍豫備役後備役准士官以上ノ召集旅費ヲ計算シ第四條ニ準シテ海軍召集旅費概算表ヲ作り之ニ前條ノ概算表ヲ併セテ更ニ海軍召集諸費概算表(第五様式)ヲ作り四月三十日迄ニ大藏省ニ送付ス

前項ノ概算表送付ノ後追加概算表ヲ受領シ若ハ之ヲ作りタルトキハ前項ニ準シ更ニ海軍召集諸費追加概算表ヲ作り其ノ時々之ヲ送付ス

第十條 召集諸費ノ委任仕拂命令官ハ海軍省ニ在テハ經理局第一課長鎮守府ニ在テハ鎮守府經理部長トス

第十一條 召集諸費ノ出納官吏 現金ノ前渡ヲ受クル官吏ヲ云フ以下同シハ海軍省經理局課僚、郡長、稅務署長、及道廳、府縣廳、警視廳、憲兵隊ノ主任官吏トス但シ本條ノ外必要ト認ムルトキハ 郡書記北海道ニ在テハ支廳屬、島嶼ニ在テハ、島廳書記、市稅務屬其ノ他ノ官吏キハ 制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區書記以下同シ 二分任出納官吏ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該所屬長官之ヲ命免スヘシ

第十二條 地方長官、警視總監、憲兵隊長、稅務管理局長ハ前條出納官吏ノ官職氏名ヲ當該委任仕拂命令官ニ通知シ當該委任仕拂命令官ハ之ヲ海軍省經理局長ニ報告スヘシ爾後異動アルトキ亦同シ但シ分任出納官吏ノ官職氏名及第二十一條ニ據リ出納官吏代理者ヲ命免シ又ハ計算書調製者ヲ任命シタルトキハ召集終ルノ後之ヲ

通知スヘシ

本條第一項ニ據リ通報スル出納官吏ノ氏名ニハ其ノ氏名ノ右傍ニ片假名ヲ付スヘシ

第十三條 出納官吏ハ左ノ區分ニ從ヒ召集諸費ノ支出ヲ擔任スヘシ

- 一 海軍省經理局課僚 准士官以上ノ召集旅費
  - 二 郡長稅務署長 下士卒ノ召集旅費、第六條ノ旅費、郵便電料及使丁賃
  - 三 道廳、府縣廳、警視廳、憲兵隊ノ主任官吏 第七條ノ旅費郵便電料及使丁賃
- 第十四條 地方長官ハ平時ニ於テ郡市長ヲシテ召集旅費支給場ノ位置ヲ定シメ其ノ支給場ニ於テ支給スヘキ地方區域ヲ管内ニ告示シ且ツ當該鎮守府海兵團長ニ通知スヘシ

第十五條 召集旅費ヲ支給スヘキ出納官吏ハ平時ニ於テ爲シ得ル限り旅費支給ノ準備ヲ爲シ置クヘシ其ノ下士卒ニ關スルモノハ平時ニ於テ海軍召集旅費領收證書(第六様式)ヲ作り置クヘシ

第十六條 海軍省經理局長ハ平時ニ於テ召集諸費ノ豫算要求書及仕拂豫算書ヲ作り置キ充員召集ニ際シ豫算要求書ハ大藏大臣ニ送付ノ手續ヲ爲シ裁定濟ノ通知ヲ得タルトキハ即時仕拂豫算ヲ委任仕拂命令官ニ令示シ仕拂豫算書ハ之ヲ大藏大臣及會計検査院ニ送付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條 委任仕拂命令官ハ前條ノ豫算令示ニ基キ概算表ノ金額ヲ目途トシ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ委任仕拂命令官所在地外ノ出納官吏ニ對シ電信ノ便アルモノハ必ス電信送金ト爲スヲ要ス

第十八條 委任仕拂命令官ハ演習召集ニ際シテハ其年度ノ經費豫算ニ基キ前條ニ準シ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スヘシ

第十九條 出納官吏ハ前二條ノ仕拂命令ニ對スル現金ヲ受領シ所要ノ仕拂ヲ爲スヘシ其ノ下士卒ニ召集旅費ヲ支給スルトキハ海軍召集旅費領收證書氏名ノ下ニ捺印セシムヘシ若シ印章ヲ携帯セサル者アルトキハ拇印セシムルモ妨ナシ  
領收證書ニ記載シタル者ニシテ召集セラレサル者若クハ召集ニ應セサル者等ノ爲

メ旅費ヲ支給セサル者アルトキハ其ノ氏名ニ朱ノ二線ヲ畫シ消印スヘシ

第二十條 出納官吏ハ召集終ルノ後一箇月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ仕拂證明規程ニ據リ仕拂計算書ヲ作り證憑書類ヲ添へ當該委任仕拂命令官ニ送付スヘシ其ノ仕拂殘金ハ當該委任仕拂命令官ノ返納告知書ヲ得テ金庫ニ納付スヘシ

分任出納官吏ノ仕拂計算書及證憑書類ハ主任出納官吏ニ提出シ該官吏ハ自己ノ計算ニ併算スルモノトス

第二十一條 出納官吏、分任出納官吏ニシテ海軍部外ノ官廳ニ屬スル者事故ニ因リ代理ヲ要スルトキ其ノ代理者ノ命免、會計規則第九十一條第九十二條及第百條ニ據リ要スル検査員、立會員、若ハ計算書ヲ調製セシムヘキ者ノ任命ハ當該所屬長官之ヲ執行スヘシ

會計規則第九十三條ノ檢定書ハ海軍省ニ差出スヘシ

第二十二條 召集旅費ヲ受領シ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ因リ出發セサル者アルトキ

ハ該旅費ノ徵收ヲ委任仕拂命令官ヨリ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第二十三條 被召集員ニシテ召集旅費ノ支給ヲ受ケスシテ直ニ召集地ニ參著シタル者アリタルトキハ海兵團ニ於テ旅費ヲ支給シ其ノ旨當該鎮守府經理部ニ報告シ鎮守府經理部長ハ之ヲ當該出納官吏ニ移牒スヘシ

第二十四條 簡閱點呼旅費ハ簡閱點呼執行官ヲ出納官吏トシ委任仕拂命令官ハ普通ノ手續ニ據リ之ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スヘシ但シ簡閱點呼執行官ニ主計官ヲ附スルトキハ該主計官ヲ出納官吏ト爲スヘシ

第二十五條 郡市長ハ簡閱點呼召集所決定シタルトモハ被點呼者ノ現住地ヨリ簡閱點呼召集所ニ至ル里程ヲ計算シ置キ其ノ他旅費支給ノ準備ヲ整ヘ簡閱點呼執行官若ハ簡閱點呼執行官附主計官到達ノトキ其ノ用ニ供スヘシ

附則

第二十六條 此ノ規程中郡市長ノ職務ハ島司支廳長若ハ之ニ準スヘキ者、東京市京都市大阪市及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長之ヲ行フ

第二十七條 明治二十七年海軍省令第八號海軍臨時召集旅費支出規程及同年海軍省訓令第一號ハ此ノ規程施行ノ日ヨリ廢止ス

本年ニ限リ第六條及第七條ノ期限ヲ十月十五日第八條ノ期限ヲ十一月三十日第九條ノ期限ヲ十二月二十八日ト定ム

第一様式 (用紙美濃十三行罫紙)

海軍召集旅費概算表

明治 年 月 日

何府縣何郡役所

合計	被召集員	旅	費	支出金庫	出納官吏官職	下士卒





吏員旅費	
郵便電信料	
使丁賃	
合計	

備考  
 一 吏員旅費ハ明治三十年勅令第三百三十三號内國旅費規則又ハ當該官署特定ノ規則ニ據リ算出スルモノトス

第四様式 (用紙美濃十三行罫紙)

海軍召集諸費概算表

明治 年 月 日

何鎮守府

府縣	應	名	區	分	金	額	支	出	金	庫	出	納	官	吏	官	職
----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

府		何														
合計	計	何市役所 召集旅費	計	何府廳	計	何郡役所			吏員旅費	郵便電信料						
						使丁賃	郵便電信料	吏員旅費			召集旅費					

何	縣		何	計	府	何	府縣
	計	額					
何	計	額	何	計	府	何	府縣
郡			市			區	金
市			區			金	額
區			支			出	金
金			庫				
額							
支							
出							
金							
庫							

備考

一 警視廳、稅務署、憲兵隊等ハ所在府縣ノ欄ニ掲クルモノトス

第五樣式 (用紙美濃紙)

海軍召集諸費概算表

明治 年 月 日

海軍省

何	縣		何	計	府	何	府縣
	計	額					
何	計	額	何	計	府	何	府縣
郡			市			區	金
市			區			金	額
區			支			出	金
金			庫				
額							
支							
出							
金							
庫							





年月日

官(職) 姓

名 印

海軍大臣(所管長官)宛

前書ノ趣不都合無之ニ付御許可相成度候也

年月日

所管長官(所轄長)姓名 印

書式

身元證書

何府縣何國何郡市區何町村何番地

華士族平民

何某何女(姉)(妹)

某

右ハ行狀端正ノ者ニ付此段保證候也

年月日 何府縣何郡市區何町村長 姓名 印

第二條 各軍人ノ結婚ハ條例ニ依リ許可ヲ得タル後普通人事ノ手續ヲ爲スモノトス

第三條 結婚整ヒタルトキハ其旨速ニ准士官以上ハ海軍大臣ニ届出下士卒ハ所管長

官ニ届出ヘシ

●勅令第二百二十四號 (明治三十一年六月二十二日)

海軍下士卒服役條例

第一章 下士卒ノ服役

第一款 通則

第一條 下士卒ノ服役ハ現役豫備役及後備役ノ三種トス其ノ服役ヲ終リタルトキハ

第一國民兵役ニ服セシム

第二條 艦團要港部病院學校及練習所勤務ノ下士卒ハ各其ノ艦團要港部病院學校及

練習所内ニ居住セシムルヲ例トス

第三條 下士卒ノ服役年限年齢ハ四十五年トス

卒ノ服役年限年齢ハ四十年トス

第四條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖戰時或ハ事變ニ際スルトキ若ハ臨時ニ演習等

ノ舉アルトキ若ハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其ノ期限ヲ延ハスコトアルヘシ其ノ服

役年期ノ計算ハ延期セサル者ニ同シ

第五條 徵兵ニシテ再服役ヲ志願シ認可ヲ得再服役ヲ爲ストキハ之ヲ志願兵籍ニ編

入ス

第六條 下士卒ノ現役又ハ兵役ヲ免セントスルトキハ先ツ之ヲ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團ニ入團セシメ鎮守府司令長官之ヲ免ス

第二款 現役

第七條 現役下士卒ハ鎮守府ノ兵籍ニ編入シ現役期限滿ツル迄服役セシム

現役下士卒ノ兵籍ハ在籍鎮守府ノ兵事官ヲシテ之ヲ管セシム

第八條 現役下士ノ服役期限ハ下士ニ任用セラレタル日ヨリ起算シ六箇年現役卒ノ服役期限ハ兵籍ニ入りタル日ヨリ起算シ八箇年トス但シ服役中定限年齢ニ達スル者ニ付テハ其ノ定限迄トス

第九條 現役下士卒ハ前條ノ服役期限滿ツルモ服役定限年齢ニ達スル迄ハ數次再服役ヲ請フコトヲ得

第十條 再服役ヲ爲サント欲スル者ハ三箇年ヲ一期トシ之ヲ請フヘシ但シ別ニ勅令ヲ以テ定ムル服役ノ義務アル者ニ在テハ其ノ義務終ル迄ヲ一期ト爲スコトヲ得三箇年以内ニ服役定限年齢ニ達スル者ニシテ再服役ヲ爲サント欲スル者ハ定限年齢迄之ヲ請フヘシ

第一項但書ノ場合ニ於テ一箇年ニ滿タサル端數ヲ生スルトキハ一箇年ニ滿タヌヲ

要ス

第十一條 再服役ハ志操確實身體強壯品行善良ニシテ技能優等ナリト艦團要港部其ノ他各部ノ長ノ確認シタル者ニアラサレハ許可スルコトヲ得ス

第十二條 再服役ハ艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ滿期ノ前前月中ニ出願スヘシ

第十三條 艦團要港部其ノ他各部ノ長ハ部下下士卒ノ現役滿期ト爲ル者ヲ調査シ其ノ再服役志願者ニ就キ第十一條ニ適合スル者ナルトキハ在籍鎮守府ノ司令長官ノ承認ヲ經滿期ノ前月中ニ之ヲ許可スヘシ

再服役ヲ許可シタルトキハ其ノ旨本人ノ履歷ニ記入シ且ツ誓約書ヲ出サシメ之ヲ在籍鎮守府ノ兵事官ニ送付スヘシ

第十四條 航海又ハ其ノ他ノ事故ニ因リ前條ノ期限内ニ再服役許可ノ手續ヲ履行スル能ハスト認ムルドキハ豫メ其ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第十五條 現役下士卒服役中本人ヲ要スルニ非サレハ家族自活シ能ハサル者アルトキハ現役ヲ免シ豫備役ニ服セシムルコトヲ得

前項ニ依リ免役ヲ願出ントスル家族ハ其ノ願書ニ市町村長ノ事實審査書ヲ添へ地方廳ヲ經テ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ願出ヘシ

鎮守府司令長官ハ之ヲ許否スルニ先チ兵事官ヲシテ之ヲ審査セシムヘシ但シ服役中(下士ニ在テハ卒服役中ヲモ包含ス)分家若ハ絶家廢家再興ノ爲又ハ養子若ハ入夫ト爲リタル爲免役ノ必要ヲ生シタル者ナルトキハ許可スルノ限ニアラス

第十六條 現役下士卒服役中傷痍若ハ疾病ノ爲現役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ本人在籍鎮守府ノ司令長官其ノ現役ヲ免シ豫備役若ハ第一國民兵役ニ編入ス永久服役ニ堪ヘ難キ者ニ付テハ同長官其ノ兵役ヲ免ス但シ五等卒ノ教育ヲ卒ラサル徵兵ニシテ傷痍若ハ疾病ノ爲現役ニ堪ヘ難キ者ニ在テハ補充兵役ニ服セシム

前項ニ依リ現役若ハ兵役ヲ免スヘキ者アリト認ムルトキハ艦團要港部其ノ他各部ノ長(入院中ノ者ナル)之ヲ所管長官ニ上申シ所管長官ハ之ヲ本人在籍鎮守府ノ司令長官ニ移牒シ該長官ハ之ヲ審査シ現役若ハ兵役ヲ免ス此ノ場合ニ於テハ本人ヲ海兵團ニ入團セシメサルコトヲ得

第十七條 現役中禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者若ハ允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタル者ニ對シテハ其ノ刑期日數又ハ逃亡中ノ日數若ハ歸期ニ後レタル日數ヲ現役年數ニ算入セス

第十八條 現役下士卒ノ父母重症ニ罹リ若ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近鄰戸主一人以上ヨリ其ノ連署ノ願書ニ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ醫師ノ診斷書若ハ死亡證ヲ添ヘ艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ本人ノ歸郷ヲ願出ルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ艦團要港部其ノ他各部ノ長ハ審査ノ上往復ヲ除キ十四日以内ノ日數ヲ限リ其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第三款 豫備役及後備役

第十九條 豫備役後備役下士卒ハ本籍所在ノ海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府ノ兵籍ニ編入シ兵事官ヲシテ其兵籍ヲ管セシム

第二十條 豫備役下士トハ現役ヲ免セラレタル下士ニシテ豫備役ニ服スル者並海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十八條ニ依リ豫備役一等ヨリ下士ニ任セラレタル者及同條例第十七條ニ依リ一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ニシテ豫備役ニ服スル者ヲ謂フ

後備役下士トハ海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十八條ニ依リ後備役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者並同條例第十七條ニ依リ徵兵ノ豫備役一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者及同條例第十七條ニ依リ徵兵ノ一等卒ヨリ下士ニ任セラレタル者ニシテ豫備役ヲ終リ後備役ニ服スル者ヲ謂フ



海軍下士卒服役條例

シ六

第二十一條 豫備役下士ノ服役期限ハ現役ニ服シタル年月(卒トシテ服役シタル年月ヲモ包含ス)ヲ通算シ滿十六箇年ニ達スル迄トス但シ其ノ豫備役ニ入リタル後四箇年ニ達シタル者ニシテ現役ニ服シタル年月(卒トシテ服役シタル年月ヲモ包含ス)ヲ通算シ十二箇年ヲ過キタルトキハ豫備役ヲ免ス

第二十二條 海軍准士官下士任用進級條例第十六條第十七條及第十八條ニ依リ下士ニ任セラレタル者ノ服役期限ハ下士ニ任セラレサルトキト同シ

第二十三條 豫備役卒トハ現役ヲ免セラレタル卒ニシテ豫備役ニ服スル者ヲ謂フ後備役卒トハ後備役ニ服スル徵兵ノ卒ヲ謂フ

第二十四條 豫備役卒ノ服役期限ハ四箇年ニシテ豫備役編入ノ日ヨリ起算ス但シ再服役滿期若ハ第十五條及第十六條ニ依リ豫備役ニ入ル者ノ服役期限ハ其ノ服役シタル年月ヲ通算シ十二箇年トス

第二十五條 下士ニシテ現役ヲ離ルルトキ服役滿十六箇年以上ニ達スル者及第十六條又ハ第二十六條ニ依リ現役豫備役或ハ後備役ヲ免シ第一國民兵役ニ編入シ若ハ

兵役ヲ免スル下士ニ付テハ同時ニ其ノ官ヲ免シ志願兵ヨリ下士ニ任用セラレ豫備役滿期ノ者及後備役滿期ノ下士ニ付テハ別ニ辭令ヲ用キシテ其ノ官ヲ免スルモノトス此ノ場合ニ於テ年齡滿四十年ニ達セサル者ニ在テハ四十年ニ達スル迄第一國民兵役ニ入ルモノトス

豫備役後備役卒服役滿期ニ至リタルトキハ別ニ命ナクシテ豫備役ニ在リタル徵兵ハ後備役ニ後備役ニ在リタル者ハ第一國民兵役ニ豫備役ニ在リタル志願兵ニシテ年齡四十年ニ達セサル者ハ第一國民兵役ニ入ルモノトス

第二十六條 豫備役後備役下士卒傷疾若ハ疾病ニ由リ各其ノ服役ニ堪ヘ難キ者ハ第一國民兵役ニ服セシメ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

前項ニ依リ服役ニ堪ヘスト思惟スル者ハ軍醫官ノ診斷書若ハ地方醫師ノ病狀書ヲ添ヘ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ地方廳ヲ經テ在籍鎮守府ノ司令長官ニ届出ヘシ

第二十七條 現役ヨリ豫備役ニ入リタル下士卒ハ十四日以内ニ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團所在地(第十六條第二項ニ依リ入團セシメタル地)ヲ出發シ一日行程十里詰ヨリ

尠カラサル日數間ニ歸郷シ著後十四日以内ニ市町村長ヲ經テ本人ノ籍ヲ管スル海兵團長ニ届出ヘシ

海軍下士卒服役條例

海軍下士卒服役條例

シ七

滞在若ハ旅行ノ爲前項ノ日數間ニ歸郷シ難キトキハ召集通報人ヲ定メ前項ノ出發期日内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

第二十八條 削除

第二十九條 豫備役後備役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

第三十條 豫備役後備役下士卒ハ戰時若ハ事變ニ際シ之ヲ召集シ平時ニ在テハ簡閱點呼又ハ演習ノ爲召集スルコトアルヘシ

第三十一條 削除

第三十二條 豫備役後備役下士卒已ムヲ得サル事故アリ演習召集ノ猶豫又ハ簡閱點呼召集ノ免除ヲ願ハント欲スルトキハ其ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ在籍鎮守府ノ司令長官ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ鎮守府司令長官ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第三十三條 豫備役後備役下士卒外國ニ在リ召集ノ通報ヲ受ケ又ハ充員召集ノ擧アルコトヲ確知シタルトキハ直ニ歸朝シ歸著後二十四時間以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

第二十四條 豫備役後備役下士卒ニシテ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル文官並市町村長、助役、收入役及餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル其ノ他ノ公吏タルトキ及外國ニ在ルトキハ演習及簡閱點呼ノ爲召集スルコトナシ

法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員タルトキ其ノ開會中亦同シ

第三十五條 豫備役後備役下士卒ニシテ市町村長、助役、收入役ト爲リ又ハ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員ト爲リタルトキ並之ヲ罷メタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

第三十六條 豫備役後備役下士卒ニシテ死亡又ハ失踪シタル者アルトキ及失踪中戸籍ヲ轉換シタルトキハ十四日以内ニ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ市町村長ヲ經テ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ失踪者ノ歸郷シタルトキ若ハ其ノ所在ヲ知得シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ家族ナキトキハ市町村長ヨリ本人ノ籍ヲ管スル海兵團長ニ通知スヘシ

第三十七條 豫備役後備役下士卒重罪輕罪(罰金ヲ除ク)ノ刑ニ處セラレタルトキハ刑名及刑期ヲ記シ其ノ戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ

在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ  
前項ノ場合ニ於テ家族ナキトキハ市町村長ヨリ本人ノ籍ヲ管スル海兵團長ニ通知スヘシ

第三十八條 豫備役後備役下士卒正當ノ事由ナク召集ニ應セサルトキ又ハ召集中逃亡シ若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ又ハ犯罪ノ爲召集ヲ缺キタルトキハ其ノ年ヲ服役年期ニ算入セス

第三十九條 第二十七條第二十九條第三十三條第三十五條第三十六條第一項第三十七條第一項ノ届出ヲ爲ササル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス但シ交通不便若ハ天災ノ爲本文ノ届出ヲ爲シ能ハサルトキハ此限ニアラス

第四十條 削除

第二章 雜則

第四十一條 豫備役後備役下士卒ニシテ文官ニ任セラレ若ハ公吏ト爲リ餘人ヲ以テ代フヘカラサル者又ハ運輸通信等ノ事業ニ從事シ戰役ニ關シ必要ナル職務ヲ執ル者ハ海軍大臣ヨリ上裁ヲ經テ充員召集ヲ猶豫スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ理由ヲ附シ本人ヲ要スル官廳公署若ハ會社船主等ヨリ海軍大臣ニ願出ヘシ

第四十二條 徵兵令第二十四條及本條例第三十四條ノ餘人ヲ以テ代フヘカラサル職務ヲ奉スル者ハ豫メ當該官廳ヨリ内閣ニ具狀シ演習及簡閱點呼召集免除ノ認可ヲ受ケ在籍鎮守府ノ兵事官ニ通報スヘシ其ノ事故止ミタルトキ亦同シ

第四十三條 現役下士卒兵籍上異動ヲ生シタルトキハ其戸主(本人戸主ナルトキハ家族中家事ヲ擔當スル者)ヨリ本籍所在ノ市町村長ヲ經テ本人在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ兵事官ハ之ヲ本人ノ屬スル艦團要港部其ノ他各部ノ長ニ通知スヘシ

第四十四條 下士卒ノ服役ニ關スル年齢ハ海軍兵籍ニ登載セル誕辰ノ月ヨリ起算ス  
第四十五條 下士卒現役若ハ召集中刑ニ處セラレタルトキハ艦團要港部其ノ他各部ノ長ヨリ本人在籍ノ地方廳ニ通知ス

地方廳ニ於テ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ市町村長ニ達シ本人ノ家族ニ通達セシムヘシ

第四十六條 本條例ニ依リ町村長ヲ經由スヘキ書類ハ島司郡長支廳長又ハ之ニ準スヘキ者ヲモ經由スヘシ

第四十七條 市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本條例中市町村長ノ職務ハ區長戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

海軍下士服役條例

シ一一終

第四十八條 徵兵ニ關シテハ徵兵令及徵兵事務條例ニ規定ナキモノニ限リ本條例ヲ適用ス

附則

第四十九條 明治二十二年勅令第五十六號海軍下士服役條例同年勅令第五十七號海軍下士卒再服役條例及明治二十九年勅令第三百二號ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

第五十條 本條例ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●勅令第三百二十七號 (明治三十年九月二十一日)

海軍兵學校條例

第一條 海軍兵學校ハ海軍將校ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所トス

第二條 海軍兵學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ砲術水雷術運用術航海術機關術及普通學トス

第三條 海軍兵學校ニ左ノ職員ヲ置ク

校長

副官

教頭

砲術教官

水雷術教官

運用術教官

航海術教官

機關術教官

普通學教官

三十三年  
五月勅令  
第二百二十七號參  
看

監事長

監事

軍醫長

主計長

前項ノ外海軍軍醫官及大主計ヲ置ク

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

第六條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス

第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス

第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌  
ル

第九條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル

第十一條 第三條第二項ニ掲クル軍醫官ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル

第十三條 第三條第二項ニ掲クル大主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス

第十四條 海軍兵學校ニハ第三條ニ掲クル職員ノ外海軍兵曹長同相當官並准士官下

士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム

第十五條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十年以下ニシテ海軍將校タランコトヲ志願

スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス

第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

一 有妻ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

三 復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人

四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人

第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ  
告示ス

第十八條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス

第十九條 生徒ノ學年ハ三箇年トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコト

ヲ得

三十一年  
八月勅令  
第九十五號參  
看

- 第二十條 卒業試験ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
- 第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
  - 一 將校タルヘキ器量ニ乏キ者
  - 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
  - 三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者
  - 四 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

附則

本令ハ明治三十年十二月一日ヨリ施行ス

●海軍省達第六十一號 (明治二十二年三月二十日)

海軍兵學校規則

- 第一條 校長ハ海軍兵學校條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ
  - 第二條 校長ハ海軍兵學校條例第二十二條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ開キ審議ノ上海軍教育本部長ニ具申スヘシ
  - 第三條 校長ハ大試験ノ成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
  - 第四條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍教育本部長ニ進達スヘシ
  - 第五條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ
  - 第六條 校長ハ夏期冬期休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得
  - 第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ檢査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ豫定ノ人員ヲ採用シ之ニ入校ヲ命ス
- 校長ハ入校ニ際シ更ニ體格ノ檢査ヲ行ヒ不合格ノ者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ入校ノ命ヲ取消シ次點者ヲ採用シ但シ己ムヲ得サル事情ニ因リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認メタルトキ

三十三年  
六月達第  
百號參看

ハ之ヲ採用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 校長ハ入校及其ノ他ノ試験問題ヲ定ム

第九條 學年ハ三學年ニ分チ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル

第十條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌

年一月九日マテヲ冬季休業トス但シ教授上ノ都合ニ依リ前記休業日數ヲ短縮スル

コトヲ得

第十一條 大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ且學術優等ノ者若ハ品行特

ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第十八條ニ規定スル學術優等章若ハ品行

善良章ヲ與フ

第十二條 學術優等章ヲ有スル者ニハ大試験ニ落第スルカ又ハ品行善良章ヲ有スル

者ニシテ本校生徒懲戒則若ハ海軍懲罰令ニ觸ル、コトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十四條 大試験ニ落第シタルモ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ目途アル者ニハ一學

年ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フコトヲ得

傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ニ報告シ本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十五條 前條ノ延期ハ一學年ニ止マルト雖傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ

依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコト

ヲ得

第十六條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験ニ際シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ

受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第十七條 本校ニ敎授用トシテ船艇ヲ附屬ス

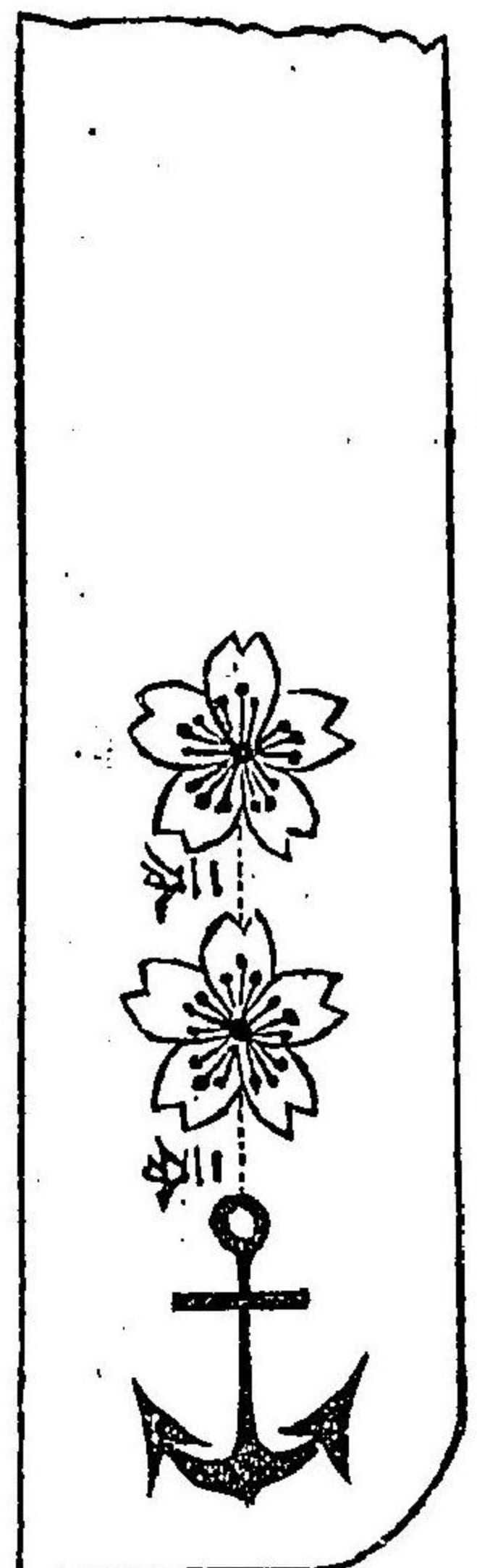
第十八條 本則第十一條ニ掲クル徽章ハ軍服ニノミ附著スル者ニシテ其ノ制式ハ左

圖ノ如シ但シ學術優等章ハ金モール品行善良章ハ銀モールヲ以テ左右襟ニ附著セ

シムルモノトス

形 原

第一期ノ花  
第二期ノ花  
第三期ノ花



(原圖三分ノ二縮寫)

學術優等章  
「直径五分ノ金」  
「直径五分ノ銀」  
品花  
品花  
「直径五分ノ銀」  
「直径五分ノ金」

●勅令第三百二十三號 (明治三十年九月三日)

海軍機關學校條例

- 第一條 海軍機關學校ハ海軍機關官ト爲スヘキ生徒ヲ教育スル所トス
- 第二條 海軍機關學校ニ於テ教授スヘキ學科ハ機關術水雷術及普通學トス
- 第三條 海軍機關學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 副官
- 教頭
- 教官
- 監事長
- 監事
- 軍醫長
- 主計長

前項ノ外海軍中少軍醫及中少主計ヲ置ク

第四條 校長ハ海軍教育本部長ニ隸シ軍紀風紀ヲ維持シ校務ヲ總理ス

海軍機關學校條例

三十三年  
五月勅令  
第二百二  
十八號參  
看



三十一年  
八月勅令  
第九十  
六號參看

- 第五條 副官ハ校長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス
- 第六條 教頭ハ校長ノ命ヲ承ケ教務ヲ監督ス
- 第七條 教官ハ教頭ノ命ヲ承ケ各學科ノ教授ヲ擔任ス
- 第八條 監事長ハ校長ノ命ヲ承ケ生徒ヲ監督シ紀律ヲ維持シ又體育ニ關スル事ヲ掌ル
- 第九條 監事ハ監事長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十條 軍醫長ハ校長ノ命ヲ承ケ醫務衛生ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十一條 第三條第二項ニ掲クル中小軍醫ハ軍醫長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十二條 主計長ハ校長ノ命ヲ承ケ會計給與ニ關スル事ヲ掌ル
- 第十三條 第三條第二項ニ掲クル中小主計ハ主計長ノ命ヲ承ケ服務ス
- 第十四條 海軍機關學校ニハ第三條ニ掲クル職員ノ外海軍機關兵曹長並准士官下士卒及判任文官ヲ置キ各上官ノ命ヲ承ケ服務セシム
- 第十五條 生徒ハ年齡滿十六年以上滿二十一年以下ニシテ海軍機關官タランコトヲ志願スル者ニ就キ檢査ヲ行ヒ所要ノ人員ヲ採用ス
- 第十六條 左ノ諸項ノ一ニ該ル者ハ生徒ニ採用セス

- 一 有妻ノ者
  - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者若ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
  - 三 復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
  - 四 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人
- 第十七條 生徒ノ召募及檢査格例ハ毎年海軍大臣ノ認可ヲ經テ海軍教育本部長之ヲ告示ス
- 第十八條 生徒ハ入校ノ日ヨリ海軍兵籍ニ編入ス
- 第十九條 生徒ノ學年ハ三年四箇月トス但シ戰時若ハ事變ニ際シテハ之ヲ短縮スルコトヲ得
- 第二十條 卒業試驗ニ及第シタル生徒ニハ卒業證書ヲ授與ス
- 第二十一條 生徒ハ情願ヲ以テ退校スルコトヲ得ス
- 第二十二條 生徒左ノ諸項ノ一ニ該ルトキハ之ヲ退校セシム
- 一 海軍機關官タルヘキ器量ニ乏キ者
  - 二 品行不良或ハ怠惰ニシテ訓戒ヲ加フルモ改悛セサル者
  - 三 試験ノ成績不良ニシテ卒業ノ目的ナキ者

四 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ先途役務ニ堪ヘ難シト認ムル者

附則

本令ハ明治三十年十二月一日ヨリ施行ス

●海軍省達第六十二號 (明治三十二年三月二十日)

海軍機關學校規則

第一條 校長ハ海軍機關學校條例及本則ニ依リ教務及服務ニ關スル諸規程ヲ設ケ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ之ヲ實施スヘシ

第二條 校長ハ海軍機關學校條例第二十二條ニ該當スト認ムル者アルトキハ會議ヲ

開キ審議ノ上海軍教育本部長ニ具申スヘシ

第三條 校長ハ大試驗及卒業試驗ノ成績表ニ意見ヲ附シ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第四條 校長ハ每學年ノ終ニ於テ教育報告ヲ海軍教育本部長ニ進達スヘシ

第五條 校長卒業證書授與式ヲ舉行セントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 校長ハ夏期冬期休業中生徒ニ外宿ヲ許スコトヲ得

第七條 校長ハ入學志願者ノ體格及學術ノ檢査ヲ行ヒ其ノ成績ヲ勘査シ成績順序ヲ定メ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ豫定ノ人員ヲ採用シ之ニ入校ヲ命ス

校長ハ入校ニ際シ更ニ體格ノ檢査ヲ行ヒ不合格ノ者及入校ノ時期ニ後レタル者アルトキハ海軍教育本部長ノ認可ヲ經テ入校ノ命ヲ取消シ次點者ヲ採用ス但シ己ム

三十三年  
六月省令  
第一百號  
參看

ヲ得サル事情ニ因リ入校ノ期ニ後レタル者ニシテ授業ニ支障ナシト認めタルトキハ之ヲ採用スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ハ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第八條 校長ハ入校及其ノ他ノ試験問題ヲ定ム

第九條 學年ハ三學年ニ分チ第一及第二學年ハ毎年一月十日ニ始マリ翌年一月九日ニ終ル第三學年ハ一月十日ニ始マリ翌年四月三十日ニ終ル

第十條 毎年七月二十一日ヨリ九月十日マテヲ夏季休業トシ十二月二十一日ヨリ翌年一月九日マテヲ冬季休業トス但シ教授上ノ都合ニ依リ前記休業日數ヲ短縮スルコトヲ得

第十一條 大試験ニ及第シタル者ニハ及第證書ヲ授與シ且學術優等ノ者若ハ品行特ニ善良衆人ノ模範トナルヘキ者ニハ本則第十八條ニ規定スル學術優等章若ハ品行善良章ヲ與フ

第十二條 學術優等章ヲ有スル者ニシテ大試験ニ落第スルカ又ハ品行善良章ヲ有スル者ニシテ本校生徒懲戒則若ハ海軍懲罰令ニ觸ルコトアルトキハ之ヲ剝奪ス

第十三條 卒業試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第十四條 大試験ニ落第シタルモ前試験ノ成績ヲ考查シ卒業ノ目途アル者ニハ一學年ヲ延期修學セシム

卒業試験ニ落第シタル者ニハ再試験ヲ行フコトヲ得

傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ大試験若ハ卒業試験ヲ受クルコト能ハサル者ハ前二項ニ準ス

前諸項ノ場合ニ於テハ海軍教育本部長ニ報告シ本部長ハ之ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第十五條 前條ノ延期ハ一學年ニ止マルト雖モ傷痍ヲ受ケタル者又ハ自身ノ不攝生ニ依ラサル疾病ニ罹ル者ニシテ學術品行殊ニ優等ナル者ハ特別ノ詮議ニ附スルコトヲ得

第十六條 定期ノ課程ヲ終リタル者大試験若ハ卒業試験ニ際シ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ試験ヲ受クルコト能ハサルトキハ臨時試験ヲ行フコトヲ得

第十七條 本校ニ教授用トシテ船艇ヲ附屬ス

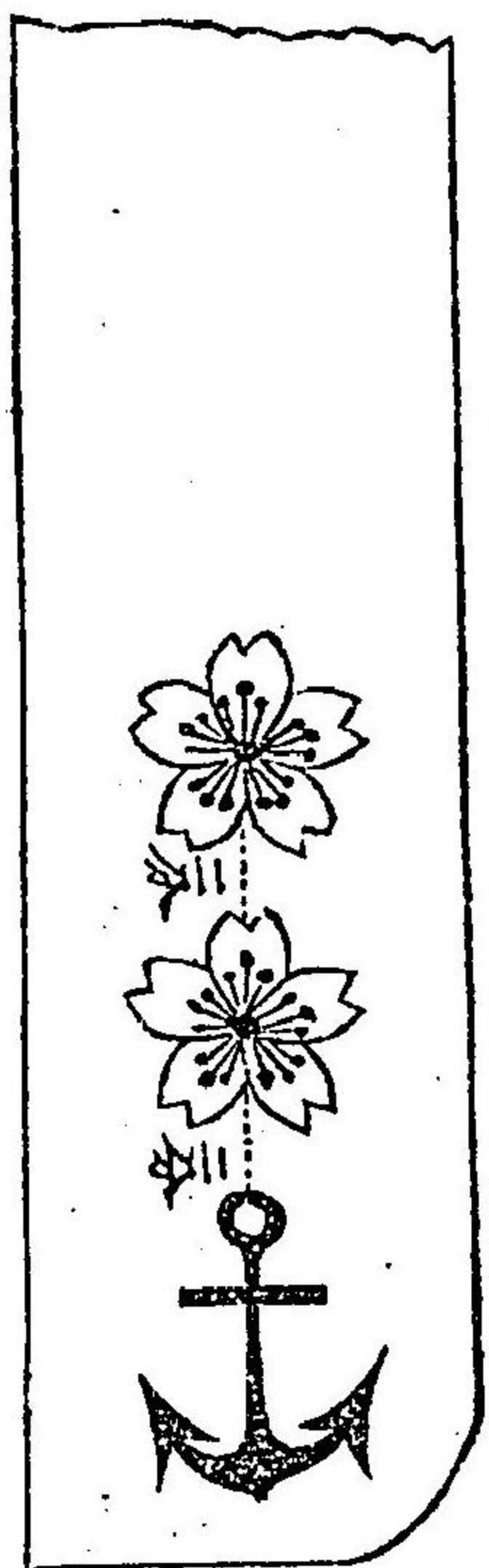
第十八條 本則第十一條ニ掲クル徽章ハ軍服ニノミ附著スル者ニシテ其ノ制式左圖ノ如シ但シ學術優等章ハ金モール品行善良章ハ銀モールヲ以テ左右襟ニ附著セシ

ムルモノトス

形

原

第一期ノ花  
第二期ノ花  
第三期ノ花



(原圖三分ノ二縮寫)

學術鑲章  
直径五分ノ花  
品行善良章  
直径五分ノ花  
銀鑲

第十九條 機關學校勤務ノ下士卒ハ校内若ハ附屬船艇内ニ起臥セシムルモノトス

●勅令第七十一號 (明治三十二年三月二十七日)

海軍志願兵條例

- 第一條 海軍志願兵トハ海軍兵役ニ服セシコトヲ志願シ認可ヲ得海軍志願兵籍ニ編入セラレタル者ヲ謂フ
- 第二條 海軍志願兵トシテ徵募スヘキ卒ノ種別ハ左ノ如シ  
水兵、信號兵、軍樂生、木工、機關生、鍛冶、看護、主廚
- 第三條 信號兵ハ所要ニ應シ水兵中ヨリ適當ノ者ヲ選ミ之ニ轉セシム其ノ規程ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第四條 志願兵ノ徵募ハ其ノ年ニ於テ左ノ各項ニ適合スル者ニ就キ之ヲ行フ
  - 一 水兵、機關兵ハ十七年以上二十一年未滿
  - 二 木工、鍛冶、看護、主廚ハ十七年以上二十六年未滿
  - 三 軍樂生ハ十六年以上十九年未滿
- 第五條 左ニ掲クル者ハ志願兵ノ徵募ニ應スルコトヲ得ス
  - 一 陸軍ノ豫備役後備役及第一補充兵役ニ在ル者
  - 二 徵兵令第二十八條ニ當ル者

- 三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者
- 四 刑事被告人
- 五 復權ヲ得サル家資分散者破産者若ハ其ノ相續人
- 六 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者若ハ其ノ相續人
- 第六條 軍樂生ニシテ入團後三箇月ヲ經過シ技藝發達ノ目途ナキ者ハ軍樂生ヲ免ス
- 第七條 志願兵ノ服役ハ海軍下士卒服役條例ニ依ル
- 第八條 志願兵現役中ハ家族アル者ニ限リ扶助金トシテ一箇月金八十五錢ヲ其ノ家族ニ給ス但シ左ニ掲クル事項ノ二ニ當ルトキハ其ノ間支給ヲ停止ス
  - 一 擅ニ艦船團其ノ他各部ヲ離レ若ハ職役ヲ離レ若ハ允許ヲ得テ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期限ニ後レ二箇月ヲ過キタルトキハ其ノ翌月ヨリ自首若ハ捕縛ノ前月マテ
  - 二 禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ翌月ヨリ刑期滿限ノ前月マテ
- 第九條 海軍大臣ハ志願兵徵募ノ爲海軍志願兵徵募區ヲ定メ鎮守府ヲシテ之ヲ管セシム
- 第十條 海軍大臣ハ毎年志願兵トシテ採用スヘキ人員ヲ定メ鎮守府ヲシテ徵募セシム

附則

- 第十一條 本條例施行ノ際現ニ扶助金一箇月金一圓七十五錢ヲ受クル志願兵ノ家族ニハ其ノ現役滿期ノ月迄同金額ヲ給ス但シ再服役ヲ許シタルトキハ再服役ノ翌月ヨリ第八條ノ金額ヲ支給ス
- 第十二條 海軍志願兵徵募ニ關スル細則及家族扶助金支給ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム
- 第十三條 本條例ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
- 第十四條 明治三十一年勅令第八十三號海軍志願兵徵募規則ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

●海軍省令第三號 (明治三十一年四月二十七日)

海軍志願兵徵募細則

第一條 海軍志願兵ハ須用ニ應シ各鎮守府ヲシテ本則ニ依リ徵募セシム但シ軍樂生ハ當分ノ内横須賀鎮守府ニ於テ徵募ス

第二條 海軍志願兵ノ徵募數額及其ノ入團期日ハ海軍大臣之ヲ鎮守府司令長官ニ告達ス

鎮守府司令長官前項ノ告達ヲ受ケタルトキハ志願人員表移牒期日ヲ定メ其ノ期日及志願兵徵募數額ヲ地方長官ニ通知ス

第三條 地方長官前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ管内ニ現住スル者ニシテ

海軍志願兵條例第四條ノ年齢ニ適スル者ヲ出願セシメ島司郡市長ヲシテ之ヲ調査

セシメ島郡市及兵種ヲ區別シ志願人員表ヲ作り檢査場所ヲ定メ移牒期日迄ニ之ヲ

海軍志願兵徵募區ヲ管スル鎮守府司令長官ニ移牒スヘシ

島司郡市長ハ志願者ヲ調査スルニ當リ海軍志願兵條例第五條ニ觸ル者ナキヤ否

ヤヲ審査スヘシ

第四條 徵兵令ニ依リ補充兵役及國民兵役ニ在ル者ハ海軍志願兵タルコトヲ得

三十三年  
三月省令  
第六號參  
看  
三十三年  
四月省令  
第六號參  
看

三十三年  
六月省令  
第十三號  
參看

第五條 海軍志願兵徵募區ハ左表ニ依ル

第六條 鎮守府司令長官ハ海軍兵志願者検査ノ爲必要ニ應シ兵事官及軍醫官ヲ派出

シ左ノ諸員ヲ隨行セシム

筆記 一名

看護手 二名

卒 一名

軍醫官以下諸員ハ兵事官ノ指揮ヲ受ケ服務ス

第七條 地方長官ハ兵事官ノ巡廻ニ先タチ海軍兵役志願人検査所ヲ設ケ島司郡市長

ニ達シ検査ノ準備ヲ爲サシムヘシ

第八條 地方長官島司郡市長ハ兵事官ノ巡廻ニ際シ屬書記ヲ派出シ兵事ノ事務ヲ補

助セシムヘシ

地方長官ハ豫メ志願者人名簿ヲ整頓シ置キ兵事官巡廻ニ際シ屬官ヲシテ之ヲ徵募

官ニ出サシムヘシ

第九條 海軍兵役志願人検査所ハ一地方廳管轄地ノ廣狹及志願人ノ多少ニ依リ検査

ニ便ナル場所ヲ選ミ概テ一郡市ニ一箇所ヲ設クヘシ

志願人十名ニ滿タサル郡市及一地方管轄地ヲ通シ十名ニ滿タサル地方ニ在テハ検査所ヲ設ケス便宜ノ検査所ニ集メ検査ヲ施行ス但シ地形ニ依リ召集ニ便ナラサルトキハ地方長官ハ鎮守府司令長官ノ承認ヲ得テニ検査所ヲ設クルコトヲ得

第十條 兵事官ハ地方長官ニ協議シ検査所巡廻日割及毎日検査ヲ行フヘキ人員ヲ定

メ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ検査ノ日時及集合スヘキ検査所ヲ豫メ志願人

ニ達スヘシ

第十一條 島司郡市長ハ兵事官ノ巡廻日割ニ依リ志願人ノ検査ヲ受クヘキ日限及順

序ヲ定メ志願人ニ告知シ其ノ當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願人ヲ引纏メ検査

所ニ出頭セシムヘシ

島司郡市長ハ検査ノ日検査所ニ出席スヘシ

検査呼出ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ出頭シ難キ者アルモ之カ爲ニ日時ヲ遷延シ更

ニ検査所ヲ開クコトナシ但シ甲地志願人乙地検査所ニ至リ検査ヲ願フ者ハ之ヲ許

可スルコトアルヘシ

第十二條 兵事官軍醫官ハ検査所ニ於テ志願人ノ身體ヲ検査シ合格不合格ヲ定ムヘ

シ

第十三條 志願人身幹左ノ定尺ニ達シ身體完全且強健精神異狀ナキ者ヲ身體検査合格トシ否ラサル者ヲ不合格トス

- 一 水兵、機關兵、看護志願者ニ在テハ五尺二寸
- 二 軍學生志願者ニ在テハ齒列齊正ニシテ五尺
- 三 木工、鍛冶、主廚志願者ニ在テハ五尺

第十四條 志願人ノ身體検査合格者ヲ甲乙ノ二種ニ分チ先ツ甲種合格者ヲ採用シ次ニ乙種合格者ニ及ホスモノトス

特ニ學藝優等ナル者アルトキハ前項ノ順序ニ依ラサルコトヲ得

第十五條 木工、鍛冶ニ志願ノ者ハ一箇年以上該職業ニ服セシ者ニ限り採用ス其ノ證明書ハ市町村長ヨリ巡廻ノ兵事官ニ出スヘシ

第十六條 軍樂生、看護志願ノ者ハ身體検査ニ合格スト雖讀書、作文、算術ノ試験ニ合格セサレハ採用セス

讀書ハ平易ナル漢字交リ文、作文ハ通俗文、算術ハ四則ヲ解シ得ルヲ以テ程度トス  
第十七條 身體ノ検査及讀書作文算術ノ試験ニ合格スト雖他ノ原因ニ依リ兵事官ニ於テ海軍兵ニ適セサルモノト認ムルトキハ採用セサルコトアルヘシ

第十八條 兵事官ハ一検査所ノ検査ヲ了リタル後其ノ合格ノ者ニハ島司郡長ヲ經テ合格證書ヲ附與ス

合格證書ヲ附與セラレタル者採用以前ニ在テ轉籍、轉住、死亡、逃亡、公權停止、廢疾不具等身上ニ異動ヲ生シタル者アルトキハ島司郡市長ハ地方廳ヲ經由シ速ニ其ノ人名及異動ノ事項轉籍者、轉住者ハ其ノ轉籍地若ハ轉住地ヲ詳記スヘシヲ當該鎮守府兵事官ニ通知スヘシ但シ轉籍者、轉住者ニ在テハ同時ニ其ノ旨ヲ轉籍地若ハ轉住地ノ島司郡市長ニ通知スヘシ

兵事官他鎮守府徵募區ニ轉籍轉住セシ者ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ兵種及検査成績ヲ轉籍地若ハ轉住地ヲ管スル鎮守府ノ兵事官ニ通知スヘシ

陸軍第一補充兵役ニ在ル者ニシテ第一項ニ該當スルトキハ島司郡市長ハ其ノ旨ヲ當該聯隊區司令官又ハ警備隊(區)司令官ニ通知スヘシ

第十九條 兵事官ハ徵募區内各府縣志願人ノ検査ヲ了ルトキハ前條ノ異動人員ヲ加除シ志願兵検査總人員表ヲ作り司令長官ニ進達スヘシ

第二十條 鎮守府司令長官ハ合格者ノ數ヲ率トシ比例ヲ以テ採用スヘキ人員ヲ各地方ニ配當シ採用證書ヲ地方長官ニ送付シ且入團期日ヲ通知スヘシ但シ所管徵募區



ニ於テ合格者ノ數所要ノ兵員ニ充タサルトキハ他鎮守府司令長官ニ協議シ補充スルコトヲ得其ノ採用證書送付方及入團期日通知等ノ手續ハ補充ヲ要スヘキ鎮守府司令長官ニ於テ之ヲ爲スモノトス

鎮守府司令長官ハ前項ノ配當人員表ヲ作り第十九條ノ志願兵検査總人員表ト共ニ海軍省ニ送付スヘシ

陸軍第一補充兵役ニ在ル者ニシテ合格證書ヲ附與セラレタルモノアルトキハ鎮守府司令長官ハ入團期日ヲ地方長官ニ通知シ地方長官ハ島司郡市長ヲシテ之ヲ當該聯隊區司令官又ハ警備隊(區)司令官ニ通知セシムヘシ

第二十一條 地方長官採用證書ノ送付ヲ受ケタルトキハ島司郡市長ヲシテ之ヲ各自ニ附與シ誓約書ヲ出サシムヘシ

第二十一條ノ二 本籍地以外ニ於テ第三條ノ出願ヲ爲セシ者合格證書又ハ採用證書ヲ附與セラレ若ハ入團期日ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ都度現住地ノ地方長官ヨリ之ヲ本籍地ノ地方長官ニ通知スヘシ

第二十三條 兵員入團ニ際シ疾病又ハ事故ニ依リ入團ノ延期ヲ願フ者アルトキハ鎮守府司令長官ニ於テ二十日以内ノ延期ヲ許スコトアルヘシ

三十三年  
六月省令  
第十九號  
參看

兵員入團スルトキハ直ニ身體検査ヲ施行ス此ノ検査ニ於テ到底海軍兵役ニ堪ヘ難シト認ムル者アルトキハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告スヘシ司令長官ハ之カ採用ヲ

取消シ海兵團長ヲシテ旅費ヲ給シテ歸郷セシメ兵事官ヲシテ其ノ旨ヲ地方長官ニ通知シ且本人ノ戶籍謄本及誓約書ヲ市町村長ニ返付セシムヘシ

前項ノ場合及入團後二箇月以内ニ於テ傷痍疾病ニ依リ現役若ハ兵役ヲ免セラレ又ハ死亡等ノ爲新兵ニ缺員ヲ生シタルトキハ其都度補缺員ヲ同府縣内同兵種ノ合格者ヨリ徵募スルモノトス但シ同府縣内ニ於テ徵募スルコト能ハサルトキハ同鎮守府徵募區内ヨリ補ヒ同鎮守府徵募區内ヨリ補フコト能ハサルトキハ他鎮守府司令長官ヘ協議シ其ノ徵募區内ヨリ補フコトヲ得

補缺徵募兵員ノ採用證書送付方及入團期日ノ通知其ノ他ノ手續ハ一般ノ徵募兵員ニ準ス

第二十四條 地方長官ハ市町村長ヲシテ採用セラレタル者ヨリ其ノ戶籍謄本ヲ徵セシメ第二十一條ノ誓約書ト共ニ之ヲ鎮守府兵事官ニ送付スヘシ

第二十五條 附添人旅費並ニ徵募兵員各自居住ノ地ヨリ入團迄ノ旅費ハ一般徵兵ノ定則ニ依リ官給ス但シ検査所ヘ往復ノ費用並ニ検査ヲ受クル爲ニ滞在ノ費用ハ自辨トス

第二十六條 本規則中市町村長ノ職務ハ市町村制ヲ施行セサル地ニ在テハ區長戶長又ハ之ニ相當スル吏員之ヲ行ヒ又市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長之ヲ行フ

本規則中郡長ノ職務ハ北海道其他郡長ヲ置カサル地ニ在テハ之ニ相當スル官吏之ヲ行フ

第二十七條 志願人員表(様式第一)合格證書(様式第二)採用證書(様式第三)誓約書(様式第四)ハ各其ノ様式ニ從ヒ調製ス

附則

第二十八條 本則ハ明治三十一年五月一日ヨリ施行ス

海軍志願兵 徵募區	所管鎮守府	府	縣	名
第一	橫須賀鎮守府	北海道	東京	神奈川 新潟 埼玉 群馬 千葉 茨城 栃木 三重 愛知 静岡 山梨 岐阜 長野 宮城 福島 巖手 青森 山形 秋田
第二	吳鎮守府	京都	大阪	兵庫 奈良 滋賀 福井 石川 富山 鳥取 島根 岡山 廣島 山口 福島 香川 愛媛 高知
第三	佐世保鎮守府	長崎	福岡	大分 佐賀 熊本 宮崎 鹿兒島 沖繩

様式第一 海軍兵志願人員表(用紙美濃紙)

何府縣海軍兵志願人員表

水兵	軍樂生	木工	機關兵	鍛冶	看護	主廚	記事
合計							

様式第二 合格證書(用紙程村八ツ切)

第何海軍志願兵徵募區

府(縣)郡(市)町(村)住

氏名

面表

右檢査合格ニ付此證書ヲ附與ス

明治 年 月 日

何鎮守府兵事官氏

名印

裏面

一 此證書ハ海軍志願兵ノ體格檢査ヲ受ケ合格シタル者ニ附與ス  
 二 此證書ヲ受ケタル者ハ體格ニ於テ帝國海軍軍人タル資格ヲ有スル  
 三 此證書ハ海軍志願兵入團期日迄効力ヲ有ス  
 四 此證書ヲ附與セラレタル者ハ凡テ合格者ナルモ其ノ優等ナルヲ甲  
 五 種トシ之ニ次クヲ乙種トス  
 六 海軍兵ニ採用サルヘキ順序ハ甲種ヨリ乙種ニ及フヘキモノトス  
 七 海軍兵ニ採用サレ入團スルトキハ此證書及採用證書ヲ携帶スヘシ  
 八 海軍兵ニ採用サレ入團スルトキハ再ヒ體格檢査ヲ受ケ合格ノ者  
 九 ハ採用ヲ取消スルカ故ニ之カ爲自己ノ志望ヲ遂ル能ハサルコトアリ  
 十 之レ等ハ多ク自己ノ攝生定マラサルト操行不良ナルト依リ生シ  
 十一 タル結果ニシテ不面目此上ナキコトナルカ故ニ此證書ヲ受領シタ  
 十二 ル後ハ彌々其ノ攝生ト操行トヲ慎ミ健康ヲ害セサル様心懸クヘシ  
 十三 此證書ヲ受ケタル後ハ何時採用證書ヲ發スルモ速ニ受領シ得ル様  
 十四 心懸ケ他府縣ヘ轉籍及寄留換ハ勿論出稼旅行等ノ場合ニ於テモ速  
 十五 ニ其ノ手續ヲナシ其ノ行先ヲ明カニ爲シ置クヘシ  
 十六 海軍兵志願者ハ左ノ資格ヲ有スル限リハ何回ト雖志願スルコトヲ  
 十七 得  
 十八 一 水兵、機關兵ハ十七年以上二十一年未満  
 十九 二 軍樂生ハ十六年以上十九年未満  
 二十 三 木工、鍛冶、看護、主廚ハ十七年以上二十六年未満  
 二十一 此證書ヲ失ヒ若ハ損傷シタルトキハ市町村長ヲ經テ更ニ下渡ヲ鎮  
 二十二 守府兵事官ニ請求スヘシ

様式第三 採用證書(用紙程村八ツ切)

表面

右海軍水兵(又ハ)ニ採用徵募ス  
 何々々  
 明治 年 月 日  
 第何海軍志願兵徵募區  
 府(縣)郡(市)町(村)住  
 氏 名  
 何 鎮 守 府 圖

裏面

一 此證書ハ海軍志願者中採用スヘキモノニ附與ス  
 二 此證書ハ海軍志願兵入團期日迄効力ヲ有ス  
 三 採用入團ノ達アルトキ携帶スヘシ  
 四 難キトキハ本人若ハ家族ヨリ市町村長ヲ經テ鎮守府兵事官ニ届出  
 五 入團ニ際シ父母ノ疾病危篤或ハ死亡ノ爲入團延期ヲ願ハントスル  
 六 以テ鎮守府司令長官ニ願出ヘシ  
 七 此證書ヲ失ヒ若ハ損傷シタルトキハ市町村長ヲ經テ更ニ下渡ヲ鎮  
 八 守府兵事官ニ請求スヘシ

様式第四 誓約書(用紙美濃紙四ツ切)

誓約書

海軍水兵(何々)ニ御採用ニ付テハ御規則ヲ嚴守シ誓テ海軍ニ従事可仕候也

明治 年 月 日

氏 名 印

海軍省令第四號 (明治二十一年四月二十七日)

海軍志願兵家族扶助金支給規則

- 第一條 家族扶助金ハ志願兵ニ在テハ入營ノ月ヨリ徵兵ニシテ志願兵籍ニ編入セラレタル者ニ在テハ其月ヨリ現役ヲ離レ若ハ死亡シタル月マテ其ノ家族ニ支給ス
- 第二條 單身ノ志願兵家族ヲ有シタルトキハ其ノ月ヨリ家族扶助金ヲ支給シ家族ヲ有スル志願兵單身トナリタルトキハ其ノ月マテ之ヲ支給ス
- 第三條 家族扶助金ノ支給ヲ受クヘキ家族所在不明ト爲リ他ニ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ其ノ翌月ヨリ所在判明セシ前月マテ其ノ間家族扶助金ヲ支給セス
- 家族扶助金支給スヘキ金額アリテ之ヲ受クヘキ家族死亡若ハ所在不明其ノ他ノ場合ニ於テ支給ヲ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ志願兵本人ニ交付ス
- 第四條 家族扶助金ハ志願兵家族中ノ戸主ニ支給ス志願兵戸主ナルトキハ其ノ父ニ父ナキトキハ其ノ母ニ父母共ニナキトキハ本人指定ノ家族ニ支給ス但シ家族ノ指定ヲ變更シタルトキハ其ノ報告到達ノ翌月ヲ以テ區分シ之ヲ支給ス
- 戸主ナル志願兵入營後若ハ戸主ナル徵兵ニシテ志願兵籍ニ編入後父母死亡シ他ノ家族ヲシテ家族扶助金ヲ受取ラシメントスルキ若ハ其ノ受取人ヲ變更セントスル

三十二年  
三月省令  
第七號參  
看

トキハ本人ヨリ其ノ人名及住所ヲ詳記シ所屬長ヲ經テ之ヲ所管鎮守府經理部ニ届出ヘシ

第五條 養子又ハ復籍等ニ因リ志願兵ノ兵籍ニ異動アリタルトキハ其ノ月ノ家族扶助金ハ其ノ月末日戸籍ノ屬スル家族ニ支給ス但シ戸籍異動報告ノ到達以前既ニ支給シタルモノアルトキハ該報告到達ノ翌月ヨリ本條ノ區分ニ依リ支給ス

第六條 志願兵入營シタルトキ若ハ徵兵ニシテ志願兵籍ニ編入セラレタルトキハ兵事官ハ直ニ其ノ者ニ對スル左記書式ノ家族扶助金支給原表ヲ調製シ之ヲ所管鎮守府經理部ニ送附スヘシ單身ノ志願兵家族ヲ有シタルトキ亦同シ

三十三年五月省令第十二號參看  
三十一年九月省令第九號參看

第七條 左ノ場合ニ於テハ市東京市、京都市、大阪市ニ町村長區長沖繩縣ノ區長戸長以下之ニ倣フハ志願兵兵籍ノアル鎮守府經理部ニ報告スヘシ  
一 志願兵ノ戸籍ニ異動アリタルトキ  
二 志願兵ノ家族轉籍ヲ爲シタルトキ  
三 家族扶助金ノ支給ヲ受クヘキ家族所在不明ト爲リタルトキ  
四 本項第三ノ者所在判明セシトキ

志願兵ノ家族轉居タルトキハ其ノ家族ヨリ直ニ所管鎮守府經理部ニ届出ヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ艦船團其ノ他各部ノ長ハ毎月末日ニ志願兵兵籍ノアル鎮守府經理部ニ通知スヘシ

- 一 志願兵ニシテ擅ニ艦船團其ノ他ノ各部若ハ職役ヲ離レタル者アルトキ
- 二 本項第一ノ者自首若ハ捕縛ト爲リタルトキ
- 三 志願兵禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ及刑期滿限ノトキ
- 四 志願兵准士官ニ任用セラレ若ハ現役ヲ離レ又ハ死亡シタル者アルトキ
- 五 志願兵ニシテ再服役ニ就キタル者アルトキ
- 六 徵兵ニシテ志願兵籍ニ編入セラレタル者アルトキ

第九條 家族扶助金ハ毎年度上半期分ヲ九月ニ下半期分ヲ三月ニ所管鎮守府經理部ヨリ支給ス

第十條 志願兵准士官ニ任用セラレ若ハ現役ヲ離レ又ハ死亡シ若ハ家族ヲ有スル志願兵單身ト爲リタル者アルトキハ前條ノ支給期ニ拘ラス其ノ月マテノ分ヲ其ノ際支給スヘシ

附則

第十一條 本則ハ明治三十一年五月一日ヨリ施行ス

(内朱書)

家族扶助金支給原表

海軍志願兵家族扶助金支給規則

海軍志願兵家族扶助金支給規則

ギ四終

兵籍番號	「一二三四」	官等姓名	「何等水兵何某」
扶助金額	金壹圓七拾五錢 金八拾五錢	再服役ニ付明治何年何月ヨリ支給ス	
入營若ハ志願兵籍ニ編入	明治何年何月何日		
再服役年月日	明治何年何月何日許可ヲ得何年何月何日ヨリ再服役		
本籍地名	何府縣何々		
家族人名	實父某 長男某 實母某 何々々 妻 某 何々々	海軍	
扶助金受領者人名及其居所	戶主某 何府縣何々		
家族増減異動記事			
扶助金支給停止ニ係ル記事	何年何月何日逃亡何日歸艦		
備考			

勅令第二百四十七號 (明治三十一年十月六日)

海軍召集條例

第一章 總則

- 第一條 本條例ハ豫備役後備役ニ在ル海軍軍人ノ召集ニ關スルコトヲ規定ス
- 第二條 准士官以上ノ召集ハ海軍大臣之ヲ行ヒ下士卒ノ召集ハ鎮守府司令長官之ヲ行フ
- 第三條 戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル諸官時機切迫シ命ヲ請フノ暇ナキトキハ獨斷ニテ豫備役後備役下士卒ノ召集ヲ行フコトヲ得
- 第四條 鎮守府司令長官ハ部下將校ヲシテ定期若ハ臨時ニ諸官衙及公署ニ於ケル召集事務ノ整否ヲ檢査セシムヘシ
- 地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長ハ其ノ所部召集事務ノ整否ヲ檢査シ又ハ部下官吏ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ
- 第五條 召集ニ關スル細則及旅費支給ノ方法ハ海軍大臣之ヲ定ム

海軍召集條例

ク一

第六條 召集ハ充員召集演習召集及簡閱點呼ノ三種トス

第七條 充員召集トハ戰時若ハ事變ニ際シ充員ヲ行フ爲豫備役後備役軍人ノ一部又ハ全部ヲ召集スルヲ謂フ

充員召集事務ニ關シ責任ヲ有スル者ハ豫メ之ニ關スル諸行務ヲ整備シ置キ召集實施ニ際シ凝滞ナキヲ期スヘシ

充員召集發令ノ後ハ召集事務ニ關シ訓示命令等ヲ請フコトヲ得ス

第八條 演習召集トハ演習ヲ行フ爲平時ニ於テ豫備役後備役軍人ヲ召集スルヲ謂フ

第九條 演習召集ヲ大演習召集及小演習召集ノ二種ニ分ツ

大演習召集トハ大演習施行ノ際豫備役後備役軍人ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

ヒ小演習召集トハ小演習施行ノ際豫備役後備役下士卒ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

第十條 簡閱點呼トハ豫備役後備役下士卒ヲ實査スル爲時期ヲ定メ其ノ全部若ハ一部ヲ召集スルヲ謂フ

三十三年七月十八號令  
第八百八十八號參看

第十一條 充員及演習召集ニ應シ到着スヘキ場所ハ豫備役後備役准士官以上ニ在テ

ハ海軍大臣之ヲ定メ豫備役後備役下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ニ屬スル海兵團トス

第十二條 簡閱點呼ヲ行フ場所ハ簡閱點呼執行官之ヲ定ム

第十三條 充員召集及演習召集ニハ召集令狀ヲ發シ簡閱點呼ニハ點呼令狀ヲ發ス

第十四條 召集令ハ迅速確實ナル方法ヲ以テ通達スヘシ

第十五條 豫備役後備役下士卒ノ一部ヲ召集スルトキハ鎮守府司令長官ハ何年何月

以後ニ現役ヲ離レタル者ハ召集スヘキコトヲ定ム

第十六條 豫備役後備役下士卒ノ召集區域ハ海軍志願兵徵募區ノ區域ニ依ル

第二章 召集準備

第十七條 召集ノ實施ヲ容易ナラシムル爲豫備役後備役准士官以上ノ召集名簿ハ海

軍省ニ於テ下士卒ノ召集名簿ハ在籍鎮守府ニ於テ整備シ置クヘシ

第十八條 准士官以上ノ召集令狀ハ海軍省ニ於テ調製保管シ下士卒ノ召集令狀ハ鎮

守府ニ於テ調製シ豫メ之ヲ郡市長ニ送付シ郡市長ハ召集ノ發令アルマテ之ヲ保管

スヘシ但郡長ハ町村長ヲシテ召集令狀ヲ保管セシムルコトヲ得

第十九條 鎮守府ニ於テハ旅費證票ヲ作り召集令狀ト共ニ郡市長ニ送付シ置クヘシ但シ郡長ハ町村長ヲシテ之ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十條 地方長官ハ市町村長ヲシテ召集ニ應スル者ノ休泊ニ充ツル爲豫メ市町村内ニ於テ海軍軍用旅舎ヲ選定セシメ之ヲ憲兵隊及警察署ニ通知シ置クヘシ

第二十一條 地方長官ハ前條ノ外召集ヲ容易ナラシムル爲相當ノ措置ヲ爲スヘキモノトス

第二十二條 豫備役後備役軍人ハ其ノ本籍地ニ於テ召集ニ應スルヲ例トス但シ本邦ニ在テハ寄留地ニ於テ、外國在留ノ者ニ在テハ其ノ所在地ニ於テ、海員タル者ニ在テハ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スルコトヲ得前項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ハ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ但シ外國在留ノ者ハ本文ノ手續ヲ爲スト同時ニ在留國ノ領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大

臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出ヘシ

第二十三條 豫備役後備役軍人十四日以上旅行或ハ寄留セントスルトキハ召集通報人ヲ定メ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ届出テ歸郷シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ但シ外國へ航海又ハ在留セントスルトキハ其ノ事由ヲ記シ市町村長ノ與書證印ヲ受ケ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ其ノ歸朝シタルトキハ十四日以内ニ市町村長ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ兵事官ニ届出ヘシ

第三章 充員召集

第二十四條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ充員召集ノ令アリタルトキハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長東京府ニ在テハ憲兵司令官以下之ニ通知シ必要アルトキハ關係アル領事官、貿易事務官ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村長並召集事務ニ關



係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ之ヲ其部下ニ達スヘシ

第二十六條 召集令狀保管者充員召集ノ令ヲ受クルトキハ令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被召集人又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ下士卒ノ召集令狀ニ對スル受領證ハ取纏メ之ヲ鎮守府兵事官ニ送付スヘシ  
召集通報人ナキ不在者ニ在テハ其ノ戸主本人戸主又ハ戸主不在ナレハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ受領證ヲ出スヘシ

下士卒ノ召集令狀保管者ハ前二項ニ依リ召集令狀ヲ交付シタル者ハ人名並事故アリテ之ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名其ノ事由ヲ記シヲ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第二十七條 充員召集令ノ達ヲ受ケケル官衙並公署ハ直ニ軍事警報ヲ揭示スルモノトス但シ鎮守府司令長官ハ海軍大臣ノ命ニ依リ之ヲ揭示セシメサルコトヲ得

第二十八條 被召集人ニ代リ召集令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第二十九條 准士官以上召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費ヲ受領シ速ニ指定ノ場所ニ到著スヘシ

前項准士官以上ノ官姓名ハ豫メ海軍省ヨリ到著地ノ長官ニ通知シ長官ハ其ノ到著ノ都度最モ迅速確實ナル方法ニ依リ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第二十條 下士卒召集令狀ヲ受領シタルトキハ旅費及旅費證票ヲ受領シ其ノ令狀ニ指定シタル期日ニ於テ海兵團ニ到著スヘシ

第二十一條 憲兵及警察官吏第二十六條第三項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被召集人ヲシテ所命ノ期日ニ召集ニ應セシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第三十二條 召集地ニ到ルノ途中ニ於テ已ムヲ得サル事故ノ爲到著ヲ遅延スル場合ニ在テハ其ノ事故傷痍疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ、其ノ他ノ事故ナルトキハ其ノ事故ノ生シタル地ノ市町村長、警察官吏、船長若ハ驛長ニ就キ證明書ヲ受領シ到著ノ上准士官以上ニ在テハ到著地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ在籍鎮守府ノ兵事官ニ差出スヘシ

前項ノ事故ヲ生シタルトキ准士官以上ニ在テハ迅速ナル方法ニ依リ其ノ事故及豫定延滞日數ヲ到着地ノ長官ニ届出テ該長官ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ但シ東京ニ到着スヘキトキハ直接ニ海軍大臣ニ届出ヘシ

第三十三條 召集令狀ノ交付ヲ受クルモ己ムヲ得サル事故ノ爲速ニ出發シ難キカ或ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到着スルコト能ハサル場合ニ在テハ其ノ事故傷痍疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ本人ヨリ、旅行犯罪失踪等ナルトキハ召集令狀ヲ受領シタル者ヨリ事由届書 准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ宛テ下士 二十四時間以内ニ市町村長ニ差出スヘシ

市町村長前項ノ届書ヲ受領スルトキハ准士官以上ノモノニ付テハ本人ノ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ進達シ下士卒ノモノニ付テハ鎮守府兵事官ニ送附スヘシ第一項ニ依リ届書ヲ差出シタル場合ニ於テ下士卒ノ召集令狀ハ之ヲ郡市長若ハ町村長ニ返付スヘシ

第三十四條 前條第一項ニ依リ事由届書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取り其ノ指示ニ從フヘシ

第三十五條 召集シタル下士卒ハ海兵團ニ於テ身體檢査ヲ行フ身體檢査ニ於テ服役ニ堪ヘスト認ムルトキハ召集ヲ解キ旅費ヲ給シテ歸郷セシム

第三十六條 召集ノ期ニ後ルル者アルトキハ下士卒ニ在テハ海兵團長准士官以上ニ在テハ到着地ノ長官事實ヲ糺シ相當ノ措置ヲ爲スヘシ

第三十七條 下士卒ノ召集完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第三十八條 正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ背ク者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

正當ノ事由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス  
正當ノ事由ナクシテ第三十二條及第三十四條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第三十九條 召集解除ノ令アリタルトキハ海軍大臣及鎮守府司令長官ハ速ニ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知シ旅費ヲ給シ被召集人ヲ歸郷セシム

第四十條 召集解除ノ行務完結スルトキハ海兵團長ハ之ヲ鎮守府司令長官ニ報告シ鎮守府司令長官ハ其ノ報告ヲ海軍大臣ニ進達スヘシ

第四十一條 召集ノ諸行務ニ關シ責任ヲ有スル諸員ハ召集解除後速ニ復タ召集ノ準備ヲ爲スヘシ

第四章 演習召集

第四十二條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ大演習召集ノ令アリタルトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ鎮守府司令長官ハ同時ニ地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十三條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行ハントスルトキハ海軍大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十四條 鎮守府司令長官小演習召集ヲ行フトキハ之ヲ其ノ部下ニ達シ同時ニ召

集區域内地方長官警視總監憲兵隊長ニ通知スヘシ

第四十五條 大演習若ハ小演習召集ノ通知アリタルトキハ地方長官ハ之ヲ郡市町村

長竝召集事務ニ關係アル官吏ニ警視總監憲兵隊長ハ之ヲ其ノ部下ニ達スヘシ

第四十六條 演習召集ニハ第二十六條第二十八條乃至第三十三條及第三十五條乃至

第四十一條ヲ準用ス

第四十七條 第三十三條第一項ニ準シ事由届書ヲ差出シタル場合ニ於テ其ノ事故止

ミタルトキハ准士官以上ニ在テハ速ニ海軍省ニ届出テ命ヲ待チ下士卒ニ在テハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ召集令狀ヲ受取リ其ノ指示ニ從ヒ旅費及旅費證票ヲ受取リ直ニ海兵團ニ到着スヘシ但シ演習ノ前半期間ニ召集地ニ到着スル能ハサル者ト認ムルトキハ郡市長若ハ町村長ハ其ノ發程ヲ差留メ之ヲ鎮守府兵事官ニ通知スヘシ

第四十八條 演習召集令狀ノ交付ヲ受ケタル者其ノ父母重症ニ罹リ若ハ死亡シタルトキハ親戚又ハ近鄰戸主二人以上連署ノ願書ニ市町村長ノ奥書證印ヲ受ケ醫師ノ

診斷書若ハ死亡證ヲ添ヘ准士官以上ニ在テハ到着スヘキ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ鎮守府司令長官ニ十四日以内ノ延期ヲ願出ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ海軍大臣、海兵團長ハ審査ノ上其ノ願ヲ許可スルコトヲ得

第四十九條 正當ノ事由ナクシテ第四十七條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第五章 簡閱點呼

第五十條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼ノ爲毎年一回豫備役後備役下士卒ヲ召集シ簡閱點呼執行官ヲ派出シ期日ヲ定メテ點呼ヲ行ハシム但シ他ノ召集ヲ行ヒタル年ハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 鎮守府司令長官ハ部下將校若干名ニ簡閱點呼執行官ヲ命シ之ニ必要ノ訓令ヲ授クヘシ又必要アルトキハ簡閱點呼執行官ニ部下主計官ヲ附スルコトヲ得

第五十二條 各簡閱點呼執行官ニハ下士若干名ヲ附屬セシム

第五十三條 鎮守府司令長官簡閱點呼ヲ行ハントスルトキハ簡閱點呼執行官ニ其ノ

巡廻區及出發期日ヲ達シ同時ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スヘシ

第五十四條 鎮守府司令長官ハ簡閱點呼執行官ヲシテ巡回順路ヲ豫定セシメ出發期日ト共ニ之ヲ關係地方長官ニ通知スヘシ

第五十五條 地方長官前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ郡市長ニ達シ郡長ハ之ヲ町村長ニ達シ市町村長ハ之ヲ豫備役後備役下士卒ニ豫告スヘシ

第五十六條 簡閱點呼召集所ハ地方廳管轄區域ノ廣狹及被點呼者ノ多少ニ依リ簡閱點呼執行官之ヲ定ムルモノトス

點呼令狀ハ鎮守府ニ於テ調製シ前項ニ依リ簡閱點呼召集所定マリタルトキハ兵事官ヨリ之ヲ郡市長ニ送付スヘシ

第五十七條 簡閱點呼執行官ハ巡廻日割ヲ定メ郡市長ニ通知スヘシ

郡市長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ點呼令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ直ニ豫定ノ方法ヲ以テ之ヲ被點呼者又ハ召集通報人ニ交付シ受領證ヲ徴スヘシ  
召集通報人ナキ不在者ニ在テハ戶主本人戶主又ハ戶主不在ナルハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ受領證ヲ出ス

ヘシ

郡市長ハ事故アリテ點呼令狀ヲ交付シ得サルトキハ其ノ人名其ノ事由ヲ記シテ速ニ憲兵及警察官吏ニ通知スヘシ

第五十八條 被點呼者ニ代リ點呼令狀ヲ受領シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ本人ニ通報シ其ノ令狀ヲ本人ニ交付スルノ手續ヲ爲スヘシ

第五十九條 被點呼者ハ指定ノ日時迄ニ召集所ニ到着シ點呼ヲ受クヘシ

第六十條 被點呼者ノ往復旅費ハ解散ヲ命スルトキハ簡閱點呼執行官若ハ簡閱點呼執行官附主計官ヨリ給スルモノトス

第六十一條 憲兵及警察官吏第五十七條第四項ノ通知ヲ受クルトキハ其ノ被點呼者ヲシテ所命ノ日時ニ參會セシムルノ處置ヲ爲スヘシ

第六十二條 郡市長並町村長ハ簡閱點呼ニ參列スヘシ

第六十三條 被點呼者傷痍疾病其ノ他ノ事故ニ依リ簡閱點呼ニ參會スルコト能ハサルトキハ市町村長ヲ經テ事由届書ヲ點呼執行日時ニ簡閱點呼執行官ニ差出スヘシ

但シ傷痍疾病ノ者ニ在テハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第六十四條 被點呼者集合スルトキハ簡閱點呼執行官ハ點呼名簿ノ順序ニ從ヒ點呼シ所要ノ調査ヲ行ヒ必要ノ訓示ヲ與ヘ解散ヲ命スヘシ

第六十五條 正當ノ事由ナクシテ簡閱點呼ニ參會セサル者及第六十三條ノ規定ニ背ク者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第六十六條 正當ノ事由ナクシテ第五十八條ノ規定ニ背ク者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス被點呼者簡閱點呼場ニ於テ簡閱點呼執行官ノ命令ニ服セス又ハ其ノ職務ノ執行ヲ妨害スルトキ亦同シ

第六十七條 簡閱點呼執行官簡閱點呼ヲ終ルトキハ點呼實況報告書及點呼人員表各二通ヲ鎮守府司令長官ニ差出スヘシ

第六十八條 鎮守府司令長官ハ前條ノ書類ヲ取纏メ一通ヲ海軍大臣ニ進達シ一通ヲ兵事官ニ下付スヘシ

附則

第六十九條 本條例中郡市長ノ職務ハ島司支廳長若ハ之ニ準スヘキ者並東京市京都市大阪府及市制町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ戶長及之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

●海軍省令第十號 (明治三十一年十月十日)

海軍召集條例施行細則

第一章 總則

第一條 本則ハ海軍召集條例施行ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 充員召集及演習召集實施ニ關スル通達ハ至急官報ノ電信若ハ使丁等確實迅速ナル方法ニ依ルモノトス而シテ使丁ヲ用ヅル場合ニ於テハ一時間ニ一里半ノ速度ヲ以テ基準トス

第三條 前條ノ電信ヲ受領シタル者ハ其ノ電信ノ全文ヲ掲ケ之ヲ確受シタル旨ヲ附記シ至急官報ヲ以テ返電スヘシ

第四條 使丁ヲ以テスル文書ノ發送ニハ召集用封筒樣式第一ヲ用ヒ文書ノ番號封込文書ノ數及發簡時刻ヲ記入シ受領者ハ受領時刻ヲ封筒ニ記入シ受領證區畫ニ捺印ノ上返附スヘシ其ノ本人若ハ召集通報人ニ代テ受領シタル者ハ自己ノ氏名ヲ附記シ捺印スルモノトス

第五條 地方長官警視總監憲兵司令官憲兵隊長條例第四條第二項ノ檢査ヲ爲シタルトキハ其ノ狀況ヲ鎮守府司令長官ニ通知シ海軍大臣ニ報告スヘシ

第六條 條例第二十三條ニ掲クル召集通報人ハ應召ノ義務ナキ親族若ハ近鄰ニ居住スル者ニシテ一家ヲ成ス者ニ限ル

海員タル者條例第二十二條第一項但書ニ依リ本人ノ屬スル船舶ノ船籍港若ハ平常運航ノ一港ニ於テ召集ニ應スル場合ニ於テハ陸上ニ在ル船舶所有者若ハ其ノ代理人ヲ以テ召集通報人ト爲スヘシ其ノ船舶所有者及代理人共ニ本邦人ニアラサルトキハ應召地ニ在ル本邦人ヲ召集通報人ト爲シ本邦人ヲ得難キ場合ニ於テハ本籍地ノ親族若ハ近鄰ニ居住スル者ニシテ一家ヲ成ス者ニ就キ召集通報人ヲ定ムルモノトス

第七條 召集通報人ヲ定メタルトキ若ハ變シタルトキハ其ノ住所氏名及其ノ者ノ捺印シタル證書ヲ添ヘ本籍ノ寄留地應召ノ市町村長若ハ在留地ノ領事官貿易事務官ヲ經テ准士官以上ニ在テハ海軍大臣ニ下士卒ニ在テハ召集ニ應シ到著スヘキ地ノ鎮守府兵事官ニ届出ヘシ

第八條 條例第二十二條第二項ノ手續ヲ了シタル後本籍地ニ復歸スルカ或ハ更ニ應召地ヲ轉シタルトキハ更ニ同項ノ手續ヲ履行スヘシ但シ經由スヘキ市町村長若ハ領事官貿易事務官ハ現應召地ノ者トス

三十三年七月省令第十九號 參看

第九條 召集通報人ヲ定メタル豫備役後備役軍人ノ召集令狀ハ召集通報人ニ向ケ發送スルモノトス

第十條 充員召集ノ軍事警報ヲ揭示スヘキ場所ハ左ノ如シ

- 一 郡市役所 島廳市廳若ハ之ニ準スヘキモノ並東京市京都市大阪市及市制町村役場町村制ヲ施行セサル地方ノ區ニ在テハ區役所以下之ニ倣フ
- 二 憲兵本部、憲兵分隊首部、憲兵分隊支部、警察署、警察分署、巡查派出所、其ノ他衆人ノ注目シ易キ場所

第二章 召集準備

第十一條 海軍省ハ豫備役後備役准士官以上ノ召集ニ關スル諸行務ヲ整備シ召集名簿(様式第二)ヲ調製シ置キ召集發令ト共ニ召集ヲ行ヒ得ル如ク諸準備ヲ爲シ置クヘシ

第十二條 海軍省ハ豫備役後備役准士官以上ノ召集令狀(様式第三)及其ノ封筒(様式第一)ヲ調製保管シ且召集旅費ヲ本人ニ直達スルノ準備ヲ爲シ置クヘシ

第十三條 海軍省ハ豫備役後備役准士官以上ヲ以テ充ツヘキ部署ニ關スルコトヲ定メ召集ノ際速ニ補職ノ手續ヲ爲シ得ル如ク諸準備ヲ爲シ置クヘシ

第十四條 鎮守府司令長官ハ召集發令後豫備役後備役下士卒ノ到著スヘキ期間ノ

日數ヲ定メ兵事官ヲシテ被召集員到著豫定表様式第七ヲ作リ郡市役所ニ送付セシム

第十五條 鎮守府司令長官ハ被召集員ヲ以テ充ツヘキ麾下艦團其ノ他各部勤務員ノ數及補缺員ノ編成等ニ關スルコトヲ定メ之ヲ海兵團長ニ達シ置クヘシ

第十六條 鎮守府司令長官召集令及召集通知書ヲ迅速ニ發スルコトニ關シ方法ヲ豫定シ置クヘシ

第十七條 兵事官ハ豫備役後備役下士卒ノ召集ニ關スル諸行務ヲ整備シ兵種及豫備役若ハ後備役編入ノ年ニ就キ第十九條ニ依リ定ムル召集區ニ別テ更ニ島郡市等ニ

區分シ召集名簿様式第四ヲ調製シ置クヘシ

第十八條 兵事官ハ豫備役後備役下士卒ノ召集令狀様式第三ノ二封筒様式第一及旅費證

票様式第三ノ三ヲ調製シ豫メ之ヲ郡市役所ニ送付スヘシ外國在留者ニ對スルモノハ鎮守

府ニ於テ之ヲ保管ス

第十九條 兵事官ハ各地方ノ遠近ニ應シ召集區ヲ定メ召集令下達時間表様式第五及被召

集員到著日數表様式第六ヲ調製シ之ヲ鎮守府司令長官ニ進達スヘシ

兵事官ハ常ニ所管召集區域内海陸交通ノ狀況ニ注意シ變更アル毎ニ前項ノ表ヲ改

正スヘシ

第二十條 召集名簿中召集通報人ヲ定メタル者在テハ召集通報人ノ住所氏名ヲ記シタル紙片ヲ本人ノ住所及氏名ノ上ニ貼付シ置クヘシ

第二十一條 兵事官ハ豫備役後備役下士卒ニシテ他ノ鎮守府ノ召集區域内ニ轉籍シタル者及條例第二十二條第一項但書ニ依リ他ノ鎮守府ノ召集區域内ニ於テ召集ニ應セントスル者アルトキハ通知書及履歷書ヲ召集ニ應シ本人ノ到著スヘキ地ノ鎮守府兵事官ニ送付スヘシ第八條ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十二條 郡市長ハ兵事官ヨリ被召集員到著豫定表、召集令狀、封筒及旅費證票ノ送付ヲ受タルトキハ管轄地内ニ在ル豫備役後備役下士卒ノ員數及住所等ニ應シ召集令狀ヲ配達スル使丁ノ受持及配達順序ヲ定ムル等最モ迅速ニ召集令狀ヲ交付シ得ヘキ方法ヲ豫定シ置クヘシ

第二十三條 郡市役所ニ於テハ様式第四ノ例ニ依リ豫メ管轄地内ニ在ル海軍豫備役後備役下士卒ノ名簿ヲ調製シ置キ兵事官ヨリ送付シ來レル召集令狀ニ照シ其ノ異同ヲ確メ召集ノ發令アルマテ召集令狀、封筒及旅費證票ト共ニ之ヲ保管シ且異動アル毎ニ訂正ヲ爲スヘシ但シ郡役所ニ於テハ町村役場ヲシテ召集令狀、封筒及旅



費證票等ヲ保管セシムルコトヲ得

第二十四條 郡市長ハ豫備役後備役下士卒ニシテ他ノ郡市ニ轉籍シタル者及條例第二十二條第一項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者アルトキハ本人ノ召集令狀旅費證票及召集ニ關スル必要ノ書類等ヲ其ノ都度速ニ應召地ノ郡市役所ニ轉送シ其ノ届書ヲ兵事官ニ轉致スヘシ第二十一條ノ場合ナルトキハ召集ニ應シ本人ノ到著スヘキ地ノ鎮守府ニ於テ更ニ召集令狀及旅費證票等ヲ調製シ之ヲ應召地ノ郡市役所ニ送付シ舊應召地ノ郡市役所ニ於テハ召集令狀及旅費證票等ヲ鎮守府ニ返付スヘシ

第二十五條 市町村長條例第二十條ニ依リ海軍軍用旅舎ヲ定ムルハ約束ニ依ル

第二十六條 前條ニ依リ定メタル海軍軍用旅舎ニハ召集發令ノ際供用スヘキ標旗

樣式及標燈樣式ヲ用意シ置カシメ且平常海軍軍用旅舎タルヲ明示スヘキ看板ヲ掲ケシムルモノトス

第二十七條 郡市長ハ兵事官ヨリ受領シタル被召集員到著豫定表ニ就キ意見アルトキハ之ヲ兵事官ニ通告スヘシ

第二十八條 兵事官ハ前條ノ意見ヲ調査シ改正ヲ要スト認メタルトキハ之ヲ改正ス

ルコトヲ得

第二十九條 憲兵分隊長ハ警部長ト協議シ第三十三條ニ掲クル諸行務ニ關スル準備ヲ爲シ置クヘシ

第三十條 憲兵本部、憲兵分隊首部、憲兵分隊支部、警察署、警察分署及郡市役所町村役場ニ於テハ充員召集ノ爲メ軍事警報樣式第十ヲ備ヘ置クヘシ

第三章 充員召集

第三十一條 海軍大臣及鎮守府司令長官ハ充員召集ノ令アリタルトキ之ヲ部下ニ達スルニハ樣式第十一ニ依ル

條例第二十五條ノ場合亦前項ニ同シ但應召員ナキ郡市町村ニハ此達ヲ省畧スルコトヲ得

第三十二條 鎮守府司令長官條例第二十四條ニ依リ諸官ニ通知スルニハ樣式第十二ニ依ル

第三十三條 憲兵隊長充員召集令ノ通知ヲ受タルトキ及警察署長充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ部下憲兵及警部巡查ヲシテ左ノ諸項ニ掲クル件ヲ執行セシムヘシ但シ憲兵隊ヲ置ケル地ニ於テハ憲兵主トシテ之ヲ擔當シ警部巡查ハ之ヲ補助シ憲兵

- 隊ヲ置カサル地ニ於テハ警部巡查專ラ之ヲ擔當スヘシ
- 一 船舶所有主ノ家若ハ會社等ニ到リ港内船舶乗組員中ニ被召集人ノ有無ヲ質シ其ノ發足ヲ促スコト
  - 二 豫定ノ海軍軍用旅舎ニ到リ制規ノ標旗標燈ヲ掲ケシムルコト
  - 三 海兵團ニ到ル沿道ニ於ケル渡船場、停車場、波止場等ニ出張シ旅行ノ便宜ヲ與ルコト
  - 四 旅費支給ノ場所ニ出張シ吏員ヲ補助シテ混雜ヲ制スルコト
  - 五 第十條第二ノ場所ニ軍事警報ヲ揭示スルコト
- 第三十四條 豫備役後備役准士官以上ノ召集令狀ハ其ノ旅費ト共ニ海軍省ヨリ直ニ本人ニ送付シ第三條若ハ第四條ノ手續ヲ爲サシムヘシ
- 第三十五條 郡市長充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ召集令狀中ニ年月日旅費支給日時及場所被召集員到著豫定表ニ基キ定メタル到著期日等ヲ記入シ郡長ニ在テハ之ヲ町村長ニ送付シ町村長ハ速ニ之ヲ被召集人ニ交付シ第四條ノ手續ヲ爲サシメ市長ニ在テハ直接ニ之ヲ被召集人ニ交付シ同様ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ町村長ヲシテ召集令狀ヲ保管セシムルキハ郡長ハ町村長ヲシテ本文ノ手續ヲ爲サシムヘシ

到著期日ハ鎮守府司令長官ヨリ通知ヲ發シタル日ニ被召集員到著豫定表所載ノ日數ヲ加ヘタルモノトス

第三十六條 市長充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ稅務署長ト協議シ旅費支給ノ日時及場所ヲ定メ旅費證票ヲ稅務署長ニ交付スヘシ

第三十七條 郡市役所町村役場ニ於テ充員召集令ノ達ヲ受タルトキハ其ノ揭示場ニ軍事警報ヲ掲クヘシ

第三十八條 郡市長ハ第四條ノ手續ヲ爲サシメタル召集封筒ヲ取り纏メ召集令狀ノ漏レナク通達セシヤ否ヤヲ調査シ之ヲ兵事官ニ送付スヘシ

第三十九條 豫備役後備役准士官以上召集令狀ヲ受領シタルトキハ二十四時間以内ニ發足シ一日行程少クトモ十二里以上汽車汽船ノ便アルトノ割合ヲ以テ旅行シ指定ノ場所ニ到著スヘキモノトス

第四十條 豫備役後備役下士卒召集令狀ヲ受領シタルトキハ召集令狀及自己ノ履歷表ヲ携ヘ召集令狀ニ記入シアル日時ニ於テ指示ノ旅費支給場ニ到リ旅費及旅費證票ヲ受領シ召集令狀ニ記入シアル期日ニ海兵團ニ到著シ召集令狀履歷表及旅費證票ヲ差出シ命ヲ待ヘシ

條例第二十四條ニ依リ召集令狀ヲ受取ラントスル下士卒アルトキハ郡市長若ハ町村長ハ第三十五條第一項ニ準シ召集令狀ニ所要ノ記入ヲ爲シ之ヲ交付シ被召集人ヲシテ前項ノ手續ヲ爲サシムヘシ但シ本人ノ發程ヲ差留ムヘキ違テ受タル場合ニ於テハ本文ノ手續ヲ爲サス之ヲ兵事官ニ通知スヘシ

第四十一條 豫備役後備役下士卒海兵團ニ到著シタルトキハ海兵團長ハ其ノ召集令狀及旅費證票ヲ收メ履歴表ヲ點檢シ被服食器等ヲ給シ其ノ私服ヲ格納シ第十五條ニ依リ豫定セラレタル方法ニ依リ處置スヘシ

第二十二條 海兵團長條例第三十七條ノ報告ヲ爲スニハ様式第十三ニ依ル

第四十三條 召集解除ノ達アリタルトキハ海兵團長ハ被召集人ニ私服及旅費ヲ交付シ必要ノ訓示ヲ與ヘ履歴表ヲ檢シ所要ノ記入ヲ爲シ歸郷セシム傷痍疾病犯罪逃亡其ノ他ノ事故ニ依リ歸郷セシムルコト能ハサル者其ノ事故ノ止ミタルトキ亦同シ但シ傷痍疾病者ト雖モ海兵團軍醫長ノ診斷ニ依リ車馬料ヲ給シ歸郷セシメ差支ナシト認ムルトキハ歸郷セシムルコトアルヘシ

第四章 演習召集

第四十四條 演習召集ニハ左ニ掲クル條項ノ外第三章ヲ準用ス

一 第三十三條第一第三第五

二 第三十七條

第四十五條 郡市長大演習若ハ小演習召集ノ達ヲ受タルトキハ第三十五條及第三十六條ノ手續ヲ行フヘシ但シ召集令狀中ニ記入スヘキ事項様式第三ノ四ニ依ル

第五章 簡閱點呼

第四十六條 鎮守府司令長官部下將校ニ簡閱點呼執行官ヲ命スルニハ鎮守府兵事官及海兵團分隊長ニ就キ之ヲ選フヲ例トス

各簡閱點呼執行官ニ附屬セシムル下士ハ二名トス

第四十七條 削除

第四十八條 簡閱點呼執行官條例第五十六條ニ依リ簡閱點呼召集所ヲ定ムルニハ概テ各島郡區市ニ一箇所トスルヲ例トス但シ被點呼者十名未滿ノ場合ニハ鄰郡區市ヘ召集スルコトヲ得

簡閱點呼召集所決定シタルトキハ兵事官ハ點呼令狀様式第十四及封筒様式第一ヲ郡市長ニ送付スヘシ

第四十九條 簡閱點呼執行官巡廻ノ自割決定シタルトキハ郡市長ハ點呼令狀ニ點呼

ノ日時及召集所ヲ記入シ郡長ニ在テハ之ヲ町村長ニ送付シ町村長ハ之ヲ被點呼者ニ交付シ第四條ノ手續ヲ爲サシメ市長ニ在テハ直接ニ之ヲ被點呼者ニ交付シ同様ノ手續ヲ爲サシムヘシ

第五十條 點呼ヲ受クヘキ豫備役後備役下士卒點呼召集所ニ到着シタルトキハ各自點呼令狀及履歷表ヲ簡閱點呼執行官ニ差出スヘシ

第五十一條 簡閱點呼執行官ハ到着シタル豫備役後備役下士卒ヲ兵種ノ區別ニ從テ整列セシメ點呼名簿ノ順序ニ各自ノ姓名ヲ呼ヒ終テ明治十五年一月四日ノ勅諭ヲ奉讀シ服務上ノ要件等ヲ試問シ訓示ヲ與ヘ各自ノ履歷ニ點呼ノ執行年月日及結了ノ趣ヲ記入捺印シ之ヲ本人ニ返付シ然ル後解散セシムヘシ

第五十二條 點呼執行官條例第六十七條ノ報告ヲ爲スニハ様式第十五ニ依ル附則

第五十三條 臺灣ニ寄留スル豫備役後備役下士卒ニシテ條例第二十二條第一項但書ニ依リ召集ニ應セントスル者ノ召集令狀等ノ保管ハ臺灣ヲ豫備役後備役下士卒ノ召集區域ニ編入スル迄ノ間外國在留者ニ對スル手續ニ準ス

様式第一 召集用封筒

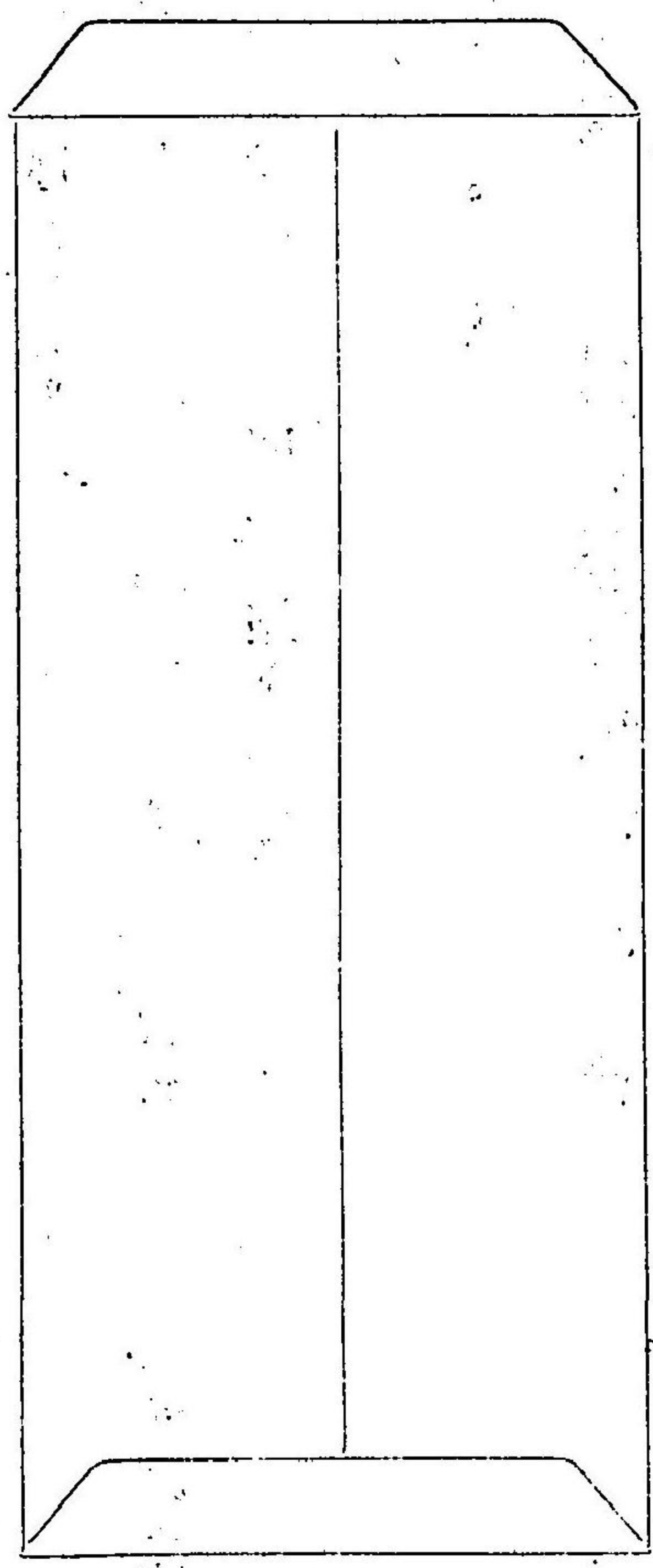
曲尺六寸二分

表

第號通		發簡時刻	
受領證	受領時刻	月 日 午後	月 日 午前
		時 分	時 分

曲尺四寸一分

裏



海軍召集條例施行細則

ゲ一四

- 一 ×ノ部ヲ赤色ニ染ル
- 二 充員召集ノトキハ×符ノ處ニ充ト朱書シ演習召集ノトキハ同處ニ演ト墨書シ簡閱點呼ノトキハ同處ニ點ト墨書ス

様式第二 (用紙美濃野紙)

豫(後)備役編入		官名住所氏名		出生年月	應記	事
年	月	日			否	

將校(機關官等何々)

豫(後)備役將校同相當官(准士官)召集名簿

様式第三ノ一 (用紙西ノ内赤色)

曲尺六寸

表 召集令狀

充員召集令狀  
(何)備役 海軍(何官) (氏名)  
召集ヲ行フニ參著スヘシ  
明治(何)年(何)月(何)日  
海軍大臣 印

(輪廓花紋罫ス)

召集令狀ニ對スル心得

- 一 此ノ令狀ヲ受取リタルトキハ二十四時間以内ニ發足シ形持參ヲ忘ルヘカ旅費ヲ受取リ一日行程少クトモ十二里以上ノ割ヲ以テ(沿道ニ汽車汽船アルトキハ之ニ依ルヘシ)旅行シ指定ノ地ニ到著シ命ヲ待ツヘシ
- 二 召集地ニ至ルノ途中汽車汽船ニ事故アリ若ハ疾病川支等ノ爲メ旅行延滞ヲ生シタルトキハ其ノ事由ト延滞セル時ヲ記シ疾病ナレハ醫師ノ診斷書汽車ノ事故ナレハ驛長若ハ會社、汽船ノ事故ナレハ船長事務長會社若ハ船主、川支等ナレハ其ノ地ノ警察官吏郡市長若ハ町

裏

三十二年  
四月省令  
第八號參看

海軍召集條例施行細則

ゲ一五

村長ノ證印ヲ受ケ到著ノ時之ヲ其ノ地ノ長官ヲ經テ海軍大臣ニ差出スヘシ

前項ノ事故ヲ生シタルトキハ迅速ナル方法ニ依リ其ノ延滞地ヨリ其事故及豫定延滞日數ヲ到著スヘキ地ノ長官ニ届出ヘシ

此ノ令狀ヲ受取リタルトキ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニテ速カニ出發シ難キカ或ハ豫定期日迄ニ指定ノ場所ニ到著スルコト能ハサル場合ニ在テハ海軍召集條例第三十三條ニ依リ事由届書ヲ二十四時間以内ニ市町村長ニ差出スヘシ

快癒若ハ事故止ミタルトキハ其ノ旨直ニ海軍大臣ニ届出テ命ヲ待ツヘシ

様式第三ノ二 (用紙西ノ内赤色)

曲尺六寸

充員召集令狀

(何)備役

海軍(何官職) (氏名)

召集ヲ行フ來ル(何)月(何)日(何)時(何)分

海兵團ニ參著スヘシ

明治(何)年(何)月(何)日

(某)鎮守府司令長官

印職

表 里

(輪廓花紋罫ス)

裏

一 旅費ハ來 日 午前 午後 時ヨリ

ニ於テ支給ス 發足ノ節ハ印形履歴表ヲ前

此ノ令狀ヲ受取リタルトキハ速カニ發足シ 持參スルヲ忘ルヘカラス

記ノ場所ニ到リ旅費及旅費證票ヲ受取リ 旅費ヲ受取ルトキ此 沿道ニ汽

車汽船ノ便アルトキハ之ニ依リ命セラレタル期日ニ海兵團ニ到著シ此

ノ令狀、履歴表及旅費證票ヲ差出シテ命ヲ待ツヘシ

發足ノ節ハ前記ノ印形履歴表ノ外ニ私服ヲ包ム爲メニ風呂敷ノ類ト之

ニ附スル姓名札 成ル可ク木又ハ革等ニテ フモ持參スヘシ

召集地ニ到ル途ニ汽車汽船ニ事故アリ若ハ疾病川支等ノ爲メニ旅行

ノ延滞ヲ生シタルトキハ其ノ事由ト延滞セル時日ヲ記シ疾病ナレハ醫

師ノ診斷書、汽車ノ事故ナレハ驛長若ハ會社、汽船ノ事故ナレハ船長、

事務長、會社若ハ船主、川支等ナレハ其地ノ警察官吏郡市長若ハ町村長

ノ證印ヲ受ケ到著ノ時之ヲ海兵團長ニ差出スヘシ

此ノ令狀ヲ受取リタルトキ傷痍疾病其ノ他ノ事故ニテ速ニ出發シ難キ

カ或ハ豫定期日ニ於テ海兵團ニ到著スルコト能ハサル場合ニ在テハ傷

痍疾病ナルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ本人ヨリ、旅行犯罪失踪等ナル

トキハ此ノ令狀ヲ受取リタル者ヨリ事由届書 鎮守府兵事 ヲ二十四時間

以內ニ市町村長ニ差出シ此ノ令狀ヲ一先ツ郡市長若ハ町村長ニ返付シ

置キ快癒若ハ事故止ミタルトキハ速ニ郡市長若ハ町村長ヨリ此ノ令狀

ヲ受取リ其ノ指示ニ從フヘシ

様式第三ノ三 (用紙西ノ内)

旅費 證 票

(何) 備役海軍(官職) (氏 名)

金(何)圓(何)拾錢  
前書ノ金員交附セリ

明治(何)年(何)月(何)日 午前(何)時  
午後(何)時

官職 氏 名 印

様式第三ノ四 (用紙西ノ内)

演習召集令狀

(何) 備役 海軍(何)官職 (氏 名)

明治(何)年(何)月(何)日ヨリ(何)(週)日間  
演習施行ノ爲召集ヲ行フ(何)月(何)日 午後(何)時  
(何々)へ參著スヘシ

明治(何)年(何)月(何)日

海軍大臣 (或ハ(某)鎮守) (府司令長官) 印

(輪廓花紋器ス)

表

裏面ハ様式第三ノ(二)ニ同シ

様式第四 (用紙美濃紙)

(何)召集區明治(何)年豫(後)備役編入下士(卒)召集名簿

編年	(何)備役	(何)備役	住 所	志願兵 徵兵別官	職 氏 名	生年月	記 事
日	入滿	期					

一 兵事官ニ於テ本名簿ヲ調製スルトキハ更ニ島郡市區ニ區分ス又郡市役所ニ於テ調製スルトキハ兵種ヲ區分ス

様式第五 (用紙美濃紙)

召集令下達時間表

島廳郡區市役所名	鎮守府ヨリ島廳郡區市役所ニ到達スヘキ時間	諸要務ノ爲メ要スル積時間	町村名	島廳郡役所ヨリ町村役所ニ到達スヘキ時間	市區町村役所ヨリ各々ニ交付スル要スル時間	決定時間

一 決定下達時間欄ニハ發布後各自ニ交付シ終ルマテノ日數ノ見積數ヲ記ス

様式第六 (用紙美濃紙)

被召集員到著日數表

市區町村名	海兵團ニ到著スヘキ日數	旅費領收等ノ爲要スル見積時間	島廳郡區市役所名	決定日數到著

様式第七 (用紙美濃紙)

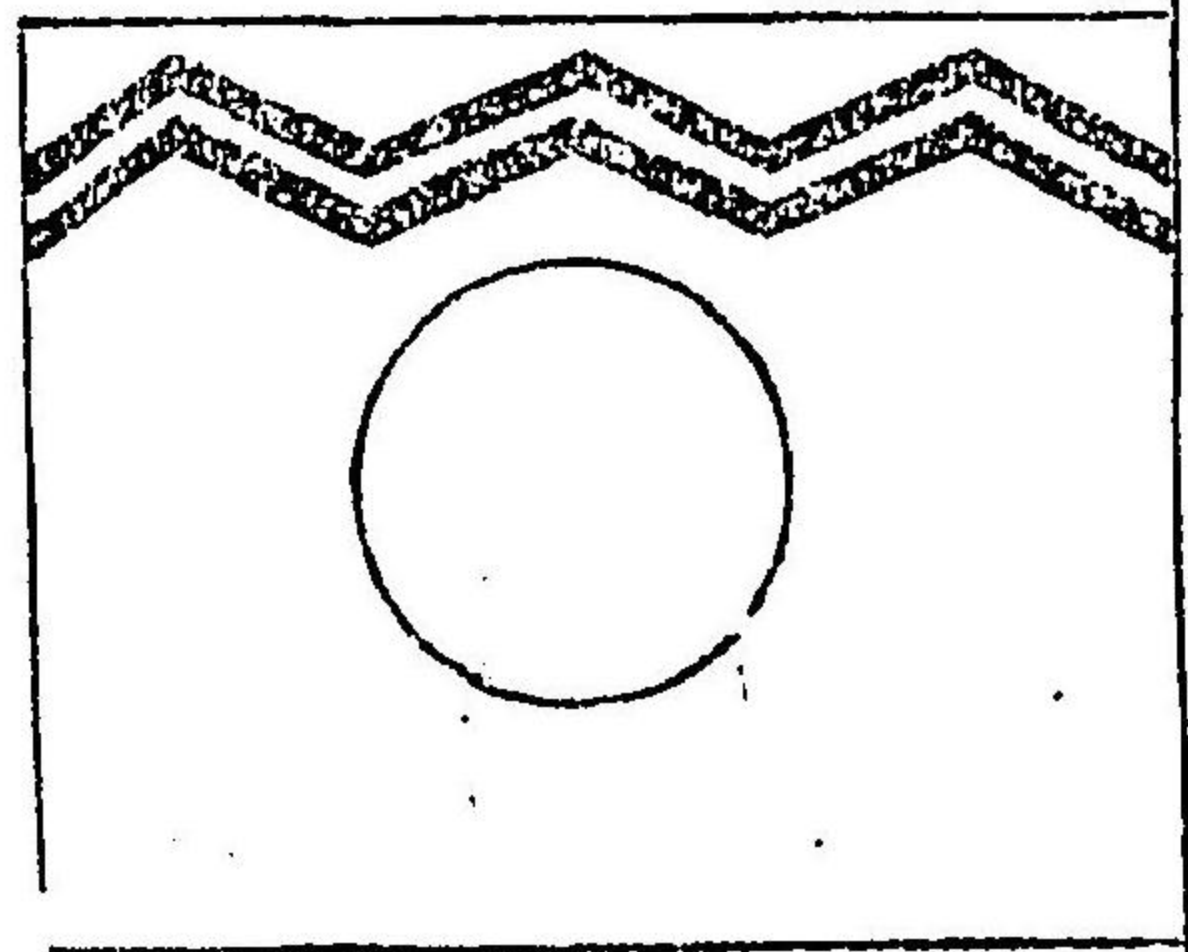
被召集員到著豫定表

召集區	島廳郡區市役所名	發令ノ豫定日數



様式第八

標 旗



普通ノ國旗ノ上部ニ海軍ノ徽章ヲ附著ス

様式第九

標 燈



普通ノ提灯ニ海軍ノ徽章ヲ附シ軍用旅舎ト記ス

様式第十

軍事警報

海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事 特ニ明治(何)年(何)月以後現  
達アリタルトキハ 役ヲ離レタル者ヲ召集スルノ  
之ヲ明記スヘシ  
明治(何)年(何)月(何)日  
公署官衙名

様式第十一 (用紙美濃野紙)

- 一 此ノ軍事警報ハ成ルヘク大キク且堅牢ノモノニテ作ルヘシ
- 二 軍事警報ノ四字ハ特ニ大書スヘシ

發送番號

(何)日午(前) (後) 充員召集ヲ令セラル  
條例第二十五條ノ場合ニ於テハ「充  
員召集ヲ令セラル」ノ上ニ「海軍豫  
備役後備役軍人」ノ十一字ヲ加フ

明治(何)年(何)月(何)日

官 氏 名 印

條例第十五條ノ場合ニ於テハ其ノ趣ヲ合記ス

様式第十二 (用紙美濃野紙)

發送番號

(何)日午(時)充員召集ヲ令セラル  
右及通知候也

明治(何)年(何)月(何)日

宛 名

鎮守府司令長官氏

名 印

條例第十五條ノ場合ニ於テハ其趣ヲ合記ス

様式第十三 (用紙美濃紙)

明治 年

豫備役(後備役)下士(卒)召集人員表

何海兵團

何 々	一 等 兵 曹	召 集 ヲ ル 人 員	召 集 ニ 應 ジ タ ル 人 員	計	召 集 ニ 應 セ サ ル 人 員	計
			勤 務 ニ 從 疾 病 ノ 爲 召 集 服 役 ヲ 免 シ タ ル 者		條 例 第 三 十 二 條 第 三 十 三 條 第 四 十 八 條 ニ 依 リ 召 集 ニ 應 ジ タ ル 者	
合 計						

表末ニ不應召百分算ノ數ヲ記ス

様式第十四 (用紙西ノ内)

點呼令狀

(何)備役

海軍(何官職)(氏 名)

來ル(何)月(何)日點呼ヲ施行ス同日午(時)第  
(何)時迄ニ(何)郡(何)村(何)所ニ參著スヘ

明治(何)年(何)月(何)日

(某)鎮守府司令長官

印 職

(輪廓花紋署ス)





附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

第二書式 傷痍疾病ニ基ク恩給請求書 (用紙美濃紙)

恩給請求書

某儀

何年何月何日(被任何官)(何々被申付)爾來何箇年服役何年何月何日  
(傷痍)(痲疾)ノ故ヲ以テ(退役)(免官)(免役)被仰付候ニ付テハ軍人  
恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官位勳爵 氏

名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

現認證書 (第五書式若クハ公文ノ寫若クハ口供書)

負傷證書 (第六書式)

診斷證書 (第七書式)

但公務ニ因ラサル傷痍疾病ニ係ルモノハ履歷書並診斷證書ノミ添付スヘシ

第三書式

傷痍疾病重傷ニ趣キ恩給ノ増加ヲ請求シ若クハ其恩給ヲ更ニ請求ノトキ

(用紙美濃紙)

恩給請求書

某儀

何年何月何日ヨリ(傷痍)(疾病)ノ故ヲ以テ(恩給及負傷増加恩給下賜)(現役ヲ離レ)候處爾來何々ニ依リ遂ニ重症ニ赴キ別紙診斷書ノ通ニ候間御檢査ノ上軍人恩給法第何條ニ據リ恩給下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

年月日

官位勳爵 氏

名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

病況書 原因經過療法ヲ詳記シタルモノ  
診断證書 (第七書式) 海軍々醫官ノ診断證書若シ軍醫官ノ診断ヲ受クル者能ハサル場合ニ限り地方醫師二名連署捺印シタル者  
更ニ恩給ヲ請求スルモノハ

履歷書 (第八書式)

現認證書 (第五書式若クハ公文ノ寫若クハ口供書)

負傷證書 (第六書式)

病況書 (同右)

診断證書 (同右)

第四書式 (用紙美濃紙)

給助金請求書

某儀

何年何月何日被任何官爾來何箇年勤續何年何月何日現役ヲ離レ候ニ就テハ軍人恩給法第何條相當ノ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

年月日

肩書第一書式ニ同シ

官位勳爵氏

名印

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

遺族ヨリ請求ノトキ

給助金請求書

故官位勳爵氏名

右現役中何年何月何日死去仕候ニ就テハ軍人恩給法第何條ニ據リ給助金下賜度證據書類相添此段請求仕候也

肩書第一書式ニ同シ

故官位勳爵氏名遺族

氏名印

年月日

海軍大臣爵氏名殿

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (第八書式)

備考 死者ニ對スル給助金ハ遺産相續人ニ賜ハルヘキモノニ付嗣子又ハ戸主ヨリ請求スヘシ

第五書式 (用紙美濃十三行罫紙)

現認證書

所轄 職官 氏 名	右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ俱ニ砲撃ノ際(何々演習ノ際何々ニ由リ何々ニ觸レ)(何々ニ由リ何物ノ爲メニ)何部ニ何傷ヲ受クルヲ現認ス
所轄 職官 氏 名 印	年月日
職官 氏 名 印	罹病ニ係ル現認證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

備考 本證書ハ勉メテ現況ヲ詳記スヘシ又現認者一名ノ場合ニ在テハ一名ニテ之ヲ造ルヘシ

第六書式 (用紙美濃十三行罫紙)

所轄 職官 氏 名 年齢	負傷證書
所轄 職官 氏 名 年齢	右者明治何年何月何日何時何分何所ニ於テ何ノ際何ノ爲メ何ノ部ニ何ノ傷ヲ負ヒタルニ由リ診査スルニ何ノ部ニ於テ大サ幾許(何部ヨリ何部ニ亘ル長幾許幅幾許)深サ幾許(何部ニ達スル)何創アリ

職官(軍醫官) 氏 名 印	明治 年 月 日
職官(軍醫官) 氏 名 印	罹病證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

第七書式 (用紙美濃十三行罫紙)

所轄 職官 氏 名 年齢	診断證書
所轄 職官 氏 名 年齢	右者明治何年何月何日何所ニ於テ何ノ際何ノ爲メ何ノ部ニ何ノ傷ヲ負ヒ何年何月何日ヨリ施療(何病院ニ入院施療)ノ處何年何月何日何ノ手術ヲ行ヒ何年何月何日傷癒治癒スト雖モ何ノ部位ヲ失ヒ(何部ノ知覺若クハ運動麻痺ヲ胎シ何ノ機能缺如シ若クハ幾許碍ケラレ或ハ周圍ノ癢痕若クハ關節面ノ癒着若クハ何ニ由リ何關節ニ強直若

海軍恩給出願書式

五八

クハ變縮ヲ胎シ全ク伸縮機能ヲ缺キ若クハ伸展及屈曲ノ角度幾許ニ過キス或ハ視力餘リ缺如シ若クハ幾許ノ視力ヲ失ヒ或ハ聽覺缺如シ若クハ聽覺ヲ失ヒ(永久服役)或ハ現役ニ堪ヘ難キ者ト診斷ス

明治 年 月 日

職官(軍醫)

官 氏

名 印

臨監鎮守府軍醫長

官 氏

名 印

疾病ニ係ル診斷證書ノ書式ハ本證書ニ準ス

備考 入院患者ニアリテハ病院長之ヲ作ルモノトス

第八書式 (用紙美濃紙)

履 歷 書

府 市 區 町 何 番 地 華 士 族 (平民)

何 縣 何 郡 何 市 區 何 町 何 番 地 寄 留

職官 氏 名

何年何月何日生

明治何年何月何日

海軍何等兵(夫)申付(任何官)

(任官ノ文官ニ係ルモ應ヲ任官ノ下ニ)

同

一々記載スヘシ) 何々ノ科海軍刑法第何條ニ依リ輕禁錮何日

同 任海軍二等兵曹 某國(外)航海但軍艦(警備ノ役務ヲ帶ヒテ航海シタ) 某地從軍但軍艦何乘組(ル時ハ其事由ヲ附記スヘシ) 其他、歸着

同 任海軍上等兵曹

同 任海軍少尉

同 叙正八位

同 任海軍大尉

同 叙高等官何等

同 叙勳何等賜何々章

同 何々ニ依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(免役)

右之通相違無之候也

官位勳爵 氏

名 印

死者ノ遺族ヘ下付スヘキ履歷書モ之ニ準ス

但與書ヲ要セス又用紙ハ美濃十三行野紙トス

海軍恩給出願書式

五九



第九書式 恩給ヲ受ケタル後再ヒ現役ニ就キ若クハ戰時召集ニ應シ(用濃紙) 滿一年以上服役シタル者其恩給増加ヲ更ニ請求ノトキ(美濃紙)

恩給請求書

某儀

何年何月何日(豫備)(後備)被仰付(退職)(免除)恩給下賜相成居候處  
何年何月何日(現役ニ就キ)(何々ノ役ニ付召集ヲ命セラル(爾來服役  
何年何月何日)何々ニ依リ(豫備)(後備)(退役)(免官)(免役)被仰付  
(召集ヲ解カレ)候ニ就テハ軍人恩給法ニ據リ更ニ相當ノ恩給増加下  
賜相成度證據書類相添此段請求仕候也

何府市區町何番地華士族(平民)  
何縣何郡何村何番地寄留  
何府市區町何番地寄留

官位勳爵氏名

海軍大臣爵氏名殿

卒ハ舊所管長官ニ宛ツヘシ

附屬スヘキ證據書類

履歷書 (出身以來再ヒ現役ヲ離レ若クハ召集ヲ解カレタルトキマテノ全文ヲ記載スヘシ)

勅令第八十一號 (明治二十三年八月廿九日)

屯田兵條例

- 第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ其警備ニ充ツ
- 第二條 屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕稼ニ從事セシム
- 第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召集シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム
- 第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役八箇年後備役十二箇年トス後備役中ハ戰時若クハ時變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習ノ爲メ召集シ及簡閱點呼ヲ爲ス
- 屯田兵ニシテ召集ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサル者ハ兵役ヲ免ス
- 第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ時變ニ際シ召集ス
- 第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス

廿七年七月勅令第九十四號 參看

屯田兵條例

第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

第八條 明治二十七年以前ニ召募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム

- 一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム
- 二 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム
- 一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
- 一 明治二十二年以後明治二十四年以前ニ召募シタル者及明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル騎兵、砲兵、工兵ハ三箇年間現役ニ四箇年間豫備役ニ三箇年間後備役ニ服セシム
- 一 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル歩兵ハ七箇年間現役ニ十三箇

年間後備役ニ服セシム

第九條 前條ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

第十條 豫備服役中ハ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス又平時ニ在テハ勤務演習其ノ他特ニ公務ニ服セシムル爲メ召集ス

三十一年  
九月省令  
第十三號  
削參看  
除

●陸軍省令第二十一號 (明治三十年八月九日)

屯田兵召募規則

- 第一條 屯田兵ハ志願者中召募検査ニ合格シタル者ヨリ所要ノ人員ヲ採用シ毎年四月ニ於テ移住セシム
- 第二條 屯田兵召募ノ區域及人員ハ移住スヘキ前年之ヲ告示ス
- 第三條 屯田兵ニ採用スヘキ者ハ左ノ資格ヲ具フルヲ要ス
- 一 年齢滿十七歲以上滿二十五歲以下移住年ノ四月一日ヲ以テ算ス以下同シノ者  
但陸軍各兵科豫備後備補充兵在役ノ下士上等兵ハ滿三十歲以下ノ者
- 二 身長五尺以上ノ者  
但年齢二十歲未滿ニシテ發育ノ見込アル者ハ四尺九寸以上ノ者
- 三 身體強壯ニシテ兵農ノ動作ニ堪ユル者
- 四
- 五 同戶籍内ニ年齢滿十五歲以上滿六十歲以下ニシテ身體強壯且北海道ニ移住シ志願者ヲ助ケ農業ニ従事スルノ志操確實ナル者二人以上ヲ有スル者
- 第四條 第三條ノ資格ヲ具フル者ト雖モ左ノ事項ノ一ニ該ル者ハ採用セス

屯田兵召募規則

- 一 陸海軍現役兵及海軍豫備兵後備兵
- 二 本人又ハ其戸主身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ未タ復權ヲ得サル者並ニ其處分ヲ受ケスト雖モ移住迄ニ負債ヲ辨償シ得サル者
- 三 素行修マラサル者
- 四 禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 五 養子ニシテ入籍後第五條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
- 六 召募區域内ニ本籍ヲ定メ第五條ノ出願時期迄ニ一箇年ニ滿タサル者
- 第五條 屯田兵志願者ハ第二條ノ告示ニ依リ八月三十一日迄ニ第一書式ノ願書第二書式ノ明細書各二通ヲ作り市町村長東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長以下同シニ差出スヘシ
- 第六條 市町村長前條ノ書類ヲ受領シタルトキハ第二書式ニ照シテ事實ヲ調査シ之カ證明ヲ爲シ聯隊區司令官警備隊司令官ヲ包含ス以下同シニ差出シ町村長ハ島司郡長ヲ經テ聯隊區司令官ハ更ニ之ヲ審査シ該書類各一通ニ第三書式ノ連名簿ヲ添ヘ九月三十日迄ニ第七師團長ニ送付スヘシ
- 第七條 聯隊區司令官ハ検査場ヲ定メ検査日割ヲ島司郡市長ニ通知シ島司郡市長ハ

之ヲ町村長ニ達スヘシ

市町村長ハ検査當日ニ至レハ市町村吏員ヲシテ志願者及第三條第五ニ該當スル者ヲ引纏メ検査場ニ出頭シ召募検査ヲ受ケシムヘシ

前項受檢者ノ検査場往復ニ關スル費用ハ自辨トス

第八條 召募検査ハ其召募區域内ニ於ケル聯隊區司令官之ヲ行フ

第九條 聯隊區司令官召募検査ヲ終レハ第四書式ノ検査成績連名簿ヲ作り軍醫ノ體

格検査表ト共ニ十一月三十日迄ニ到達スル如ク第七師團長ニ送付スヘシ

第十條 第七師團長ハ検査成績連名簿及其他ノ書類ニ就キ審査ヲ爲シ採用スヘキ者ノ戸籍内ニ於テ扶助ヲ受クヘキ人員採用者共ニ五人迄豫備員及集合地集合期日ヲ定メ聯隊區司令官ニ通知シ聯隊區司令官ハ島司郡市長並ニ町村長ヲ經テ之ヲ本人ニ告達スヘシ

第十一條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者ハ直ニ同戸籍内ノ者十五歲以上ノ者ト共ニ第五

書式ノ誓文ヲ作り市町村長並ニ島司郡長ヲ經テ聯隊區司令官ニ差出スヘシ

前項ノ誓文ハ聯隊區司令官之ヲ取纏メ第七師團長ニ送付スヘシ

第十二條 屯田兵ニ採用スヘキ者ノ支度料旅費日當及運搬料ハ第七師團司令部ヨリ

聯隊區司令部ニ送付シ聯隊區司令官ハ之ヲ本人ニ支給スヘシ

第十三條 屯田兵志願者ニシテ出願後第四條ノ事項ニ該當シ若クハ屯田兵志願者及其戶籍内ノ者失踪死亡犯罪其他第二書式ノ明細證明書ニ異動ヲ生シタルトキハ戶主ヨリ速ニ市町村長竝ニ島司郡長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ但其事故戶主ニ係ルモノハ家族中家事ヲ擔當スル者ヨリ本文ノ例ニ依リ届出ヘシ

第十四條 屯田兵志願者及第三條第五ニ該ル者ニシテ召募検査後傷痍若クハ疾病ニ依リ癱疾不具トナリタルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ戶主ヨリ速ニ市町村長竝ニ島司郡長ヲ經テ其旨聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十五條 第十三條第十四條ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ市町村長町村長ハ島司郡長ヲ經テヨリ速ニ聯隊區司令官ニ届出ヘシ

第十六條 第十三條第十四條第十五條ノ届出アルトキハ聯隊區司令官ハ直ニ之ヲ第七師團長ニ通報スヘシ

第十七條 第七師團長第十六條ノ通報ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其事故第三條ノ資格ヲ缺キ若クハ第四條ノ事項ニ該當スルモノナルトキハ屯田兵採用ノ達ヲ取消シ其缺員ハ豫備員ヲ以テ補充スルモノトス但採用ヲ取消シタル者既ニ支度料旅費日當及運搬料支給後ニ係ルトキハ聯隊區司令官之ヲ返納セシムヘシ

前項缺員補充ノ手續ハ第十條ノ例ニ依ル

第十八條 屯田兵ニ採用ノ達ヲ受ケタル者若クハ其戶籍内ノ者ニシテ疾病其他正當ノ事故ニ依リ指定ノ期日ニ移住シ難キ者アルトキハ期日ヲ豫定シ疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書其他ノ事故ニ係ル者ハ憲兵警察官若クハ市町村長ノ證明書ヲ添ヘ聯隊區司令官ニ移住ノ猶豫ヲ願出テ許可ヲ受クヘシ但本文ノ事故止ミタルトキハ聯隊區司令官ニ届出テ支度料旅費日當及運搬料ヲ受領シ直ニ出發スヘシ

聯隊區司令官前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ屯田兵受領員ニ通報スヘシ

第十九條 屯田兵移住ニ際シ聯隊區司令官ハ副官若クハ書記ヲシテ集合地ニ派遣シ屯田兵受領委員ニ引渡サシメ且其宿泊乘車乗船等ニ係ル取扱ヲ補助セシムヘシ

第二十條 移住者ノ荷物ハ一戸ニ付八箇以内トシ一箇ノ重量ハ九貫目以内トス但左ニ掲クル物件ハ携帯スルヲ許サス

- 一 容積長サ三尺幅二尺高サ二尺以上ノモノ
- 二 梱包堅固ナラサルモノ又ハ標識所定ノ式ニ違フモノ
- 三 漬物若クハ流動物ヲ入レタル樽ノ類
- 四 甕若クハ臼ノ類

- 五 危險物
  - 六 以上掲クルモノノ外取扱ニ困難ナルモノ
- 附則

第二十一條 市町村制ヲ實施セサル地方ニ在テハ本規則中市町村長ノ職務ハ區戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第一書式 用紙美濃白紙

屯田兵服役願

某儀

屯田兵志願ニ付御檢査ノ上御採用被下度然ル上ハ家族一同北海道へ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ可申依テ別紙明細證明書相添此段奉願候也

年 號 月 日

族籍(戸主ニアラサルモノハ某子弟等)

產地 住所

姓

名 印

年月日生  
何年何ヶ月

第七師團長何某殿

右之通願出候ニ付取調候處相違無之候也

何府(縣)何市(郡町(村))長 姓 名 印

一 志願者戸主ニアラサルトキハ戸主連署スヘシ

第二書式甲

志願者明細證明書		志願者 姓 名	
履 歴	財 産	身 元 證 明	
一 何年月日ヨリ何業ニ從事何年間繼續目下何々業後何々ニ轉業傍ラ何何業ニ從事	右 賣拂價格 約何百何拾圓	一 身代限ノ處分又ハ家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ ルコトナシ 身代限ノ處分ヲ受ケシモ既ニ負債ノ辨償ヲ終ル 家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケシモ既ニ復權ヲ得タリ 現今負債ヲシ現今何々ノ負債アリト雖モ移住前ニ辨償シ得ルノ見込アリ	三 陸海軍現役兵若ク
一 何年月日ヨリ何年(何職)任免何省府	右 賣拂價格 約何百何拾圓	二 山 畑 田 林 何 町 何 段 何 畝 何 步 何 町 何 段 何 畝 何 步	
一 何年月日ヨリ何年(商業)ノ爲メ何所(留學)ノ爲メ何所(留學)ノ爲メ何所	右 賣拂價格 約何百何拾圓	三 陸海軍現役兵若ク	
一 何年月日ヨリ何年(何職)任免何省府	家財賣拂價格 約何百何拾圓		

<p>縣廳</p> <p>一 何年月日何々ニ依リ賞典何々下賜ノ科</p> <p>二 何年月日何々ノ科ニ依リ何罰申付ラ</p> <p>注意</p> <p>履歷書ハ最モ精密ニ記載スヘシ</p> <p>書式ニ示ス外履歷ニ係ルモノハ悉ク記スヘシ</p>				<p>貸</p> <p>金ナシ</p>	<p>貯</p> <p>公債證書何百圓</p> <p>現金何拾圓</p> <p>計何百何拾圓</p>	<p>差</p> <p>引財產</p> <p>計約何百何拾何圓</p>	
<p>右之通候也</p> <p>注意 年 月 日 志願者 戸主ニアラサルトキハ 戸主連署</p> <p>右之通相違無之ヲ證明ス</p> <p>何府(縣)何市(郡町(村))長 姓 名印</p>				<p>ハ海軍豫備後備役</p> <p>兵ニアラヌ</p> <p>禁錮ノ刑ニ處セラ</p> <p>レタルコトナシ</p> <p>品行何々</p> <p>召募區域内ニ本籍ヲ定メ出願時期迄ニ一箇年ヲ經過ス</p> <p>家族中禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ノ有無</p> <p>本人養子ナルトキハ入籍後出願時期迄ニ一ケ年ヲ經過セリト雖モ南田兵ニ採用セラレントニシテ一時ヲ纏縫ルヤ否</p>			

項事考參

一 父某何々ノ廉ヲ以テ何年月金何圓賞賜セララル

二 何年月何縣水害ノ際金何圓密附

財產ハ前記證明ノ如シト雖モ經濟ハ功妙ナラス又慈善義俠ノ風ニ富ムヲ以テ貯蓄心ハ稍薄シ云

本人剛愎ナルト酒癖アルトニ依リ時々村吏ヲ罵詈シ云々

- 一 履歷、財産ハ志願者之ヲ記載シテ差出シ身元證明及參考事項欄内ニハ證明者之ヲ記入ス
- 二 本證明書ハ志願ノ採否ニ關セス之ヲ返附セサルモノトス
- 第二書式乙

<p>志願者何某家族明細證明書</p> <p>注意</p> <p>一 志願者ト共ニ移住セサルモノハ總テ△印ノ符號ヲ附スヘシ</p> <p>二 附籍者ハ總テ朱書スヘシ</p>		<p>區</p> <p>大 滿十五歲以上六十歲未滿</p> <p>中 滿十二歲以上二十歲未滿</p> <p>小 滿四歲以上七歲未滿</p> <p>計</p>	
<p>父</p> <p>某</p> <p>年號</p> <p>月日</p> <p>何ケ年</p> <p>木挽ヲナス</p>	<p>母</p> <p>某</p> <p>年號</p> <p>月日</p> <p>何ケ年</p> <p>業</p> <p>何々</p>	<p>身元證明</p> <p>何年月日何々ノ科ニ依リ輕禁錮何々ニ處セラレ爾後改悛何年ノ久シキモ異變ヲ見ス</p>	<p>身體證明</p> <p>甲ト認定ス</p> <p>體格強壯ニシテ農事ニ耐ユ何歳ノ時何病ニ罹リシコトアレトモ爾後疾病ナシ</p> <p>甲ト認定ス</p>

兄 兄某妻 嫂 妻 長男 長女 附籍 (朱書)	△某同右同右商 △某同右同右織 某同右同右同 某同右同右同 何某同右同右織	業 何某日何某長女入籍 何某第一補充兵編入 何某日何某次女入籍 何某日何某次女入籍	體格稍強壯ナレ云々 體格強壯ナレトモ何歳ノ時何病ニ罹リ目下失明セントス 體格稍強壯ナレ云々 發育不全 稍健 同右
	右之通候也 年月日 注意 志願者戸主ニアラサルトキハ戸主連署ス 右之通相違無之ヲ證明ス	市(町村)長 姓 名印 右診斷之上相違無之ヲ證明ス 年月日 醫師姓名印 何市(郡町)村)	

參考事項

一家ノ景況戸主何某何々ニシテ家内ノ折合宜シカラサルノミナラス稍村内ノ厭惡スル所トナル然ルニ何某ハ稍村内ニ名望アリ此徒奮テ屯田兵トナリテ移住セントス將來大望アリ

戸主何某ハ頗ル狐猾ナレトモ志願者ト共ニ移住セントスル者ハ皆善良ナリ將來モ現今ト大差ナカルヘシ

概スルニ一家稍健康ナレトモ何々症ノ遺傳病ナキヤ疑アリ其故ハ亡祖父何病ニ罹レリト云々

市町村長之ヲ證明ス〇二 參考事項欄内ニハ證明者記入ス〇三 身體證明欄内甲トハ本則第三條第五ニ該當セルト認メシ者トス〇四 本證明書ハ志願者ノ採否ニ關セス之ヲ返付セサルモノトス〇五 本表家族トハ出願時期ニ於ケル家族ノ名ヲ記入スルモノトス〇六 志願者戸主ニアラサルトキ本表身元欄内ニ現戸主ハ身代限ノ處分ヲ受ケアラサルヤ等ヲ記入ス

第三書式 用紙罫紙

何聯(警備)隊區屯田兵志願者連名簿

住所ヨリ集合見込地ニ至ル里程	住所	分區		大	中	小	計	姓名
		男	女					
甲	何郡何村	二	二				五	戶主 何某
乙	何郡何村	一	二				四	何某次男 何某
丙								
丁								



一里程欄内ニ甲乙丙丁トアルハ附表屯田兵採用者集合見込地名表ニ據リ各見込地ノ里程ヲ記入スヘシ但シ一里ニ滿タサル端數ハ記スルヲ要セス  
 第四書式 用紙白紙

合格(不合格)者檢査成績連名簿

何聯(警備)隊區

姓名	職業	兵役	年齢	等位	身長	教育程度	志操参考事項	家族中強壯者			
								名	参考事項		
何 某農	陸軍豫(後)備步兵二等卒		何年何月	甲種	何尺何寸	上	確實ニテ温厚ニテ能ク交際ス	父某何	兄某何	弟某何	母某何
何 某農	陸軍第一補充兵(何年入隊)		何年何月	乙種	何尺何寸	中		父某何	兄某何	弟某何	母某何
何 某農			何年何月	乙種	何尺何寸	下		父某何	兄某何	弟某何	母某何

- 一 職業ニ兼業アルモノハ之ヲ併セテ記シ可成精密ナルヘシ
- 二 年齢ハ移住年ノ四月二日ヲ以テ計算スヘシ
- 三 教育ノ程度ハ高等小學校卒業又ハ凡ソ之ト同等以上ノモノヲ上トシ尋常小學校卒業又ハ凡ソ之ト同等以上ノモノヲ中トシ稍簡易ノ算筆ヲ爲シ得

四 志操及參考事項欄内ニハ本表ノ例ヲ示スノ外町村中名望アルモノ或ハ郷黨ニ指彈セラル、モノ等志操欄内ノ記事ト共ニ可成採否決定上ニ參考トナルヘキモノヲ多ク記載スヘシ

五 家族中強壯者欄内ニハ第三條第五ノ資格アルモノノミヲ記入スヘシ  
 第五書式 用紙美濃白紙

誓文

- 今般何某屯田兵ニ御採用相成候ニ付テハ同戶籍内ノ者一同北海道ニ移住シ共ニ御規則嚴重ニ相守リ兵役者服役中ハ決シテ免役等請願仕間敷尙ホ左ノ條々堅ク遵守可仕候依テ戶主及家族連署誓文如件
- 一 兵役者年齢滿限若クハ死亡其他ノ事故ニ依リ免役ト爲リタルトキハ戶主若クハ家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシムヘキ事
  - 二 戶主ハ家族ヲ訓戒誘導シ一家舉テ兵役者ヲ輔ケ一家ノ業務ニ從事シ特ニ兵役者出務ノ間ハ戶主若クハ家族中ノ年長者ニ於テ一切ノ取締ヲ爲シ兵役者ヲシテ内顧ノ憂ナカシムル様可仕事
  - 三 兵役者ハ勿論其他ノ者ト雖許可ヲ得スシテ兵村以外ニ寄寓シ若クハ他ノ業務

屯田兵召募規則

ニ從事スル等ノコト仕間敷事  
 四 師團長及隊長ノ御達竝御訓示等ハ一家舉テ嚴重ニ遵守シ決シテ違背仕間敷事

年月日

本人  
 父  
 母  
 兄(弟)(妻)

何何何何  
 某某某某  
 印印印印

附表

屯田兵採用者集合見込地名表

番師		管		號		管	
聯隊區ハ		〇印		區備		隊警	
甲		乙		丙		丁	
近衛	本郷濱横	宇都宮	宇都宮	古河	濱	第一	高崎古河濱
佐倉	千葉古河	濱	仙臺	仙臺	萩濱	〇小笠原	島横濱下田
水戸	水戸	宇都宮	古河	濱	濱	長野	長野高崎直江津濱
麻布	濱	濱	濱	濱	濱	福島	福島白河萩濱
柏崎	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	第二	新發田新潟
〇佐渡	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	和歌山	和歌山邊和歌山神戶堺
弘前	青森	弘前	前	前	前	大津	大津大津草津敦賀四日市
盛岡	盛岡	宮古	古	古	古	京都	京都都郡山宮津神戶
秋田	船川	土崎	酒田	米澤	澤	福知山	敦賀宮津神戶坂越
山形	山形	酒田	米澤	澤	澤	神戶	神戶神戶敦賀坂越宮津
名古屋	四日市	鳥羽	武豊	名古屋	古屋	姫路	路坂越神戶宮津多度津
津	四日市	鳥羽	武豊	豊	豊	岡	山坂越尾道境多度津
豐	橋	鳥羽	江尻	四日市	武豊	廣島	島宇品新湊尾道
靜岡	岡江	尻	四日市	鳥羽	武豊	山	山口新湊三田尻門司宇品
金澤	伏木	七尾	敦賀	賀	賀	濱	濱
富山	伏木	七尾	敦賀	賀	賀	濱	濱
鯖江	敦賀	四日市	市	市	市	濱	濱

第九		第三		第八		第四		第五		第十	
鯖江	敦賀	四日市	市	山形	酒田	米澤	澤	濱田	品境	濱田	品
富山	伏木	七尾	敦賀	山形	酒田	米澤	澤	山	山口	新湊	三田
金澤	伏木	七尾	敦賀	山形	酒田	米澤	澤	尾	道	品	尾
靜岡	岡江	尻	四日市	鳥羽	武豊	豊	豊	廣島	島	宇品	新湊
豐	橋	鳥羽	江尻	四日市	武豊	豊	豊	岡	山	坂	越
津	四日市	鳥羽	武豊	豊	豊	豊	豊	姫路	路	坂	越
名古屋	四日市	鳥羽	武豊	名古屋	古屋	姫路	路	神戶	神戶	敦賀	坂
山形	山形	酒田	米澤	澤	澤	神戶	神戶	神戶	神戶	敦賀	坂
秋田	船川	土崎	酒田	米澤	澤	京都	京都	京都	京都	都郡	山
盛岡	盛岡	宮古	古河	濱	濱	大津	大津	大津	大津	草津	敦賀
弘前	青森	弘前	前	前	前	和歌山	和歌山	和歌山	和歌山	邊	和歌山
〇佐渡	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	大阪	大阪	大阪	大阪	神戶	敦賀
柏崎	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	大阪	大阪	大阪	大阪	神戶	敦賀

屯田兵召募規則

				第十一									
○隱岐境	丸龜多度津尾道	德島德島	松山今治宇和島	高知多度津神戶高知松山	熊本門司三角熊本博多	大村三角平戶長崎	鹿兒島鹿兒島米ノ津三角	第六宮	崎鹿兒島細島大分油津	○大島鹿兒島名瀬	○沖繩那覇鹿兒島	○五島平戶長島	○對島平戶博多長崎
				第十二									
小倉門司博多大分	大分大分門司三角	福岡門司博多三角久留米	佐賀平戶三角鳥栖博多										

●法律第七十九號 (明治二十三年九月五日)

屯田兵土地給與規則

- 第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス  
屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡ソ二萬坪ノ土地ヲ給ス
- 第二條 移住ノ屯田兵二百五十戸以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス
- 第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス
- 第四條 移住ノ年ヨリ三十年間ハ屯田兵ニ給與シタル土地ノ讓渡若クハ質入書入ハ無効トス且強制執行ヲ之ニ施スコトヲ得ス
- 第五條 屯田兵ニ給與シタル土地ニシテ移住ノ年ヨリ三十箇年ヲ過キテ開墾セサル部分ハ沒收ス

屯田兵土地給與規則

廿八年三月勅令第三十五號  
參看

三十年三月法律第三十一號  
參看

第六條 屯田兵ニシテ召募ノ條件ニ違背シ其他正當ノ理由ナクシテ兵役ノ義務ヲ履行セサルトキハ其ノ給與シタル土地ヲ沒收ス

前項ニ依リ土地ヲ沒收スルトキハ給與ノ建物及其ノ土地ニ定著スル給與ノ物件併セテ之ヲ沒收シ其ノ他ノ建物及物件ハ期限ヲ定メテ之ヲ取除カシム若期限迄ニ取除カサルトキハ競賣ニ附シ其ノ費用ヲ引去リ殘額ヲ交付ス

第七條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵ニ給與ノ土地本則第一條ノ坪數ニ及ハサルモノハ之ニ滿ツル迄追給ス

其ノ屯田兵村ニハ公有財産トシテ土地ヲ給ス其坪數及管理ノ方法等ハ本則第二條ノ例ニ依ル

第八條 従前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免ス

明治十七年ヨリ同二十三年マテニ召募シタルモノニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

第九條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレタルトキハ給與ノ土地ハ其ノ兵役相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

第十條 屯田兵死亡シ又ハ服役ヲ免セラレ兵役相續人ヲ缺クトキハ其ノ給與ノ土地

ハ家督相續人ニ其ノ所有權ヲ相續セシム

前項ノ所有權ハ後日兵役ヲ相續スル者アルトキ之ヲ其ノ服役者ニ移スモノトス

第十一條 前條ノ場合ニ於テ家督相續人定マラサルトキハ其ノ間家族ヲシテ其ノ土地ヲ保管セシム

第十二條 此ノ規則中屯田兵ニ關スル規程ハ第十條第一項及第十一條ニ依リ給與ノ土地ヲ所有若クハ保管スル者ニモ之ヲ適用ス

三十年七月  
勅令第七  
二百六十一  
號參看

●勅令第九十六號 (明治二十七年七月十一日)

屯田兵移住給與規則

第一條 屯田兵及其ノ家族移住ノ際ハ支度料、旅費日當、運搬料トシテ左ノ金額ヲ給

與ス但旅費日當ノ給與ハ一戸ニ付五人迄トス

一 支度料 一戸ニ付五圓

二 旅費日當 一人一日ニ付三十錢 七歳未満ハ半額

三 運搬料 一戸一日ニ付二圓六十錢

第二條 旅費日當及運搬料ハ一日行程ヲ十里計トシ給與ス

一里以上六里未満ハ半額、六里以上ハ全額ヲ給與ス但一海里ハ陸路十六町九分七厘五毛ニ改算ス

第三條 集合地ヨリ移住地迄ノ旅行ニ關スル費用ハ一戸ニ付五人迄官ニ於テ仕拂フモノトス

第四條 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ居残り若クハ途中ニ於テ滞在シ他日移住地ニ至ル迄ノ旅費日當及運搬料ハ移住地迄順路ニ依リ給與ス

疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ途中ニ於テ滞在シタルトキハ一人一日ニ付三十錢

屯田兵移住給與規則

七歲未滿ノ日當ヲ給與シ其ノ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ醫師又ハ病院ニ於テ治療ヲ受ケタル者ハ診斷料、治療費及入院料入院料ヲ給與スルトキハ日當ヲ給與セスハ實費ヲ給與ス但傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ハ醫師ノ診斷書、其ノ他ノ事故ニ由リタル者ハ憲兵、警察官若クハ市町村吏員ノ證明書ヲ差出スヘシ

第五條 屯田兵移住シタルトキハ兵屋、井戸屬具、家具、夜具、農具、種物、扶助米及鹽菜料ヲ給與ス但井戸及屬具ハ實際ノ景況ニ由リ二戸以上ニ一箇ヲ給與スルコトヲ得

移住後滿三箇年間ニ於テ變災ノ爲メ前項ノ兵屋、家具、夜具及農具ハ亡失若クハ破損シ其ノ用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ更ニ之ヲ給與スルコトヲ得

第六條 家具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 一 鍋 大小 各一箇
- 二 茶 碗 五箇
- 三 手 桶 一荷
- 四 小 桶 一組
- 五 擔 桶 一荷

第七條 夜具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス

- 六 柄 杓 一箇
- 七 燈 具 一箇
- 八 鐵 瓶 一箇
- 一 四 布 三枚
- 二 三 布 二枚

第八條 農具ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但農業ノ趣ヲ異ニスル移住地ニ在テハ他ノ物品ヲ換給スルコトヲ得

- 一 鍬 大小 各一挺
- 二 唐 鍬 大小 各一挺
- 三 砥 荒砥、中砥、鎌砥 各一箇
- 四 鉈 一挺
- 五 鋤 二挺
- 六 斧 一挺
- 七 鋸 大小 各一挺

屯田兵移住給與規則

七四

- 八 鎌 柴刈、草刈 各一挺
  - 九 筵 二十枚
  - 十 熊手 二挺
  - 十一 培養桶 一箇
- 右ニ掲クル外四戸ニ付唐箕一箇六戸ニ付臼杵共一箇ヲ給與ス
- 第九條 種物ハ一戸ニ付左ノ現品ヲ給與ス但其ノ土地ニ適セサルトキハ他品ヲ換給シ又時宜ニ依リ代金ヲ給與スルコトヲ得
- 一 麻種子 一斗
  - 二 大麥 一斗
  - 三 小麥 一斗
  - 四 大豆 二斗
  - 五 小豆 五升
  - 六 馬鈴薯 四斗
  - 七 蠶卵紙 四半紙
- 第十條 扶助米及塩菜料ハ一戸ニ付五人迄移住地到着ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間

左ノ區分ヲ以テ毎月之ヲ給與ス但端日數ノ場合ニハ其ノ月ノ日數ヲ以テ月額ヲ除シ給與スヘキ日數ニ乘シテ給額ヲ定ム

給與年限	區分		一人一箇月ノ給額	
	甲	乙	扶助米	塩菜料
第一期 移住ノ月ヨリ滿二箇年間	甲	乙	玄米二斗二升五合	四十五錢
	乙	丙	玄米一斗五升	三十五錢
	甲	乙	玄米一斗三升五合	三十一錢
	乙	丙	玄米九升	二十一錢
第二期 第一期後滿一箇年間	甲	乙	玄米一斗四升	二十二錢
	乙	丙	玄米五升	十二錢
第三期 第二期後滿二箇年間	甲	乙	玄米四升五合	十七錢
	乙	丙	玄米三升八合	十四錢
	甲	乙	玄米三升	十一錢
	乙	丙	玄米一升	七錢

甲額ハ十五歳以上六十歳未滿ノ者ニ、乙額ハ七歳以上十五歳未滿及六十歳以上ノ者ニ、丙額ハ七歳未滿ノ者ニ給與ス

扶助米及塩菜料ハ毎月一日ノ現員ニ應シ前渡ヲ爲スコトヲ得

第十一條 移住地到着後五日以内ハ扶助米及塩菜料ニ換ヘ一人一日ニ付三十錢 七歳未滿ハ半額以内ノ現賄ヲ給與シ又時宜ニ由リ到着後三十日以内ハ玄米ヲ二割減ノ割合ヲ

屯田兵移住給與規則

七五

以テ精米ニ換ヘ給與スルコトヲ得

第十二條 扶助米及鹽菜料ノ給與方左ノ如シ

一 疾病其ノ他正當ノ事故ニ由リ期日ニ後レ移住スル者ハ到着ノ翌日ヨリ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

二 附籍者ニシテ附籍主ト共ニ移住スル者ハ鰥寡孤獨ニシテ自營シ能ハス親戚ノ縁故ニ依リ附籍ノ者ニ限リ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

三 移住後滿三箇年以内ニ於テ婚姻、縁組及出産ノ爲メ入籍スル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給與ス

四 家族中恩給、扶助料其他官給ヲ受クル者ハ其ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

五 屯田兵給與令ニ依リ糧食及食料ヲ受クルトキ並ニ軍隊旅行演習旅行其ノ他旅費ヲ受クルトキハ日割ヲ以テ扶助米及鹽菜料ヲ控除ス

六 屯田兵條例第四條第四項ニ依リ兵役ヲ免セラレタルトキハ扶助米及鹽菜料ノ給與ヲ止ム

七 第一第三ニ該ル者ハ其戸主扶助滿限ノ日ヲ以テ扶助ノ終期トス

八 逃亡失踪其ノ他縱ニ兵村ヲ離ルル者ハ其ノ不在ノ間扶助米及鹽菜料ヲ給與セ

九 正當ノ手續ヲ爲シタル者ト雖三十一日以上兵村ヲ離ルルトキハ其ノ兵村ヲ離ルル間扶助米及鹽菜料ヲ給與セス

第十三條 屯田兵現役中ニ於テ各兵村一中隊ノ兵村ヲ云フ以下同シニ事業場四棟ヲ給與ス

實際ノ景況ニ依リ四棟ノ建坪ヲ合セテ一棟若クハ二三棟トナシ又ハ不用ニ屬シタル官有建物ヲ改修シテ給與スルコトヲ得

事業資金トシテ各兵村ニ一時限リ六百圓ヲ給與シ事業上必要ノ器具費其ノ他ノ費用ニ充テシム

第十四條 屯田兵移住シタルトキハ各兵村ニ學校一棟及所要ノ器具ヲ給與シ且其ノ維持費トシテ一時限リ二百圓ヲ給與ス

實際ノ景況ニ由リ一兵村ノ學校ヲ二棟ニ分チ若クハ二兵村ノ學校ヲ合セテ一棟トナスコトヲ得此ノ場合ニ在テハ其ノ器具及維持費ハ之ヲ二分シ若クハ二兵村分ヲ併セテ之ヲ給與スルモノトス

第十五條 兵村ニ給與シタル事業場、學校及之ニ屬スル器具若クハ事業場學校ノ爲メニ給與シタル金額ノ管理使用ノ方法ハ第七師團長之ヲ定ム

三十年八月勅令第八百六十一號參看



屯田兵移住給與規則

七八終

第十六條 屯田兵ノ家族ニシテ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹ル者アルトキ其ノ藥劑等ハ屯田兵移住後滿三箇年間ハ之ヲ官給シ爾後五箇年間ハ豫メ定ムル所ノ代價ヲ徵收シテ之ヲ付與スルコトヲ得

第十七條 屯田兵及其ノ家族移住途中ニ於テ死亡スルトキハ實費ヲ以テ埋葬ノ費用ヲ給與シ又其ノ家族ハ屯田兵移住後滿三箇年間ニ於テ死亡スルトキハ左ノ埋葬料ヲ給與ス

- 一 五圓 七歳以上ノ者
- 二 二圓五十錢 七歳未満ノ者

附則

第十八條 明治二十七年以前ニ召募シタル者ハ第四條第十二條第十六條第十七條ヲ除クノ外ハ總テ從前ノ規程ニ依ル

●勅令第三百八十一號 (明治二十九年十二月二日)

陸軍管區表

師管聯隊區	警備隊區	管	府	縣
麻布	東京 谷區 小石川區 牛込區 芝區 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡 伊豆七島	麻布區 麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 荏原郡 豐多摩郡 赤阪區 四	府	
橫濱	神奈川 郡 橫濱市 久良岐郡 鎌倉郡 三浦郡 中郡 高座	神奈川郡 橫濱市 久良岐郡 鎌倉郡 三浦郡 中郡 高座	府	山梨
高崎	群馬 郡 埼玉 郡 入間郡 比企郡 秩父	群馬郡 埼玉郡 入間郡 比企郡 秩父	府	
長野	長野 郡	長野郡	府	
佐倉	千葉 郡	千葉郡	府	
水戸	茨城 郡 水戸市 東茨城郡 西茨城郡 那珂郡 多賀郡 久慈郡	茨城郡 水戸市 東茨城郡 西茨城郡 那珂郡 多賀郡 久慈郡	府	
本郷	東京 本郷區 淺草區 下谷區 南葛飾郡 本	東京本郷區 淺草區 下谷區 南葛飾郡 本	府	埼玉 北足立郡 南埼玉郡 北葛飾郡
宇都宮	栃木 郡 茨城 真壁郡 結城郡	栃木郡 茨城真壁郡 結城郡	府	

三十二年  
三月勅令  
第五十三  
號參看

陸軍管區表

ゾ一

陸軍管區表

小笠原島 東京 小笠原島

第 二		第 三		第 四		第 五	
佐 渡	柏 崎	新 發 田	福 島	仙 臺	和 歌 山	大 阪	大 津
新 潟 佐 渡 郡	新 潟 東 頸 城 郡 中 頸 城 郡 西 頸 城 郡	新 潟 西 蒲 原 郡 東 蒲 原 郡 北 蒲 原 郡 南 蒲 原 郡 古 志 郡	福 島 大 沼 郡 東 白 川 郡 石 川 郡 田 村 郡 南 會 津 郡 北 會 津 郡 耶 麻 郡 河 沼 郡	宮 城 仙 臺 市 宮 城 郡 柴 田 郡 刈 田 郡 伊 具 郡 互 理 郡 名 取 郡 福 島 伊 達 郡 相 馬 郡	和 歌 山 奈 良 吉 野 郡 兵 庫 津 名 郡 三 原 郡	大 阪 西 區 東 區 南 區 北 區 堺 市 東 成 郡 南 河 內 郡 中 河 內 郡 北 河 內 郡 泉 北 郡 泉 南 郡	大 津 滋 賀 三 重 阿 山 郡

陸軍管區表

第 四		第 五		第 三		第 二	
京 都	大 津	廣 島	尾 道	山 口	濱 田	熊 本	大 村
京 都 上 京 區 下 京 區 愛 宕 郡 葛 野 郡 乙 訓 郡 紀 伊 郡 宇 治 郡 久 世 郡 相 樂 郡 綴 喜 郡	大 津 滋 賀 三 重 阿 山 郡	廣 島 廣 島 市 安 藝 郡 加 茂 郡 豊 田 郡 高 宮 郡 沼 田 郡 佐 伯 郡 山 縣 郡 高 田 郡	尾 道 廣 島 神 石 郡 沼 隔 郡 蘆 田 郡 品 治 郡 安 那 郡 深 津 郡	山 口 大 島 郡 玖 珂 郡 熊 毛 郡 都 濃 郡 佐 波 郡 吉 敷 郡 厚 狹 郡 美 禰 郡 大 津 郡 阿 武 郡	濱 田 島 根 郡 原 郡 簸 川 郡 飯 石 郡 瀨 摩 郡 鹿 足 郡 郡 邑 智 郡 那 賀 郡 美 濃 郡 鹿 足 郡	熊 本 熊 本 市 飽 託 郡 宇 土 郡 玉 名 郡 上 益 城 郡 下 益 城 郡 八 代 郡 葦 北 郡 球 磨 郡 天 草 郡	大 村 長 崎 市 西 彼 杵 郡 東 彼 杵 郡 北 松 浦 郡 南 高 來 郡 北 高 來 郡 壹 岐 郡

三十一年  
五月勅令  
第二百二  
十號參看

陸軍管區表

第	七	第	六
弘前	釧路	函館	札幌
青森	旭川	函館	札幌
巖手 盛岡 宮城 秋田 山形 石川 富山 福井	北海 道 釧路 厚岸 十勝 釧路 中川 紋別 網走 根室 釧路 厚岸 十勝 釧路 中川 紋別 網走 根室 釧路 厚岸 十勝 釧路 中川 紋別 網走 根室	北海 道 函館 龜田 上磯 松前 檜山 檜志 茅部 渡島 久遠 奥尻 太櫓 瀨棚 島牧 壽都 歌棄 磯谷 後志 國 山越 郡 膽振 國	大 島 鹿 兒 島 大 島 郡 熊 毛 郡 沖 繩 沖 繩 五 島 長 崎 南 松 浦 郡 對 馬 長 崎 上 縣 郡 下 縣 郡

陸軍管區表

十	第	九	第	八
鳥取	姫路	神戶	福知山	岐阜
鳥取	姫路	神戶	福知山	岐阜
鳥取 八頭 日野 東伯 西伯	兵庫 加西 栗原 加西 栗原 加西 栗原	兵庫 神戶 神戶 兵庫 神戶 兵庫 神戶	京都 船井 船井 船井 船井 船井 船井	岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜
鳥取 八頭 日野 東伯 西伯	兵庫 加西 栗原 加西 栗原 加西 栗原	兵庫 神戶 神戶 兵庫 神戶 兵庫 神戶	京都 船井 船井 船井 船井 船井 船井	岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜
鳥取 八頭 日野 東伯 西伯	兵庫 加西 栗原 加西 栗原 加西 栗原	兵庫 神戶 神戶 兵庫 神戶 兵庫 神戶	京都 船井 船井 船井 船井 船井 船井	岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜 岐阜

考 備	第 十 二				第 十 一		
	佐賀	福岡	大分	小倉	高知	松山	徳島
一 警備隊設置迄ハ東京府小笠原島ハ麻布聯隊區ニ新潟縣佐渡ハ柏崎聯隊區ニ 島根縣周吉、穩地、海士、知夫四郡(隱岐)ハ濱田聯隊區ニ鹿兒島縣大島、熊毛 二郡ハ鹿兒島聯隊區ニ長崎縣南松浦郡ハ大村聯隊區ニ屬ス 二 臺灣ノ管區ハ他日ヲ待テ之ヲ定ム	佐賀	福岡 福岡市糟屋郡宗像郡鞍手郡嘉穂郡朝倉郡筑紫郡糸島郡早良郡八女郡浮羽郡山門郡三池郡	大分 西國東郡東國東郡速見郡大分郡 北海郡南海郡大野郡直入郡	福岡 遠賀郡企救郡田川郡築上郡	高知	愛媛 徳島	香川
	佐賀 福岡 米市三井郡		大分 下毛郡宇佐郡	山口 赤間關市 豊浦郡			

●勅令第二號 (明治三十二年一月六日)

海軍生徒學生(帝國大學等ニ於テ)及下士卒死亡セシトキ該死亡者ノ遺族若ハ親屬故  
 舊或ハ身元引受人ニシテ其ノ遺骸ノ引渡ヲ請フ者アル場合ニ於テ生徒學生及下士ニ  
 係ルトキハ二十三圓卒ニ係ルトキハ十八圓以内ノ埋葬料ヲ給與ス  
 艦團部隊ニ使役ノ傭人ニシテ死亡シタル場合ニ於テハ十八圓以内ノ埋葬料ヲ其ノ遺  
 骸ノ引渡ヲ請フ者ニ給與スルコトヲ得

海軍生徒學生及下士等ノ死亡者埋葬料ニ關スル件

海軍省令第一號 (明治三十二年二月七日)

海軍生徒學生下士卒死亡者取扱規則

第一條 生徒學生帝國大學等ニ依託ノ學生ヲ謂フ以下同シ及下士卒死亡シタルトキハ本則ニ依リ處分スルモノトス

下士卒入院中若ハ陸地療養中現役ヲ離ル、ニ際シ重症ノ爲メ引續キ療養ノ者死亡シ又ハ傷痍疾病ニ依リ現役ヲ免セラレタル者歸郷ノ途中死亡シ其ノ死體引取者ナキトキ或ハ雇員傭人規則別表ニ掲クル傭人艦團其ノ他各部内ニ居住セサル者ヲ除ク死亡シタルトキハ總テ本則ニ準シ處分スルコトヲ得但シ傭人ハ卒ニ準ス

第二條 死體ハ死後二十四時間ヲ過クルニ非サレハ之ヲ葬ル可カラス但シ傳染病死亡者ハ此ノ限ニアラス

第三條 溺死等ニテ死體ナキトキハ其ノ軍服或ハ通常軍服ヲ死體ニ代ヘ葬ルコトヲ得又傳染病死亡者ハ之ヲ火葬シ或ハ傳染病豫防法ニ依リ消毒法ヲ施シタル後埋葬スヘシ

第四條 生徒學生及下士卒海軍病院ニ於テ療養中死亡シタルトキハ病院長ハ其ノ地所在艦團其ノ他各部ノ者ニ在テハ本人所屬ノ長ニ通知シ本人所屬ノ艦船艇拔錨後

三十三年  
六月省令  
第十四號  
參看

海軍生徒學生下士卒死亡者取扱規則

チ二

若ハ其ノ他ノ場合ニ在テハ其ノ地所在ノ鎮守府兵事官ニ通知スヘシ

病院長ハ前項ニ依リ鎮守府兵事官ニ通知スルト同時ニ本人所屬ノ長ニ通知スヘシ

第五條 生徒學生及下士卒地方病院又ハ陸地ニ於テ療養中死亡シタルトキハ病院長

若ハ療養中在宿セシ家ノ戸主又ハ看護人ハ其ノ地所在艦團其ノ他各部ノ者ニ在テ

ハ死亡證書ヲ添ヘ本人所屬ノ長ニ通知シ本人所屬ノ艦船艇拔錨後若ハ其ノ他ノ場

合ニ在テハ死亡證書ヲ添ヘ其ノ地所在ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者(其ノ地

ニ海軍官廳アルトキハ該官廳、東京市ニ在テハ海軍省經理局)ニ届出ヘシ

第六條 艦團其ノ他各部ニ於テ第四條第一項及第五條ニ依リ病院長等ヨリ死亡ノ通

知ヲ受ケタルトキハ其ノ近傍ニ本人ノ親族故舊或ハ身元引受人アレハ速ニ其ノ旨

ヲ報知シ又主任者ヲ定メ其ノ葬具ヲ調ヘ死體入棺ニ會同セシメ且神道教師或ハ僧

侶ヲ祭主ト爲シ之ヲ埋葬スヘシ海軍省經理局其ノ他海軍官廳ニ於テ前條ニ依リ死

亡届ニ接シタルトキ亦同シ

第七條 生徒及下士卒艦團其ノ他各部内ニ於テ死亡シタルトキハ前條ニ準シ埋葬ス

ヘシ學生在學中死亡シタルトキハ第五條第六條及第十條ニ準ス

第八條 艦船艇乗組ノ生徒下士卒ニシテ他ノ海軍各部ニ委托療養中本人所屬ノ艦船

艇錨拔後死亡シタルトキハ其ノ委托ヲ受ケタル各部ニ於テ第六條ニ準シ埋葬スヘ

シ

第九條 生徒及下士卒地方病院又ハ陸地ニ於テ療養中本人所屬ノ艦船艇拔錨スルニ

當リ該長之ヲ不治ノ症ト認ムルトキハ其ノ旨ヲ其ノ地所在ノ市區町村長若ハ之ニ

準スヘキ者ニ通知シ豫メ埋葬ノ事ヲ依托スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ所屬長ハ速ニ其ノ旨ヲ本人在籍鎮守府ニ報告スヘシ

第十條 市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ前條ニ依リ艦船艇長ヨリ依托ヲ受ケタル

者死亡シタルトキ又ハ第五條ニ依リ死亡届ニ接シタルトキハ速ニ葬具ヲ調ヘ死體

入棺ヲ行ヒ神道教師或ハ僧侶ヲ祭主ト爲シ適宜埋葬スヘシ

第十一條 生徒學生及下士卒行旅中死亡シタルトキハ所在市區町村長若ハ之ニ準ス

ヘキ者ニ於テ明治十五年九月第四十九號布告行旅死亡人取扱規則ニ從ヒ假ニ之ヲ埋

葬スヘシ

第十二條 第十條及第十一條ニ依リ死亡者ヲ埋葬シタルトキハ市區町村長若ハ之ニ

準スヘキ者ハ速ニ其ノ時日場所等ヲ詳記シ醫師ノ死亡證ヲ添ヘ本人所屬ノ長ニ報

告スヘシ海軍省經理局其ノ他海軍官廳ニ於テ第六條ニ依リ死亡者ヲ埋葬シタルト

海軍生徒學生下士卒死亡者取扱規則

チ二

キ亦同シ

第十三條 生徒學生及下士卒ニ即死變死ノ者アルトキハ明治十三年二月第十四號公達ニ從ヒ或ハ本人所屬ノ艦團其ノ他各部ニ於テ檢視ノ後埋葬ス可シ

第十四條 生徒學生及下士卒死亡シタルトキハ本人所屬ノ長ハ生徒學生ニ在テハ海軍大臣ニ届出下士卒ニ在テハ死亡證書ヲ添ヘ在籍鎮守府ヲ經テ本籍ノ地方廳ニ通知シ地方廳ハ之ヲ死者ノ親族ニ達スヘシ但シ生徒學生ニ在テハ所屬長ヨリ死亡證書ヲ添ヘ直ニ身元引受人ニ達スヘシ

第十五條 埋葬地番人ハ埋葬ノ通知アリタルトキハ主任者ノ意ヲ承ケ葬具ヲ調ヘ神道教師或ハ僧侶ニ祭主ヲ囑托シ又其ノ葬事ヲ補助スヘシ

第十六條 死體ハ海軍埋葬地ニ葬ルヲ本則トス海軍埋葬地ナキ地方ニ在テハ該地墓地管理人ニ協議シ相當ノ地所ヲ選定シテ埋葬スヘシ又海軍埋葬地所在地ト雖モ死者ノ遺言等ニテ某埋葬地ニ葬ラレンコトヲ請フトキハ其ノ意ニ任スコトヲ得但シ其ノ地遠隔等ニテ事實行ヒ難キ場合ハ此ノ限ニアラス

第十七條 墓地ノ區畫ハ生徒學生及下士ハ方五尺トシ卒ハ方四尺トス

第十八條 墓標ハ左圖ニ基キ石材ヲ以テ之ヲ製シ其ノ正面ニ海軍生徒(學生)(何職)

(勳何等)何某之墓ト記シ左側面ニハ何<sup>府</sup>縣何族(平民)享年何十何年何箇月ト記シ右側面ニハ明治何年何月何日死ト記ス可シ

第十九條 死者ノ親族或ハ故舊ヨリ基地區畫外ニ燈籠水鉢等ヲ建設スルコトヲ許サス但シ海軍埋葬地外ニ埋葬シタル場合ニ於テハ死者ノ親族ヨリ其ノ墓地管理人ニ示談シ墓地ヲ廣メ燈籠水鉢等ヲ建設シ墓標ヲ大ニスル等ノ事ヲ爲スモ妨ケナシ

第二十條 明治三十二年勅令第二號ニ依リ支給スル埋葬料ハ左ノ區分ニ依ル

一 海軍埋葬地ニ葬ルトキハ生徒學生及下士ニハ二十圓卒ニハ十五圓トス

一 海軍埋葬地外ニ葬ルトキハ生徒學生及下士ニハ二十三圓卒ニハ十八圓トス

第二十一條 傳染病ニ罹リ死亡シタル者ニ對シ傳染病豫防法ニ依リ行フ豫防ニ關シ死體取扱ニ必要ナル費用ハ總テ官費トス

第二十二條 溺死等ニテ死體ナク軍服或ハ通常軍服ヲ以テ死體ニ代ヘ葬ル場合ト雖モ明治三十二年勅令第二號ニ依リ埋葬料ヲ支給スルヨトヲ得

第二十三條 艦團其ノ他各部ニ於テ死體ヲ葬ルトキハ第二十條埋葬料金額以內ノ實費ヲ以テ現ニ其ノ埋葬ヲ爲セシ艦團其ノ他各部ノ經費ヨリ支辨スヘシ

第二十四條 外國航海中死體ヲ外國ニ於テ埋葬シ又ハ傳染病ニ罹リタル者ノ死體ヲ

埋葬スル場合ニ於テ第二十條金額以内ニテ支辨シ難キトキハ特ニ其ノ實費拂ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者第十條及第十一條ニ依リ死亡者ヲ埋葬スルトキハ第二十條埋葬料金額以内ヲ以テ處辨シ速ニ其ノ計算書ヲ調製シ本人所屬ノ長ニ請求スヘシ

第二十六條 生徒學生及下士卒死亡シ其ノ親族故舊或ハ身元引受人ニ於テ死體ヲ引受ケ埋葬セントスルトキハ其ノ死亡ノ時ヨリ二十四時間以内ニ左記書式ニ依リ本人所屬ノ長若ハ其ノ地所在ノ鎮守府兵事官第十條ノ場合ニ在テハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者願出ヘン但シ本人死亡ノ病院或ハ所屬ノ艦團其ノ他各部内ニ親族故舊或ハ身元引受人アルトキハ時宜ニ依リ願書ヲ要セサルモ妨ケナシ

前項ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ヨリ死體ヲ引受ケ埋葬センコトヲ願出タルトキハ本人所屬ノ長鎮守府兵事官又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ該引受人ノ身元等ヲ取調ハ確實ト認メタルトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第二十七條 前條ニ依リ親族故舊或ハ身元引受人ニ死體ヲ引渡ストキハ先ツ之ヲ歛シ棺上ニ白布ヲ覆フヘシ但シ此ノ費用ハ死體引受人ニ於テ埋葬料中ヨリ支辨スル

モノトス

第二十八條 生徒學生及下士卒歸省中死亡シタルトキ其ノ親族故舊或ハ身元引受人ハ第二十六條ノ手續ヲ要セス直ニ之ヲ埋葬スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ醫師ノ死亡證書ヲ添ヘ其ノ時日場所等ヲ詳記シ速ニ本人所屬ノ長ニ届出ヘシ

第二十九條 第二十六條ニ依ル親族故舊或ハ身元引受人ニ於テ死亡者ヲ埋葬シタルトキハ速ニ其ノ時日場所等ヲ詳記シ本人所屬ノ長其ノ地所在ノ鎮守府兵事官又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ届出ヘシ

第三十條 生徒學生及下士卒死亡シタルトキハ本人所屬ノ艦團其ノ他各部ノ長ハ其ノ遺物ヲ取纏メ官給品ハ成規ニ從ヒ主管廳ニ返付シ私有物ハ本人ノ親族或ハ身元引受人所在ノ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ニ送付シ本人ノ親族或ハ身元引受人ニ下付セシム但シ時宜ニ依リ直ニ死者ノ親族或ハ身元引受人ニ下付スルコトヲ得

第三十一條 生徒學生及下士卒海軍病院或ハ地方病院等ニ於テ死亡シタルトキハ海軍病院長或ハ第五條ニ依リ死亡ノ届出ヲ受タル者ハ其ノ遺物ヲ本人所屬ノ長ニ送附スヘシ但シ便宜ニ從ヒ直ニ前條ニ準シ處分スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者ハ速ニ運送費計算書ヲ調製シ本



人所屬ノ長ニ請求スヘシ

第三十二條 市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者第三十條及第三十一條ニ依リ遺物ヲ親族或ハ身元引受人ニ下付シタルトキハ其ノ領收證書ヲ得テ本人所屬ノ長ニ送付スヘシ

死體引受願(歸省中死亡者ニハ埋葬料請求書ノミトス)

海軍生徒(學生)(何官)

何 某

右ノ者何地海軍病院(何地)病院(何地)ニ於テ死亡仕候ニ付テハ私儀親族(故舊)(身元引受人)ニ付本人死體引受埋葬仕度候條御許可被成下度此段奉願候也

年 月 日

何府縣何市町村何番地

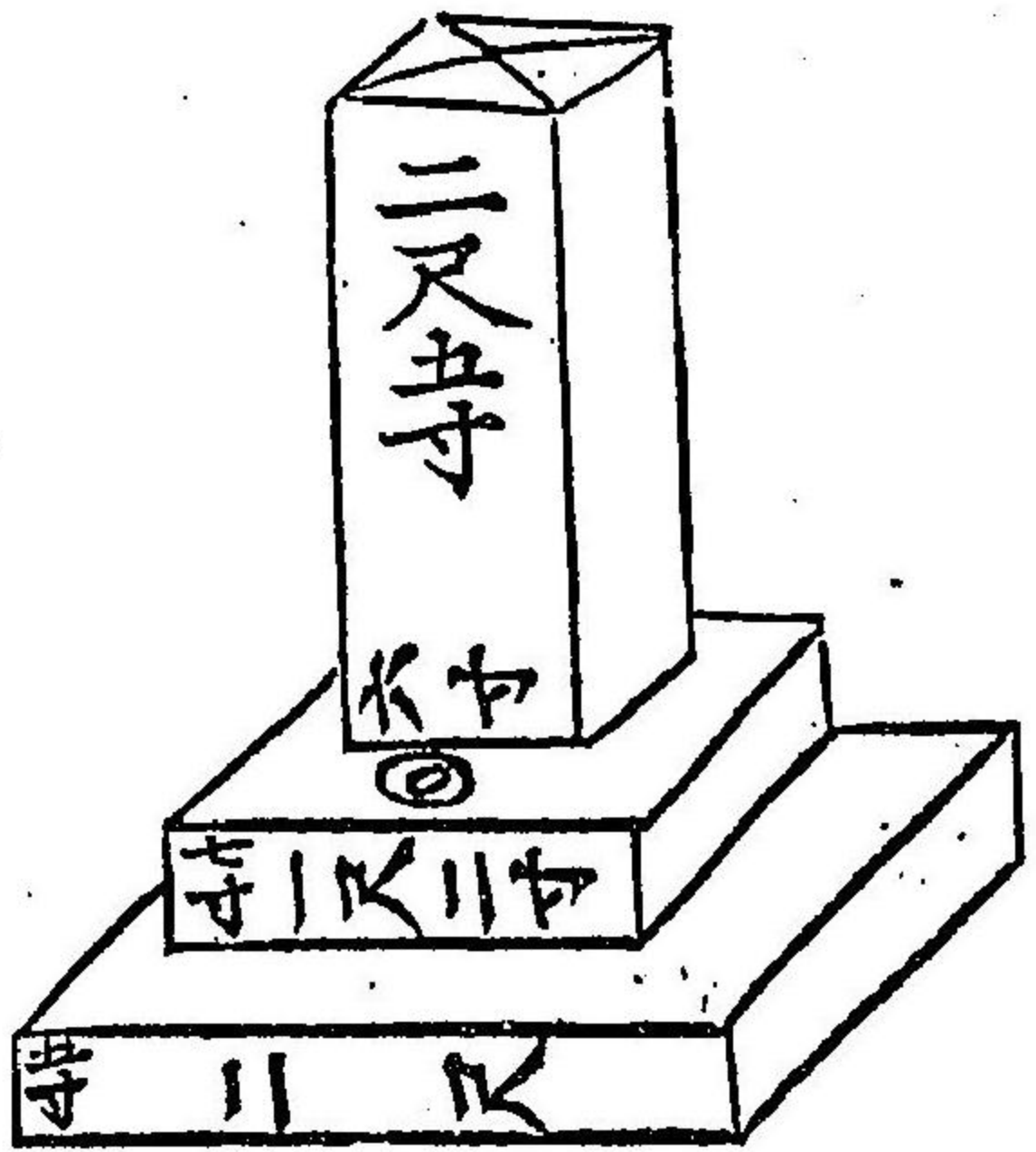
親族(故舊)(身元引受人) 何 某 印

何府縣何市町村何番地

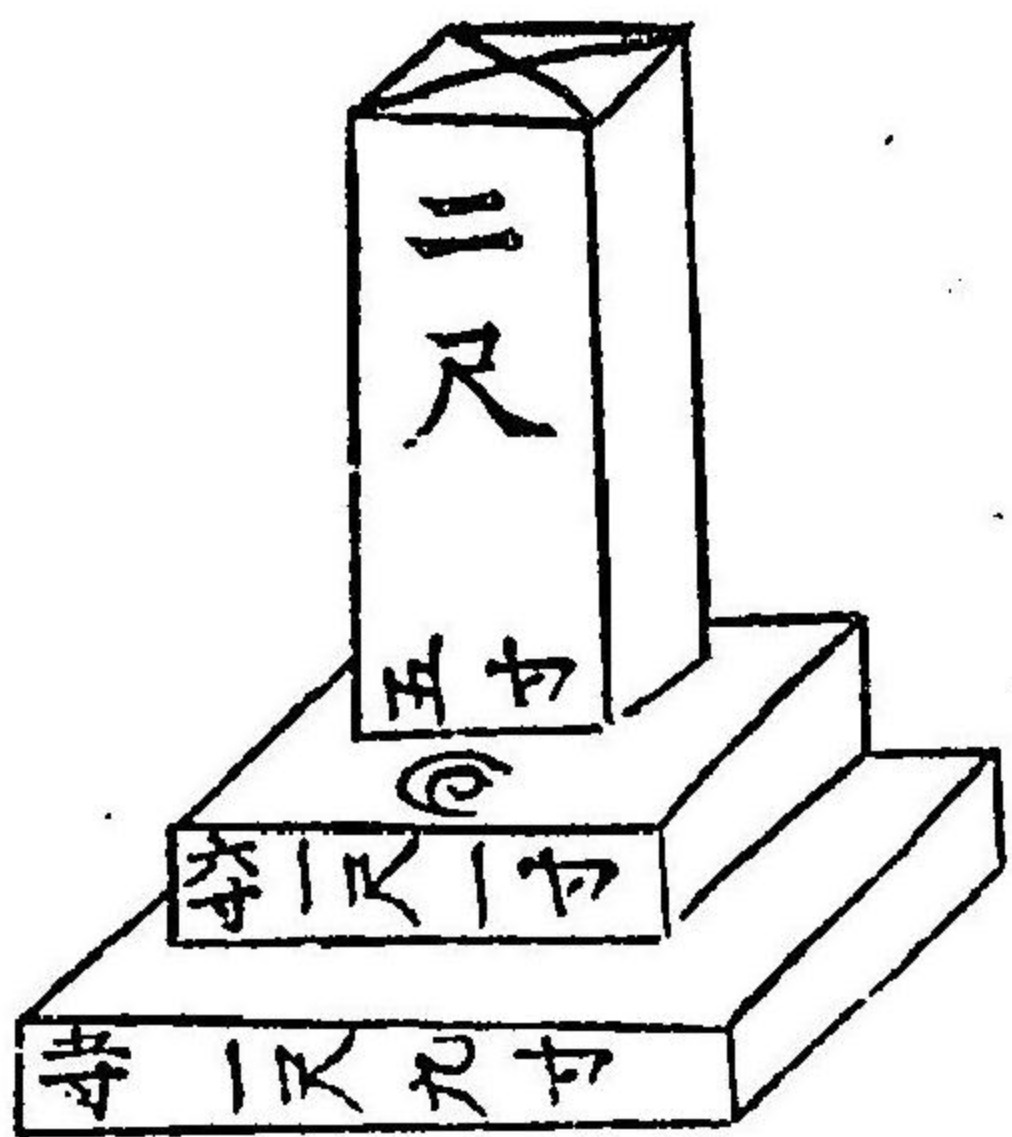
保證人 何 某 印

死亡者所屬長鎮守府兵事官又ハ市區町村長若ハ之ニ準スヘキ者宛追テ海軍埋葬地内(外)ニ埋葬仕候條御成規ノ埋葬料御下賜被成下度候也

生徒學生及下士卒墓標



卒墓標



●勅令第二百二十二號 (明治三十二年六月六日)

陸軍給與令

第一章 總則

第一條 陸軍軍人各部各隊及特ニ本令ニ規定シタル軍屬ニ係ル給與ハ本令ニ依ル

第二條 本令ニ於テ名稱ヲ區別スルコト左ノ如シ

一 軍隊ト稱スルハ歩兵、騎兵、砲兵、工兵、輜重兵ノ各隊及警備隊ヲ謂フ

二 下士兵卒ト稱スルハ各兵科其ノ他ノ下士兵卒及看護手、樂手補、喇叭卒諸工ヲ

謂フ

三 諸生徒ト稱スルハ生徒及士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習

軍吏、依託學生、依託生徒、下士候補生學生ヲ除クヲ謂フ

四 下士以下ト稱スルハ本條第二第三ニ掲クルモノヲ謂フ

五 營内居住ト稱スルハ屯營及學校内ニ居住スルヲ謂フ

第三條 削除

三十二年  
十一月  
勅令第四百  
十三號  
參看

第二章 俸給

第四條 俸給ヲ分テ左ノ三種トス

一 俸給 准士官以上ニ給スルモノ

二 給料 下士兵卒ニ給スルモノ

三 手當金 諸生徒ニ給スルモノ

第五條 准士官以上現役中ノ者ノ俸給ハ第一表ニ依ル但シ停職中ハ其ノ半額ヲ給ス

第六條 准士官以上在職ノ者ニハ第二表ノ職務俸ヲ加給ス其ノ區別ハ陸軍大臣之ヲ

定ム但シ親補職ニ在ル中將ハ大將ノ年額ヲ給シ外國留學ヲ許サレタル者ニハ職務俸ヲ給セス

第七條 現役下士兵卒ノ給料ハ第三表甲諸生徒手當金ハ第四表ニ依ル

第八條 下士兵卒ニシテ左ノ事項ニ當ル者ニハ前條給料ノ外加俸ヲ給ス其ノ定額第

一號ニ當ルトキハ第五表ニ第二號乃至第七號ニ當ルトキハ第六表ニ依ル

一 營外居住ノ者ニハ外宿加俸ヲ給ス

二 下士ニシテ現役中四箇年、六箇年若ハ八箇年ヲ經過シ營内居住ノ者ニハ年功加俸ヲ給ス

三 憲兵下士、上等兵ニハ憲兵加俸ヲ給ス

四 警備隊下士、兵卒ニシテ外泊ヲ許シタル者ニハ外泊加俸ヲ給シ二箇年以上在隊ノ下士、上等兵、看護手ニハ在隊加俸ヲ給ス但シ年功加俸ヲ給スルトキハ在隊加俸ヲ給セス

五 營内居住タル諸學校附下士ニハ學校附加俸ヲ給ス

六 一、二、三等諸工長、下士ニシテ火工掛ヲ命セラレタル者、樂手、樂手補、縫工、靴工ニハ技術加俸ヲ給ス

七 憲兵下士、上等兵ニシテ通譯ヲ命セラレタル者ニハ通譯加俸ヲ給ス

第九條 俸給ハ毎月下旬之ヲ給ス但シ營内居住ノ下士以下ハ毎旬之ヲ給ス

第十條 藥劑監、獸醫監、一等軍吏、樂長及上等工長ニシテ多年勤勞成績顯著ナル者ニハ陸軍大臣之ニ第七表ノ特別俸ヲ加給スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ第六

條ノ職務俸ヲ給セス

第十一條 一等給、二等給、三等給及下士特別給ヲ給セラルル者ノ定員並技術加俸、通譯加俸ノ支給區分ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十二條 上級ノ職務心得勤ヲ命セラレタル者ニハ第二表職務俸ノ外上級官等ノ職務俸十分ノ二ヲ加給ス但シ上級ノ職務俸ニ一二等給アルモノハ其ノ二等給ニ依ル

第十三條 削除

第十四條 陸軍部内ニ於ケル兼職又ハ武官ニシテ文官ニ任セラレタル者ニハ俸給ノ多額ニ就キ之ヲ給ス

武官宅料ハ之ヲ武官俸給ニ合算ス

第十五條 休職、停職、豫備役、後備役、退役ト爲リタル者ニハ事務引渡中在職又ハ現役ニ準シ俸給ヲ給ス

第十六條 豫備役、後備役ノ准士官以上召集中ハ在職ニ準シ俸給ヲ給ス但シ俸給ニ一、二等アルトキハ二等給ニ依ル

三十三年七月勅令第三百二十二號參看

豫備役、後備役下士、兵卒及補充兵召集中ノ給料ハ第三表乙ニ依ル但シ戰時若ハ事變ノ爲召集セラレタル者及平時部隊ノ職務ニ就キタル者ニ對シテハ現役ノ例ニ依ル

第十七條 准士官以上及下士以下請願休暇病氣引籠拘禁留置中又ハ擅ニ職役屯營本隊ヲ離レ又ハ他方ニ赴キ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキハ俸給ヲ減却シ又ハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

軍屬ニシテ判任以上ノ者請願休暇病氣引籠ヲ除ク外前項ノ場合ニ於テハ軍人ニ準ス

第三章 宅料

第十八條 宅料ハ在職准士官以上及營外居住ノ現役下士兵卒ニ給ス其ノ月額ハ第八表ニ依ル營内居住ノ下士諸學校ニ入學中外宿セシムルトキ亦同シ

前項宅料ハ毎月下旬之ヲ給ス

豫備役、後備役下士以上ニシテ平時部隊ノ職務ニ就キタル者ノ宅料ハ前二項ニ準ス

第十九條 武官ニシテ文官ニ任セラレ文官ノ俸給ヲ受クル者官舎ニ居住スル者及赴

任旅行中ノ者ニハ宅料ヲ給セス

第二十條 擅ニ職役屯營本隊ヲ離レ又ハ故ナク歸著ノ期ニ後レタルトキ及禁錮中ハ宅料ヲ停止スルコトアルヘシ

第四章 糧食

第二十一條 糧食ハ准士官以上及營外居住ノ下士以下ニ在テハ自辨トシ營内居住ノ下士以下及糧食自辨ノ者ニシテ公務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ病院ニ入ル者並營内居住ノ下士以下現役ヲ離レ又ハ召集解除ノ際疾病其ノ他ノ事故ニ因リ歸郷セシメ難キ者ニ在テハ官給トス其ノ定額ハ第九表ニ依ル但シ幼年學校生徒中半官費生及同半特待生ニハ精米ヲ官給シ賄料ヲ自辨セシム

士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏、豫備役後備役見習士官、豫備役後備役見習醫官、豫備役後備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏、幼年學校官費生徒、同特待生、獸醫學校生徒明治三十一年以前召募生徒ニ限ルニハ増賄料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

第二十二條 軍隊ノ糧食ハ營内居住ノ下士以下現人員ニ應シ定額ヲ交付ス

第二十三條 營内居住ノ下士諸學校ニ入學シ外泊ヲ命セラレタルトキ並准士官以上及營外居住ノ下士以下及軍屬傳染病流行ノ際病院ニ詰切ヲ命セラレ且交通ヲ遮斷セラレタルトキハ食料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル

第二十四條 准士官以上及下士以下演習中露營若ハ夜間作業又ハ夜中行軍スルトキ及憲兵下士上等兵夜中巡邏スルトキ其ノ他下士兵卒不寢番ヲ爲ストキハ夜食料ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル軍屬並馬丁亦之ニ準ス

第二十五條 准士官以上下士以下野外演習中自炊ヲ爲ストキ若ハ演習召集ノ際屯營内ニ詰切ヲ命セラレタルトキ又ハ衛戍分遣隊服務中ハ糧食ヲ給ス其ノ定額ハ第九表ニ依ル軍屬馬丁亦之ニ準ス

諸隊連合野外演習中自炊ノトキ各隊糧食ノ定額異ナルトキハ其ノ多額ニ從テ之ヲ給スルコトヲ得

陸軍糧餉部ノ貯藏ニ係ル出師準備用ノ糧食品ハ新陳交換ノ爲平時軍隊ノ定額賄料

ニ換ヘテ之ヲ給スコトヲ得其ノ數額ハ第十表ニ依ル  
前項ノ場合ニ在テハ薪代其ノ他ノ諸費トシテ補助賄料ヲ給ス其ノ定額ハ陸軍大臣  
之ヲ定ム

第二十六條 拘禁、留置、懲罰中ノ者ニハ糧食憲兵隊ノ留置場ヲ給ス其ノ定額ハ第十  
一表ニ依ル

第二十七條 諸學校及病院ニ在テハ第二十一條第二十四條第二十五條及第二十六條  
ノ給與ハ現人員ニ應シ定額ヲ交付シ隊長、校長若ハ院長ニ其ノ經理ヲ委任ス

第二十八條 未決監已決監ニ入監中ノ者ノ糧食ハ現人員ニ應シ定額ヲ交付シ監獄長  
ニ其ノ經理ヲ委任ス但シ監獄ニ於テ營倉處分執行中ノ者ノ糧食亦同シ

第五章 被服

第二十九條 被服ハ准士官以上及營外居住ノ下士ニ在リテハ自辨トシ營内居住下士  
以下及營外居住ノ兵卒ニ在リテハ官給トス

第三十條 士官及准士官ニハ初任ノトキ服裝手當ヲ給ス

士官初メテ乘馬本分ノ職ニ就クトキ又ハ乘馬本分タル上長官ノ職務心得勤ヲ命セ  
ラレタルトキハ馬裝手當ヲ給ス

各兵科士官轉科スルトキハ轉科服裝手當ヲ給ス

服裝、馬裝及轉科服裝手當ノ定額ハ第十二表ニ依ル

營内居住ノ下士營外居住ニ轉スルトキハ被服一揃ヲ給ス

第三十一條 營内居住ノ下士以下士官候補生、見習醫官、見習藥劑  
官、見習獸醫官、見習軍吏ヲ除ク被服ハ現品ヲ給  
ス其ノ數額ハ第十三表及第十四表ニ依ル但シ定員増加ノトキハ初度第十五表ノ數  
額ヲ給ス

第三十二條 憲兵上等兵ノ被服ハ現品ヲ以テ給シ樂手補ノ被服ハ現品ト代金ト二分  
チ之ヲ給ス又喇叭卒ノ被服ハ代金ヲ以テ給ス其ノ員數ハ第十三表其ノ定額ハ第十  
六表ニ依ル但シ定員増加ノ場合ニ在リテハ前條但書ニ同シ

士官候補生、見習醫官、見習藥劑官、見習獸醫官、見習軍吏ニハ被服料ヲ給シ召集中  
ノ豫備役、後備役下士以下及第一補充兵並六週間現役兵ニハ被服保續料ヲ給ス其

三十三年  
三月勅令  
第三百三十  
一號參看

ノ定額ハ第十七表ニ依ル

第三十三條 軍隊、諸學校並病院、病室ニハ所要ノ被服ヲ備附ク其ノ員數ハ第十八表第十九表及二十表ニ依ル

第三十四條 第三十一條及第三十二條ノ給與第三十三條ノ備附品ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ交付ス

一 軍隊ニ在テ下士兵卒給與ノ現品ハ定員一箇年間歸休セシムル者ヲ除クニ應シ備附品ハ定數ニ依リ地質ト金額トニ分チ之ヲ交付ス

二 憲兵隊、軍樂隊、諸學校及病院、病室ニ於ケル下士以下ニ給與スル現品ハ現員ニ應シ備附品ハ定數ニ依リ地質ト金額トニ分チ之ヲ交付ス

三 被服代金ノ給與ハ現員ニ應シ定額ヲ各自ニ交付ス

四 被服料及被服保續料ノ給與ハ現員ニ應シ定額ヲ軍隊ニ交付ス

第三十五條 前條第一第二ニ掲クル地質ノ定尺及金額ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十六條 營内居住ノ下士以下ニハ被服手入品料トシテ軍隊ニ在テハ下士兵卒ノ

定員一箇年間歸休セシムル者ヲ除クニ應シテ之ヲ交付ス其ノ定額ハ第十七表ニ依ル

諸學校ニ在テハ下士兵卒及生徒ノ現員ニ應シ被服手入品料ヲ交付シ校長ニ其ノ經理ヲ委任ス

第三十七條 下士以下被服ノ所持定數及其ノ還納、付與並損壞、遺失、投棄品等ノ補償ニ關スル規定ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第三十八條 動員ノ際各部各隊ニ屬スル豫備役後備役下士兵卒並補充兵所要ノ被服ハ其ノ定員ニ應シ現品若ハ金額ヲ以テ漸次各師團ニ交付ス

### 第六章 馬匹

第三十九條 士官以上乘馬本分ニシテ現ニ乘馬ヲ飼養スル者ニハ其ノ飼養期間馬糧及繫畜料ヲ給ス其ノ定額ハ第二十一表ニ依ル

前項ノ馬糧ハ一箇月以内ノ數量ヲ前渡シ繫畜料ハ毎月下旬之ヲ給ス但シ馬糧ハ代金ヲ以テ繫畜料ト共ニ給スルコトヲ得

第四十條 騎兵、砲兵、輜重兵ノ隊馬ニハ馬糧及裝蹄料剔毛料トシテ其ノ現馬數ニ應

シ定額ヲ交付ス憲兵隊裝蹄料別毛料ヲ除ク諸學校騎兵實施學校ニ在テハ亦之ニ準シ定額ヲ交付シ隊長若ハ校長ニ其ノ經理ヲ委任ス其ノ定額ハ第二十一表及第二十二表ニ依ル

第四十一條 憲兵ノ隊馬ニハ裝蹄費、別毛費、軍馬補充部支部ノ繫畜馬匹ニハ飼養費及裝蹄費、別毛費、預託馬匹ニハ預託料、放牧馬匹ニハ放牧食鹽費トシテ各其ノ現馬數ニ應シ定額ヲ交付ス其ノ定額ハ第二十二表ニ依ル

第四十二條 騎兵、砲兵、輜重兵ノ各隊及諸學校ニハ裝蹄及別毛器械ヲ初度現員ニテ備附ケ爾後裝蹄料別毛料ノ内ヲ以テ之ヲ保續セシム

第四十三條 少佐及同相當官ニシテ初テ乘馬本分ノ職ニ就クトキハ馬匹手當ヲ給シ其ノ副馬ヲ要スル職ニ就クトキハ別ニ之ヲ給ス其ノ定額ハ第二十二表ニ依ル  
士官ニシテ乘馬本分タル上長官ノ職務心得勤ヲ命セラレタル者ハ前項ニ準ス

第四十四條 乘馬本分タル士官ノ乘馬ハ初度馬匹購買料ヲ給シ爾後ハ馬匹保續料ヲ給ス其ノ定額ハ第二十二表ニ依ル

前項ノ定額ハ定馬數ニ應シ之ヲ各所管ノ委員ニ交付シ其ノ經理ヲ委任ス但シ定額ナキモノハ現馬數ニ依ル

第四十五條 前條ノ乘馬飼養中ハ馬糧及繫畜料ノ定額ヲ給スト雖轉任轉職又ハ諸學校學生トシテ派遣中ハ該馬匹ヲ返還セシメ馬糧及繫畜料ノ定額ヲ委員ニ交付シテ繫畜セシムルコトヲ得但シ一箇年以内派遣ノ者ニ限り其ノ儘飼養セシムルコトヲ得

諸學校附ノ士官ニシテ隊附勤務ノ爲軍隊ニ派遣中ニ在ル者亦前項ニ同シ

第四十六條 憲兵ノ隊馬軍馬補充部支部ノ繫畜馬匹ニハ馬藥費トシテ定馬數若ハ繫畜馬數ノ十分ノ一二相當スル定額ヲ交付ス其ノ定額ハ第二十二表ニ依ル

第四十七條 繫畜料ヲ受クル者軍隊旅行、演習旅行又ハ陣營移轉ノトキハ増飼及増繫畜料ヲ給ス其ノ定額ハ第二十一表ニ依ル但シ増飼ハ代金ヲ以テ支給スルコトヲ得

騎兵、砲兵、輜重兵、憲兵ノ隊馬諸學校ノ馬匹前項ノ場合ニ在テハ第二十一表ノ増



飼ヲ給スルコトアルヘシ

第七章 消耗品

第四十八條 軍隊ノ消耗品ヲ分テ消耗品料及煖室用薪炭料ノ二種トシ定額ヲ交付ス其ノ定額ハ第二十三表及第二十四表ニ依ル

第四十九條 豫備役、後備役准士官以上及下士兵卒並補充兵召集中ノ消耗品料ハ定額ヲ所屬隊ニ交付ス其ノ定額ハ第二十五表ニ依ル

第五十條 軍隊ニシテ全隊ヲ成ササル間ニ於ケル消耗品料ノ定額ハ第二十五表ニ依ル但シ歩兵砲兵聯隊本部ノ定額ハ第二十三表ニ依ル

第五十一條 第四十九條及第五十條ニ於テ第二十五表ニ依ル消耗品料ハ現人員ニ應シ之ヲ交付ス

第五十二條 煖室用薪炭料ハ煖室器備附ノ現數及焚方期限ニ應シ之ヲ交付ス但シ焚方期限ハ第二十四表ニ依ルト雖其ノ定額以內ヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第八章 陣營具

第五十三條 軍隊ノ陣營具ハ之ヲ分テ左ノ四種トス

一 營中具

二 隊中具

三 庖廚具

四 廐舎具

第五十四條 軍隊ノ陣營具ハ初度現品ヲ備附ケ爾後毎月永續料トシテ定額ヲ交付ス其ノ定額ハ第二十六表ニ依ル

第五十五條 豫備役後備役准士官以上及下士兵卒並補充兵召集中ノ陣營具永續料ハ定額ヲ其ノ隊ニ交付ス其ノ定額ハ第二十七表ニ依ル

第五十六條 軍隊ニシテ全隊ヲ成ササル間ニ於ケル陣營具永續料ノ定額ハ第二十七表ニ依ル但シ歩兵砲兵聯隊本部ノ定額ハ第二十六表ニ依ル

第五十七條 第五十五條及第五十六條ニ於テ第二十七表ニ依ル陣營具永續料ハ現人

員又ハ現馬數ニ應シ之ヲ交付ス

第九章 雜則

第五十八條 營内居住ノ下士以下死亡スルトキハ埋葬料ヲ給ス其ノ定額ハ第二十八表ニ依ル豫備役後備役下士兵卒補充兵召集中死亡スルトキ亦同シ

附則

本令第十三表品目中第二種帽、絨衣袴、夏衣袴、外套及各種背囊ニ限リ陸軍大臣ニ於テ當分ノ内其ノ保存期限ヲ第二十九表ノ如ク伸縮スルコトヲ得

本令ハ明治三十二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現役下士以下ニシテ陸軍武官官等表改正等ノ爲本令ノ給與金額従前ノ給與金額ヨリ減少スル者ニハ月額六圓以内ノ特別増俸ヲ加給ス其ノ階級ニ應スル區分及給與期限ハ陸軍大臣之ヲ定ム

本令施行ノ際現任特務曹長ニハ現在支給ノ被服ヲ付與ス

本令ハ明治三十三年六月十六日以降召集ニ應シタル者ニ適用ス

第一表 現役俸

官名	年額	官名	年額
大將	三千圓	少佐	五百十六圓
中將	二千圓	中尉	三百圓
少將	一千五百七十五圓	中尉	二百二十八圓
大佐	千五百十六圓	少尉	二百八十圓
中佐	千百十六圓	少尉	百八十圓
大佐	千百十六圓	准士官	百二十圓
中佐	八百十六圓		

第二表 職務俸

官名	年額	
	甲	乙
大將	三千圓	
中將	二千圓	
少將	千五百七十五圓	

陸軍給與令

名	稱	等級	月	額	名	稱	月	額
大	同相當官	佐		千二百三十六圓				
中	同相當官	佐		九百三十六圓				
少	同相當官	佐		六百三十六圓				
大	同相當官	尉		六百三十六圓				
中	同相當官	尉		五百六十四圓				
大	同相當官	尉		一等五百四十圓				
中	同相當官	尉		二等四百二十圓				
少	同相當官	尉		一等三百十二圓				
同	同相當官	尉		二等二百四圓				
少	同相當官	尉		一等三百六十圓				
同	同相當官	尉		二等三百圓				
准	准士官			一等三百六十圓				
				二等三百圓				
				二等二百四十圓				
				二百一圓				

備 明治三十二年六月六日現在ノ中尉、同相當官、少尉、同相當官タル者ノ職務俸額  
本表ノ給額ト異ルトキハ其ノ職務ニ在ル間ニ限り其ノ多額ニ從テ之ヲ給ス但シ  
考 憲兵司令部及憲兵隊附中(少)尉ニ限り職務ヲ轉スルモ尙多額ニ依ル

第三表甲 給料

名	稱	等級	月	額	名	稱	月	額
曹長並相當官		特別	十	十五圓	上等兵			一圓五十錢
一等諸工長		一等		十二圓九十錢	看護手			
		二等		十一圓四十錢	憲兵上等補兵			二圓六十四錢
軍曹並相當官		一等		九圓	樂手			
		二等		八圓十錢	一等縫工卒			一圓二十錢
二等諸工長		三等		七圓二十錢	二等縫工卒			
		四等		六圓六十錢	二等靴工卒			九圓十錢
伍長並相當官				四圓五十錢				
三等諸工長								

備 短期下士ノ給料ハ月額一圓八十錢トス  
輸卒、助卒及看護卒ノ給料ハ二等卒ノ給料ニ同シ  
考 特別給ヲ給スルハ營外居住者ニ限ル

第三表乙 召集中給料

曹長並相當官 一等諸工長	一等	四圓五十錢	上等兵	一圓五十錢		
	二等	三圓六十錢				
	一等	三圓			看護手	
	二等	二圓七十錢				
軍曹並相當官	三等	二圓四十錢	樂手補	二圓六十四錢		
	四等	二圓十錢				
	二等諸工長	諸			諸工卒	九 十 錢
		諸				
伍長並相當官 三等諸工長	諸	諸工卒	九 十 錢			
	諸					

備 豫備役、後備役見習士官、豫備役、後備役見習醫官、豫備役、後備役見習藥劑官、豫備役見習獸醫官、豫備役見習軍吏ノ給料ハ月額四圓五錢トシ補充兵ノ給料ハ諸卒ノ給料トス

第四表 手當金

名	稱	月	額	名	稱	月	額
---	---	---	---	---	---	---	---

衛生部依託學生	十	五	圓	砲兵工科學校生徒	九	十	錢
獸醫部依託學生	十	二	圓	經理學校生徒	九	十	錢
軍醫學校生徒	十	二	圓	獸醫學校生徒	九	十	錢
衛生部依託生徒	十		圓	軍樂學校生徒	一	圓	五十錢
獸醫部依託生徒	十		圓	陸地測量部修技所生徒	十		圓

備 明治三十一年以前召募ノ士官候補生ハ中央幼年學校出身者ニ在リテ及同年以前召募ノ獸醫學校生徒、同生徒ニシテ見習獸醫官ヲ命セラレタル者、中央幼年學校生徒ニハ從前ノ手當金ヲ給ス

第五表 外宿加俸

曹長並相當官	八	圓	十	憲兵上等兵	七	圓	三十六錢
軍曹並相當官	七	圓	九十錢	樂手補	七	圓	三十六錢
二等諸工長	七	圓	九十錢	諸卒	七	圓	九十錢
伍長並相當官	七	圓	九十錢	諸工卒	七	圓	九十錢
三等諸工長	七	圓	九十錢	諸工卒	七	圓	九十錢